

地平民日稼

黒田金次郎

明治十六年十一月

三十年五月

右善太郎外一名カ恐喝取財被告事件豫審終結言渡ニ對スル故障ニ付明治十六年十一月二十四日富山輕罪裁判所會議局ニ於テ其荒瀬孫平等ヲ恐喝シタルコトハ畜ニ証人ノ陳述ノミナラス被告黒田金次郎ノ豫審調書ニ依ルモ亦明晰ナレハ豫審掛カ被告共ヲ犯罪者ナリト認定シタルハ適當ナルノミナラス治罪法第二百四十六條第三項ノ限外ニ涉ルヲ以テ被告ノ故障ハ相立スト言渡シタル判決ニ服セス被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ荒瀬孫平等ヨリ金圓ヲ領收シタルハ全ク純粹ノ貸借ニ出テタルモノナルニ豫審掛ニ於テ治罪法第百八十條第二項ニ抵觸セル無効ノ証人タル荒瀬孫平及ヒ其妾片桐「ツユ」又原告ノ一人ナル町尻善三郎ノ陳述ヲ採リ他ニ何等ノ証憑モアラサルニ恐喝取財ノ認定ヲ下シタルハ不當ナルニ原會議局ニ於テモ亦被告金次郎ハ孫平等ヲ恐喝シタリト陳述シタルコトナキニ其判決書ニ畜ニ証人ノ陳述ノミナラス被告黒田金次郎ノ豫審調書ニ依レハ荒瀬孫平等ヲ恐喝セシコト明晰ナリトノ文詞ヲ掲ケ右不當ノ豫審終結言渡ヲ認可シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ外ナラス原檢察官土屋次郎八原會議局ノ判決ハ允當ニシテ被告ノ上告ハ其理由ナキヲ以テ棄却アラントモ求ムル旨答辯セリ

爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

上告人等ニ於テ豫審掛及ヒ原會議局カ法律ニ抵觸シ効力ナキ証人ノ陳述ヲ採リタルハ不當ナリト云フト雖モ原訴訟書類ヲ監査スルニ皆適法ノ証人ニシテ毫モ上告人カ論難スルカ如キ不當アルヲ見サルハ勿論本案上告論旨タル其歸スル處法律上裁判官ニ任從スル職權内ニ立入り探証及ヒ事實認定ニ不滿ヲ鳴シ覆審ヲ求ムルモノニ過スシテ一モ治罪法第四百十條各項目ニ適合スル上告ノ原由ナキヲ以テ同第四百廿七條ニ從ヒ本按上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第二千八十七號

○判文(受寄財産費消) 明治十六年六月五日上告  
同 十七年六月廿二日發付

福島縣岩代國伊達郡二ノ袋

村六十五番地平民味右衛門

長男

木村 儀助

明治十六年五月

四十三年九月

右儀助カ被告事件ニ付明治十六年五月十八日大河原治安裁判所ニ開キタル仙臺輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百九十五條及ヒ同第三百九十七條第百十二條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ仍ホ同第八十九條第九十條ニ從ヒ二等ヲ酌量シ重禁錮一月七日ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告儀助上告爲シタル要領ハ第一公判言渡ノ際檢察官ノ立會ナキニ宣告セラレシハ裁判構

成ニ背キタルトノ第二本件証人等ノ陳述ハ一己ノ想像ニ出テタルモノニシテ犯罪ノ證據トスルニ足ラサルヲ之ヲ證據トシ無罪ノ被告ヲ有罪ト判定セラレタルハ探証法ヲ誤リタル越權ノ處分ナリ第三犯罪人ニアラサル被告ヲ刑法第三百九十五條ニ擬シ刑ヲ言渡サレタルハ擬律ノ錯誤ナリ第四被告カ株主ヨリ取立タル金ハ計算終了ノ上出納掛ヘ交付スヘキモノヲ原判文ニ金員ハ直チニ出納掛ヘ交付スルモノ、如ク又金員携帶シテ歸家セシハ明治十六年四月十六日ナルニ四月十五日ト掲載サレタルハ事實理由ニ齟齬アル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ同裁判所檢事代理警部補齋藤定一ハ上告ノ理由ナキヲ駁論シ原裁判ハ允當ナリト答辯セリ

茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事林三介ハ被告上告ハ一モ破毀ノ原由ト爲スニ足ラサル旨ノ意見ヲ述ヘ而テ附帶上告ヲ爲スノ旨要ハ原判文ニ於テ單ニ費消セントシタルモノト認定ストアルノミニシテ其文意曠漠ナレハ果テ費消ニ着手シタルカ將タ豫備ノ所爲ニ止マルカ知ル能ハス隨テ其未遂犯ナリト斷了シタルハ適當ナルヤ否ヲ檢スルニ由チキモノニシテ治罪法第四百十條第九項ニ相當スルモノト思料スルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ請求スト陳辯セリ因テ審理判決スル左ノ如シ

明治十四年第五十四號布告ニ刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テハ當分ノ内輕罪ニシテ檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込ム者ニ限リ始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スヲ得ヘシ但本文ノ場合ニ於テ訟廷内治罪ノ手續ハ便宜可取計且其手續上ニ付テハ上訴ヲ許サストアリテ本按被告事件ハ該布告ニ從ヒ治安裁判所ニ

於テ開キタル輕罪審判ニ付即チ訟廷内ノ治罪手續ハ便宜ノ取計ヒナ以テ爲シタルモノナレハ被告カ上告第一ノ旨趣ハ素ヨリ上訴ヲ許サ、ルモノナリ又第二乃至第四ノ旨趣中越權又ハ擬律錯誤或ハ事實理由ニ齟齬アリト掲擧スルモ其論旨ノ歸スル所ハ承審官ノ職權ヲ以テ爲シタル証憑ノ採擇事實ノ判定ヲ批難スルニ過キサレハ被告カ上告ハ渾テ其理由ト爲スヲ得ス然リト雖原判文ヲ檢審スルニ前畧與風不良心ヲ生シ被告ハ登時世話掛ヲ以テ社ノ委囑ヲ受ケ株主中ヨリ取立タル金員直チニ該社出納掛ヘ交付スヘキ分四百餘圓其場ヲ持抜キ費消セントシタルモノト判定ストアリテ其四百餘圓ヲ持抜タル事實アルニ於テハ刑法第三百九十五條末項拐帶云々トアルニ該當スルヲ以テ同第三百九十九條ニ依據シ所斷スヘキモノ、如キモノ々々費消セントシタルモノトアレハ受託金ヲ擅ニ費消セント爲タル事實ナルカ如クアリテ前後其理由撞着セリ又果テ費消受寄罪ノ未遂犯ナリトセハ附帶上告旨趣ノ如ク其費消セントシタル所爲ナカルヘカラス然ルニ原裁判ハ此等ノ事實理由ヲ缺キタルノミナラス前後齟齬スル事實判定ニシテ即チ治罪法第三百四條ニ背反シタル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ福島輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

第二千八百八號

○判文(財産藏匿)明治十六年五月二日上告  
 同 十七年六月廿三日發付

東京府京橋區永島町十三番  
 地平民ブリキ商

明治十六年四月  
四十年

明治十六年四月十三日東京輕罪裁判所ニ於テ右山田啓次郎カ被告事件ヲ審判シ刑法第三百八十八條ニ依リ仍ホ同第八十九條第九十條ニ照シ酌量シテ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮一月十五日ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セズ被告人啓次郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領刑法上家資分散ノ際財産ヲ藏匿スルトアルハ自己身代限ノ處分ヲ受ケ其現ニ所有スル財産ヲ藏匿セシ所爲ヲ罰ス可キモノタリ本件ハ三島善兵衛ヨリ山田「サト」ニ掛ル訴訟ノ末「サト」ニ於テ身代限ノ所分ヲ受ケタルモノニシテ被告人ハ最初「サト」ノ家族ナルモ後分籍シ更ニ一戸ヲ起シタル者ナレハ「サト」カ身代限ノ處分被告人ニ波及ス可キ理由ナク自己ノ財産ヲ差押ヘタルノ責ナキヲ以テ假令之ヲ藏匿スルモ罪ト爲ル可キモノニ非ス況ンヤ被告人ハ其財産ヲ藏匿スル等ノ所爲ナキニ於テオヤ然ルニ原裁判所ハ山田「セイ」ノ財産ヲ指テ藏匿ノ物件ナリト斷定セラレシハ妄想ノ甚シキモノニシテ不法ノ裁判ト謂ハサル可カラス且財産ヲ藏匿セリト判定シナカラ其物件ハ被告人ノ財産ナルカ將タ「サト」ノ財産ナルカ及ヒ如何ナル物件ヲ藏匿品ト認メタルカ其理由ヲ明示セシテ漫ニ被告人ヲ有罪ナリトシ財産藏匿ノ所爲ナキ者ニ對シ刑法第三百八十八條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリ事實ノ理由ヲ付セサルナリ又被告人ノ財産ニ對シ民事上ノ裁判ナキニモ拘ハラス身代限ノ處分ヲ受ケタル者ト同視シ財産ヲ藏匿セリト斷定シタルハ越權ノ處分ナリ以上三個ノ原由ニ因リ破毀ヲ求ムト云フニ在

リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ代言人伊藤隆眞ハ本件ノ事務ヲ詳述シテ上告ノ趣意ヲ擴張辨明シ檢事澄川拙三ハ附帶ノ上告ヲ爲シ本案ハ被告人ノ相續人タル山田「サト」カ身代限ノ際被告人ニ於テ財産ヲ藏匿セシ事件ニシテ其財産ハ「サト」ノ所有物タルコトハ原裁判官カ認メタル所ナレハ所有者タル「サト」カ之ヲ藏匿スルハ刑法上罰ス可キモノナルモ其所有者ニ非サル被告人カ藏匿シタル所爲ヲ罰スルニハ必ス其理由ヲ明示セサル可カラス然ルニ之ヲ明示セズシテ直チニ刑ヲ言渡シタルハ事實及ヒ法律ノ理由ヲ付セサルモノナリ又被告人ハ民事上財産所有權ナク義務ノ責任ナキ者ナルニ其意思義務ヲ免カレシメテ圖ルニ出タリトシ刑法ニ問擬セシハ越權ノ處分ナリト思考スルノ旨ヲ陳述セリ依テ判決ヲ爲ス左ノ如シ

原裁判言渡書ヲ密閱スルニ被告人ハ三島善兵衛ヨリ合併地諸入費精算請求ノ訴ヲ受ケ長女「サト」ハ家督ヲ讓リ隱居シタル旨相答タルヨリ更ニ右相續人「サト」ハ係リ出訴中該裁判言渡ノ數日前又分籍ヲ爲シ云々トノミアリテ何等ノ裁判言渡アリタルモノナルヤ其裁判ハ被告人ニ對シタルモノナルヤ將タ「サト」ニ言渡シタルモノナルヤ其事實ヲ明示セズシテ單ニ財産ヲ藏匿シタル者ト斷定セシモ果シテ如何ナル場合ニ於テ如何ナル罪ヲ犯シタル者ナルヤヲ確認スルコトヲ得ズ即チ事實ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セサル違法ノ裁判ナリト謂ハサルヲ得サルナリ已ニ事實ノ理由ヲ明示セサルニ因リ其他上告論旨ニ係ル擬律ノ錯誤アリヤ越權ノ處分アリヤ否ヲ監査スルニ由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ被告事

件ヲ横濱輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

第二千八十九號

○判文(財産藏匿) 明治十六年十一月廿七日上告  
十七年六月廿三日發付

二七八

青森縣陸奥國三戸郡小中野  
村字左比代十八番地平民

細越清五郎

明治十六年十月

三十七年一ヶ月

右細越清五郎カ被告事件ニ對シ明治十六年十月二十七日弘前輕罪裁判所八戸支廳於テ被告ハ身代限財産取調ノ節所有ノ財産ヲ藏匿セシモノト認定シ刑法第三百八十八條第一項ニ依リ重禁錮六月ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告ハ上告ヲ爲シタリ其趣意及辨明書要領ノ第一ハ無盡講取締証書預リ主トナリタルモ猪俣輝一郎ハ關係セサルモノナリ然ルヲ判文ニ其名ヲ掲ケタルハ之レ他人ノ犯罪事件ヲ混同セシメタルト云ハサルヲ得ス其第二ハ細越定吉ヨリ借用セシ稗古小屋代價等ハ本家末家ノ間柄ニ因リ當時ハ證書受授セスト雖モ差引計算ヲ遂クルニ際シ舊來ノ借用品ヲモ代價ニ積算シ更ニ借用證書ヲ差入タルモノナルヲ德義上ノ貸借ニ付證書利子等ノ契約ナキヲ擅ニ代價及利子等ヲ付シタリトシ又定吉カ口供ノ一點ノミヲ擧ケ他ヲ顧ミスシテ被告ヲ犯罪者トセラレタルモ一体ノ陳述ニ因レハ舊來被告ニ貸金アリテ之ニ利子ヲ加ヘ且被告カ他ノ負債ヲモ負擔セシト明カナリ然ルニ在テ之ヲ虛

偽ノ契約ナリト認定シタルハ何等ノ証憑アルカ決シテ其証憑アルヲ見ス其第三ハ高島武助カ口供ニ於ケル前後其意ヲ異ニスル者ニシテ虛實ヲ斷定スヘキ証憑アルヲ見ス又味噌桶二本ヲ藏匿シタリトアルモ武助ノ供述ハ事實ニ反對セリ個ハ同人ヨリ擧或ハ肥料ヲ無代價ニテ送附スルヲ以テ其報酬ニ味噌ノ見積リ製造シ年々仕送りタル殘リアルヲ同人分ニ備ヘ預リ置タルモノナレハ決テ被告カ所有ニアラス其事實參考ノ爲メ同人妻并被告カ家屬ノ召喚ヲ要求スルモ無益ナリトシ被告カ利益トスル點ヲ斥ケ想像ヲ下シタルモノニテ證據トナスニ足ラス其第四ハ牛馬ニ價ヲ付シ利子ヲ加ヘ貸金ニハ利ニ利ヲ付シタルトアルモ個ハ武助カ所有ノ帳簿ニ就キ舊來ノ貸借差引ヲ遂ケ牛馬ト雖モ其價アレハ貸借ノ當時ニ糊リ之カ價ヲ付シ利子ヲ加フルハ貸借上普通ノ義務ニテ其他借用金ヲ纏メ右ニ對シ田畑宅地ヲ引渡シタルモノニテ虛偽ニアラサルコトハ明瞭ナリ假リニ虛偽ノ負債ヲ増加シ財産ヲ藏匿セントスルモ引渡シタル地所ノ代價ニ適當スル借用金アルニ何等ノ利益ヲ謀リ負債ヲ増加セシコト企ル理アラシヤ又賣渡シ地所及預リ味噌等ヲ財産取調書ニ記載セサルハ素ヨリ被告カ所有ニアラサレハ當然ナルヲ記載スヘキモノト認定セラレタルハ何等ノ證據ニ據リタルヤ之レ事實ヲ審究セシテ臆測ニ出テタルモノナリ其第五ハ原判文ニ証人ノ陳述トアレモ審理中被告於テ其証人ノ陳述ヲ聽キタルコトナク之レ事實ナキ理由ヲ付シタルモノニテ其証憑トスル所ノモノハ一トシテ其効力アルコトナシ假リニ証憑充分ナリトスルモ其事ヲ行フ以前ニ於テ事發覺スレハ其目的ヲ遂クルコトヲ得ス即チ未遂犯罪ニシテ刑法第百十二條ニ適當スル場合ナリトス而シテ家資分散ニ關スル罪ノ節目中未遂犯罪ノ條之レナキヲ以テスレハ刑法ノ

二七九

問フ處ニアラス況ンヤ其証憑充分ナラサルヲ是レ治罪法第四百十條第九第十項ノ  
 場合ニ適スル原由アルヲ以テ原裁判ヲ破毀アラント云フニアリ  
 原裁判所檢事補二瓶正性ハ本按上告ハ破毀スヘキ原由ナキモノト答辨セリ  
 大審院於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ  
 上告第一ノ旨趣ハ本案事實ニ毫モ影響ノ及フヲ見サレハ上告ノ原由トナスヲ得ス第二第三  
 第四ノ旨趣ハ要スルニ原裁判所カ特有スル權内ニ侵入シ其認定セシ事實及採證ニ對シ其當  
 否ヲ論シ不服ヲ訴フルニ過キサレハ治罪法第四百十條各項以外ニ涉ルヲ以テ破毀ノ原由ト  
 ナスヲ得ス第五證人ノ陳述ヲ聽カサルトノ旨趣ニ因リ公判始末書ヲ閱スルニ明治十六年十  
 月八日開廷ノ際(一)上 畠長鶴飼長久并其事件ノ原告人棚木重吉ヲ證人トシテ本日呼出シタ  
 ルニ付云々(各被告告知仕候ト言フ)トアリテ事實ナキ理由ヲ付シタルニアラス又證憑充  
 分ナリトスルモ未遂犯罪ナリト云フモ負債ノ爲メ身代限りヲ爲スニ當リ他ノ債主ノ爲メニ  
 其財産ヲ公賣ニ附セラレシテ避ケ高島武助等ヘ之ヲ賣却シタル以上ハ已ニ財産ヲ藏匿シ  
 タルモノニテ刑法第三百八十八條ノ已遂タルハ論ヲ竣タサルナリ其他一件書類ニ徴スルニ  
 原裁判中毫モ不當ノ廉アルヲ見サレハ本按上告ハ總テ相立サルモノトス  
 右ノ理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ニ則リ本按上告ハ之ヲ棄却スル者也  
 第二千九十九號

○判文(受寄物費消)明治十六年十一月廿七日上告  
 同 十七年六月廿三日發付  
 大坂府南區清水上ノ町平民

渡 邊 啓 助

年齡不詳

明治十六年十月三十一日大坂輕罪裁判所會議局於テ大坂府大和國式上郡戒重村平民石井善  
 三郎受寄物費消被告事件豫審終結ノ言渡ニ對シ右民事原告人渡邊啓助カ故障ノ申立ヲ審理  
 シ治罪法第二百四十六條第二項ニ掲クル故障ノ原由ナキモノト判決ヲ爲シタリ啓助於テ該  
 判決ニ服セス上告ヲ爲スノ要領ハ被告石井善三郎ハ依託品ヲ費消シタルニ因リ之レカ証憑  
 ナ掲ケ告訴シ共ニ私訴ヲ爲シタルニ豫審官ハ被告事件ヲ免訴シタリ右ハ依託物費消如何ノ  
 點ニ向テ審判セハ其被告等ノ犯跡ハ明了ナル證左アルニ因リ免訴ヲ與ヘントスルモ得ヘカ  
 ラサルニ審理玆ニ出テス詐欺取財ノ豫審ヲ遂ケ證憑充分ナラストシ隨テ私訴ノ裁判ヲ受ク  
 ル能ハサルニ至ラシメタルハ越權ノ處分而シテ大坂輕罪裁判所會議局於テ豫審官カ本件ヲ  
 詐欺取財事件トシ豫審終結ノ言渡ヲナシタルノ非ナルヲ確認シタレハコソ其判決ヲ受寄物  
 費消被告事件ト載示シタルナラン既ニ豫審官カ訴訟ノ實體ヲ誤認シタルヲ判然セハ私訴上  
 ニ關係ヲ來スハ勿論ナリ然ルヲ其豫審終結言渡ノ訴名ヲ改メナカラ何ノ理由ヲ示サス適法  
 ノ處分ナリトシ故障ノ申立ヲ棄却シタルハ不當ナリト云ヒ且事實書ヲ以テ前上告趣意ヲ擴  
 張セリ

大審院於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ職キ判決スルヲ左ノ如シ  
 上告ノ要旨ハ依託物費消ノ証憑ヲ掲ケ告訴シタル事件ナルヲ詐欺取財トシ豫審終結ノ言渡  
 ナシ私訴ニ關係ヲ來シタルハ越權ノ處分ナルヲ以テ會議局於テ豫審官カ詐欺取財ノ事件

トナルノ非ナルヲ認メ受寄物費消事件ト改メナカラ其理由ヲ示サズ豫審終結ノ言渡ヲ認可シタルハ不當ナリト云フニアレト本件書類ニ就テ之レヲ徴スルニ豫審判事ハ總テ受寄物費消事件ニ付審理ヲ盡シタルヲ明カニシテ越權ノ處分アルヲ見ス縱令其終結ノ言渡ニ詐欺取財事件ト記載アルモ審問上毫モ差異ナキノミナラズ實際其効ヲ見サレハ到底破毀ノ理由トナスヲ得ス因テ大坂輕罪裁判所會議局カ治罪法第二百四十六條第二項ニ掲クル理由ナキモノトシ本案故障ノ申立ヲ棄却シタルハ不當ニ非サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

第二千九十一號  
○判文(器物毀棄) 明治十七年四月六日上告  
年六月廿三日發付

新瀉縣越後國中蒲原郡鷺ノ  
木新田平民農

中 村 治 平

明治十六年一月  
二十四年

右中村治平カ被告事件ニ付明治十七年一月二十四日新瀉輕罪裁判所於テ被告ハ人ノ着衣ヲ棄毀シタルモノト認定シ刑法第四百二十一條ニ依リ重禁錮十五日ニ處シ罰金三圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ大審院檢事長渡邊驥ハ非常上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ原裁判所於テ刑法第四百二十一條ヲ適用シ重禁錮十五日ニ處シ罰金三圓ヲ附加シタルモ抑本條ハ其情狀

ニ因リ重禁錮罰金ノ内一ツヲ取り處斷スヘキヲ重禁錮罰金ヲ併科シ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ科シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルモ既ニ原裁判確定後ニ係ルヲ以テ非常上告ヲ爲シ以テ原裁判ヲ破毀シ至當ノ判決ヲ請求スト云フニアリ大審院於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審按スルニ

刑法第四百二十一條人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ストアリテ禁錮罰金各主刑タレハ犯罪ノ情狀ニ依リ其一ニ從テ處斷スヘキヲ原裁判爰ニ出テスシテ之ヲ併科シタルハ擬律ノ錯誤ニ係ル不當ノ裁判ニ付治罪法第四百三十五條ニ則リ原裁判言渡ヲ破毀シ本院於テ直チニ判決スル左ノ如シ

中 村 治 平

原裁判所カ認定シタル事實ニ依リ被告ノ所爲ハ刑法第四百二十一條ヲ適用スヘキ犯罪ナリトス因テ該法條ノ刑期範圍内ニ於テ重禁錮十五日ニ處ス

第二千九十一號  
○判文(賭博) 明治十六年六月十九日上告  
同 十七年六月廿三日發付

兵庫縣播磨國飾西郡書寫村  
平民酒小賣營業

永 井 菊 次 郎

明治十六年五月  
三十六年六月生

右菊次郎カ被告事件ニ付明治十六年五月廿八日神戸輕罪裁判所姫路支廳ニ於テ審理ノ未博奕ヲ爲シタルノ事實アリト認メ刑法第二百六十一條ニ依リ二月二十日ノ重禁錮ニ處シ八圓ノ罰金ヲ附加シ現場ニ在ル骨牌賭錢ハ沒收ストノ裁判言渡ニ服セス上告セリ其要旨ハ平井豐次郎外二名ノ求メニ應シ酒肴ヲ差出シ自分ハ火燧ニ寢臥シ居タルニ甚シキ物音ニ驚怖シ前後ヲ顧ミス逃走シ後日ニ至リ豐次郎等カ御制禁ノ賭博ヲ爲シタル趣承ハリタル次第ニテ自分ハ毫モ博奕ヲ爲シタルヲ無之且房屋ヲ給與シタルヲモ無之ノミナラス未ダ曾テ博奕ヲ爲シタリトノ自白ヲ爲セシテアラサルニ自白セシ如ク裁判言渡書ニ掲載セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人檢事補河野通信ハ原裁判允當ニシテ上告理由ナキ旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

上告ノ理由トスル處賭博ヲ爲シタルヲアルニアラス又其情ヲ知ラスト云フニアリト雖モ要スルニ原裁判所カ治罪法第四百四十六條第二項ニ依リ特任セラレタル事實判定上ニ侵入シテ徒ニ非難ヲ試ミントスルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス因テ上告趣旨相立タ、サルモノト判定ス

第二千九十二號

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノ也

○判文(無届不參) 明治十六年五月十一日上告 同 十七年六月廿三日發付

山口縣長門國赤間關區觀音

崎町平民

小田ハル

明治十六年四月二十三日赤間關治安裁判所ニ於テ右小田「ハル」ハ裁判所ノ呼出ヲ受ケ無届不參シタル罪アリト判定シ明治十年第五號布告明治十四年第七十二號布告第三條ニ照シ科料金一圓ニ處スル旨宣告セリ小田「ハル」ハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲナシタル要旨ハ原裁判所於テ呼出ヲ受ケタリトスル明治十六年四月二十三日ハ呼出ヲ受ケタル當日ニ非スシテ原被告示談ヲ以テ出頭ヲ約シタル當日ナリ然ルニ呼出ヲ受ケ無届不參云々ト宣告書ニ記載シタルハ事實ノ理由齟齬シタル者ナリ又當日ハ出頭ノ途中於テ病ニ罹リ人ヲシテ出頭延期ヲ出願セシメタルニ原裁判所ハ之ヲ棄却セリ故ニ無届不參シタルニ非ス然ルニ前記ノ如ク判決シタルハ不服ナリト云フニ在リ

檢察官警部補市村成美カ答辯ノ要旨ハ原裁判所ハ果テ被告ニ對シ呼出シテ發シタルヤ否ヲ認ムルニ足ルヘキ証憑ナキヲ以テ姑ク被告カ上告ノ事實ヲ信ナリトスレハ當日ハ呼出ノ期日ニアラス又被告ハ出頭ノ途中病氣ニ罹リ出頭日延ヲ出願シタルヲ斥ケテ受理セサルモノナレハ無届不參ト云フ可カラズ然ルニ前記ノ如ク判定シタルハ不當ニシテ所謂事實理由ニ齟齬アリテ越權ノ處分アルモノナレハ上告ノ原由アルモノナリト云フニアリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ被告於テ前記ノ如ク論告スルニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ被告ハ明治十六年四月二十一日ニ於テ同月二十三日午前九時迄出頭延期ノ願書ヲ呈出セリ然ラハ則チ裁判所ニ對シ

出頭期日ヲ約シ其許可ヲ得タル上ハ當日出頭スヘキ義務アルハ呼出ヲ受ケタルト一般ニシテ若無届ニテ不參スル時ハ明治十年第五號布告ニ依リ科罰スルハ亦論ヲ待タサルナリ然リ而シテ被告ハ當時出頭途中ニ於テ病ニ罹リ人ヲシテ出頭猶豫ヲ出願シタル旨縷陳スト雖モ其出願タルヤ出頭刻限ヲ經過シタルコトハ當日鶴岡久八ヨリ召喚願ヲ呈出シタルニ徴シ明瞭ナルノミナラス已ニ原裁判所於テ無届不參シタル者ト判定シタル以上ハ果テ出頭刻限迄ニ不參届ナシタル証ヲ舉ケタル上ニ非サレハ該判決ノ取消ヲ請求スルノ原由トナスヘカラス到底上告ノ要旨タル徒ラニ事實ノ覆審ヲ求ムルニ過キサレハ治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ノ原由ナキヲ以テ同第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者ナリ

第二千九十四號

○判文(賣藥規則違反) 明治十六年十二月三日上告  
同 十七年六月廿三日發付

福岡縣豊前國築城郡東八田  
村士族賣藥請賣人

末 永 守 衛

明治十六年十一月

六十七年五月

明治十六年十一月十日福岡輕罪裁判所小倉支廳ニ於テ右末永守衛ハ賣藥印紙稅規則違反ノ罪アリトシ同則第六條第七條及刑法第五條第百條ニ照シ二圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ檢事松野貫義ハ上告セリ其要旨被告守衛ハ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ及之ヲ販賣シ

タルノミナラス自カラ貼用セシ印紙ニ消印ヲセサル數罪ヲ犯シタルモノナレハ賣藥印紙稅規則第六條第七條及明治十四年第七十二號公布第五條ニ照シ各其罪ヲ併科スヘキ筈ナルニ該公布ニ據ラスシテ刑法第五條第百條ニ依テ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニア

對手人末永守衛ハ原裁判相當ニシテ檢察官上告趣旨ハ不當ナル旨駁撃シタリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以テ之ヲ審案スルニ

上告ノ理由トスル處ハ不足印紙ノ藥品ヲ所持シ及ヒ之ヲ販賣シタルノミナラス自ラ貼用セシ印紙ニ消印ヲセサルノ二罪ヲ犯シタルモノナレハ賣藥印紙稅規則第六條第七條及明治十四年第七十二號公布ニ據リ各其罪ヲ論スヘキ筈ナルニ原裁判所ハ該公布ニ據スシテ處斷シタルハ不當ナリト云フニアリ依テ按スルニ明治十四年第七十二號公布第五條ニ法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒストアリ然シテ原裁判所カ認メタル事實ニ依レハ被告ノ所爲ハ二罪以上ナルヲ以テ原裁判所ニオイテハ宜シク該公布ニ照シ二罪併科ス可キモノナルニ裁判玆ニ出サルハ原檢察官上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニ係リ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル上告ノ原由アル裁判ナリトス依テ同法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ本院於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

末 永 守 衛

原裁判所カ認メタル事實ト証憑トニ依リ被告守衛ノ所爲ハ賣藥印紙稅規則第六條中略印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其第



七條ニ貼用印紙ニ消印ヲセサルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ストアルニ該當ス因テ明治十四年第七十二號公布第五條ニ從ヒ右二條目ノ範圍内ニ於テ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ及ヒ之ヲ販賣シタル所爲ニ對シ罰金二圓及ヒ貼用印紙ニ消印ヲセサル所爲ニ對シ罰金二圓ニ處スルモノナリ

第二千九十五號  
○判文(賣藥犯則) 明治十六年六月十三日上告  
十七年六月廿三日發付

長野縣信濃國東筑摩郡南深  
志町平民賣藥請賣業

小松清次郎

明治十六年五月  
三十六年

右清次郎カ被告事件ニ付明治十六年五月廿六日長野縣裁判所松本支廳カ期限經過シタル鑑札ヲ以テ請賣シ又ハ印紙不足ノ藥品及ヒ無印紙ノ藥品ヲ所持シタルノ事實アリト認メ刑法第五條及ヒ明治十年第七號公布賣藥規則第二十一條明治十五年第五十一號公布賣藥印紙稅則第六條ニ依リ請賣シタル科ニ付テハ罰金百二十圓ニ處シ鑑札ヲ取上ケ現在ノ藥劑八方ハ沒收シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シタル科ニ付テハ罰金三圓無印紙ノ藥品ヲ所持シタル科ニ付テハ罰金五圓ニ處ストノ裁判言渡ニ服セス上告セリ其要領ハ藥劑十二方ノ賣藥請賣鑑札六枚ヲ讓受ケ期限經過ノ儘所持セシモ内藥劑四方ハ請賣シタルモノニアラス檢査員出張ノ

際脅迫セラレ不得止藥劑十二方ヲ請賣シタルモノ、如ク始末書ニ記載シタレモ其事實タル現ニ賣買セシハ八方ノミニシテ其証憑ハ賣藥帳ニ檢査員ノ檢印アルコト藥劑八方ヲ沒收セラレタルトニ依リ明瞭ナルニ原裁判ノ茲ニ出テサルハ不當ナリト云フニアリ

對手人檢事補江木温直ハ上告趣旨不當ナリト答辨セリ  
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ハ上告趣旨理由ナシト雖モ賣藥ニ印紙ヲ貼用スヘキハ素營業者ヘ命シタルモノナレハ無鑑札ニテ賣藥營業ヲ爲シタルモノハ正當ノ營業者ニアラサルヲ以テ獨リ無鑑札營業ノ點ノミヲ罰スルニ止リ正當營業者ニ示シタル印紙犯則ノ罰ヲ科シタルハ擬律錯誤ナルニ因リ此一點ノ破毀ヲ請求セン爲メ附帶上告スト茲ニ之ヲ審按スルニ

上告ノ理由トスル處ハ法律上原裁判所ニ特任シタル處ノ事實認定上ニ對シ徒ニ非難ヲ試ムルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サルナリ殊ニ一件書類中脅迫上成立タル始末書ナリト視ルヘキ事跡アルニアラサレハ是亦謂レナキ申分ナリト然レモ賣藥印紙稅則第六條ハ本院檢事附帶上告趣旨ノ如ク正當ノ營業者ニシテ印紙不足ノ藥品又ハ無印紙ノ藥品ヲ所持スル犯則者ニ對シ適用シ得ヘキ法律規則ニテ被告人ノ如キ素ヨリ無鑑札ニテ賣藥營業ヲ爲シタルモノナレハ無鑑札營業者ト同ク印紙犯則ヲ罰スヘキ限リニアラサルニ原裁判ノ茲ニ出テス無鑑札營業ノ罰ハ印紙犯則ノ罰トナ併科シタルハ擬律錯誤ニ係ル破毀ノ原由アル裁判ナリト判定ス

以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ被告人カ上告ハ之ヲ棄却シ附帶上告ニ

基キ同法第四百三十一條ニ依リ原裁判所カ賣藥印紙稅則第六條ニ依リ言渡シタル印紙不足ノ藥品ヲ所持シタル科ニ付罰金三圓無印紙ノ藥品ヲ所持シタル科ニ付罰金五圓トアル部分ヲ破毀シ取消スモノナリ

第二千九十六號

○判文〔賣藥規則違反〕明治十六年十二月十日 上告  
同 十七年六月廿三日 發付

山形縣羽後國飽海郡中牧村  
十五番地平民

佐藤 彦 八

明治十六年十一月

四十一年

右彦八カ被告事件ニ付明治十六年十一月廿日山形縣裁判所酒田支廳於テ被告ハ黃膽藥ヲ調製シ無鑑札ニテ明治九年以來月々數十帖ヲ五錢或ハ十錢ツ、ニテ販賣シ明治十六年十月廿六日該藥一包ヲ拾錢ニテ萩原重孝ニ販賣シタルモノト認定シ明治十年第七號公布賣藥規則第三章第二十二條ニ照シ罰金ニ處スヘキ所事發覺前官ニ自首シタルヲ以テ刑法第八十五條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ罰金拾九圓ニ處シ尙ホ現在セル製藥ハ沒収スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人カ上告爲シタル要領ハ全ク該藥ハ他ノ無心ニ依テ調製シ遣ハシタルモ其代價トテハ受取タルコトナシ又萩原重孝へ一包十錢ヲ以テ販賣シタルトアルモ上告人ノ居村ハ飽海郡酒田ヨリ同郡松嶺へノ通行筋ニアレハ人力車夫ヨリ黃膽藥ヲ一包強テノ頼ニ付キ遣

シタリ然ルニ車夫ハ拾錢札ヲ取出シ差置キタル儘走り行キ其行先ヲ知ラス間モナク人ヲ替ヘテ藥ノ用法ヲ尋テ來リタルニ付右ノ代價ヲ差戻シタルニ無鑑札ニテ販賣シタルモノト見留メ告發セントスルニ付止テ得ス自首シタルモノナリ然ルニ之ヲ賣藥規則ニ違反シタルモノト認定シ刑ニ處セラレタルハ不當ナリト云フニフリ同裁判所檢事補中川恒之助ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辨セリ

大審院於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ  
本按上告ノ旨趣タル原裁判ハ事實ノ認定ヲ誤リタリト云フニ外ナラサルモ斯ハ原裁判官カ特有シタル職權ニ對シ徒ラニ不服ヲ唱フルモノニ止リ治罪法ニ定メタル上告ノ原由ナキモノトス因テ該上告ハ相立サルニ付同第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スルモノ也

第二千九十七號

○判文〔煙草稅則犯〕明治十六年十二月二十日 上告  
同 十七年六月廿三日 發付

高知縣土佐國土佐郡本町四  
丁目百三番地平民烟草營業  
人

高木 助 吉

明治十六年十一月

滿四十八年

右被告人高木助吉ハ明治十六年十一月二十四日高知縣裁判所ニ於テ被告ハ五十匁入紙包煙草二個ニ御定價十二錢五厘ト記載シ二錢印紙ヲ貼用シ自己ノ氏名住所ヲ記附セスシテ松

田源松へ販賣シタル犯則ナリト認メ第一自己ノ氏名住所ヲ附記セサルハ煙草稅則第二十一條同第三十八條ニ該テ第二不足印紙ノ煙草ヲ賣渡シタルハ同第三十五條ニ該テ第一ノ所爲ハ罰金五圓ニ處シ仍ホ賣捌代價ニ拾錢五厘ヲ追徵シ第二ハ罰金十圓ヲ科シ且ツ賣渡シ代價ニ拾錢五厘ヲ追徵スト言渡タル裁判ニ服セス被告助吉カ上告ヲ爲シタル要領ハ原裁判ニ被告ハ第一自己ノ氏名住所ヲ附記セサルモノトシ煙草稅則第二十一條第三十八條ニ該テ罰金五圓第二ハ不足印紙ノ煙草ヲ賣渡シタルモノトシ同則第三十五條ニ該テ罰金十圓ヲ科スト言渡サレタルモ第一ハ自己ノ氏名住所ハ二個トモニ五十匁紙包ニ印紙貼附シ其消印ニ掛ケアルコト明白ナリ第二不足印紙二個ノ紙包ノ内一個ハ定價十二錢五厘ナルモ一個ハ十二錢四厘ト明記シアルヲ二個共ニ十二錢五厘トナシテ裁判ヲ與ヘタルハ俱ニ事實ノ齟齬アルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ對手人原裁判所檢事補市口吉亨ハ上告ノ不理ニシテ原裁判ノ適當ナル旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事堀田正忠ノ意見ヲ聽クニ曰ク原裁判所カ被告ノ第一第二ノ所爲ニ對シ賣捌代金貳拾錢五厘宛ヲ追徵スト言渡タルハ不當ナリ何トナレハ被告人ノ所爲ニ二個ノ犯則ニ係ルモ其煙草ハ固ト一物タレハ其現在セル時ハ唯之ヲ沒收スルニ止ルヘキコト無論タルニ因リ縱ヒ之ヲ販賣スルモ其代金ヲ二重ニ追徵スルノ理ナキ故ナリ依テ本院ニ於テハ原裁判中該一部ヲ破毀シ取消サレンコト望ミ附帶上告ニ及フト陳述セリ按スルニ被告ハ自己ノ氏名住所ハ五十匁入二個ノ紙包印紙ニ貼用シアル其消印ニ掛ケアルハ論ヲ待タサル也又五十匁紙包シ煙草二個ノ内一個ハ十二錢四厘ト明記アルヲ原判文

二個俱ニ定價ヲ拾貳錢五厘トナシアルハ不當ナリト云フモ皆是承審官ノ各証憑ニ據テ判定ヲ爲シタル事實ニ對シテ其有無ヲ論告スルニ止マリ治罪法第四百十條各項目ニ規定シタル上告ヲ爲スヲ得ルノ場合ニアラサレハ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却ス然レモ附帶上告ノ論旨ノ如シ原判文ニ第一ノ氏名住所ヲ附記セサル所爲ニ對シ既ニ其賣捌タル煙草ノ代價ヲ追徵スト言渡シタルニ尙亦不足印紙ノ所爲ニ對シ煙草代價貳拾錢五厘ヲ追徵セリ右二個ノ煙草ハ本同一物ナルニ二重ノ追徵ヲ言渡タルハ不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ當ル破毀ノ原由アルモノトス仍テ治罪法第四百三十一條ノ成規ニ從ヒ原裁判ノ内五十匁紙包煙草二個賣渡代價ノ二重追徵ニ係ル一部分即チ「且ツ賣渡シ代價二十錢五厘ヲ追徵シ」ノ十六字ヲ破毀シ之ヲ取消スモノナリ

第二千九十八號

○判文(煙草稅則犯) 明治十六年十二月三日上告 同 十七年六月廿三日發付

福岡縣豐前國京都郡行事村

士族煙草小賣營業

吉村 岸 藏

明治十六年十一月

五十九年十月月

右岸藏カ被告事件ニ付明治十六年十一月九日福岡縣罪裁判所小倉支廳ニ於テ被告ハ明治十六年十月十一日煙草檢査ノ際營業鑑札ヲ受ケスシテ刻ミ煙草五匁以上ノ玉造ヲ裝置シテ賣

出シ及ヒ印紙買入鑑札ヲ所持セスシテ印紙ヲ買入レタルノ罪アルモノト認メ營業鑑札ヲ受ケスシテ營業シタル罪ハ烟草稅則第三十四條ニ依リ第十一條第十二條ニ照シ營業稅通脫ニ係ル金高三倍ノ罰金貳拾貳圓五拾錢ニ該リ印紙買入鑑札ヲ所持セスシテ印紙ヲ買入タル罪ハ同第二十四條第三十八條ニ依リ罰金五圓以上五十圓以下ニ該ルヲ以テ同第四十六條ニ照シ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス罰金二十二圓五錢ト五圓ヲ科シ犯罪ニ係ル烟草七個ハ沒收シ其賣リタル代金壹圓貳拾八錢ハ之ヲ追徵スト言渡裁判ヲ不當ナリトシ原檢察官檢事補松野貫義ハ上告ヲ爲セリ其旨趣ハ被告吉村岸藏ニ於テハ烟草小賣營業者ニシテ製造者カ裝置シタル烟草ヲ崩シ賣ヲ爲スニハ量目五匁以下崩賣ヲ許シテ五匁以上ヲ許サ、ルニ之レニ違背シタルノ犯人ナリ然レハ烟草稅則第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル明治十六年太政官第二十號布達第十一項ノ違犯ニシテ烟草稅則第四十五條ニ依リ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處スヘキモノナルヲ原裁判ハ無鑑札營業ヲ爲シタルモノトシ同稅則第三十四條ニ依リ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ對手人被告吉村岸藏ハ答辯ヲ爲サズ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ之ヲ判決スル左ノ如シ

按スルニ本件被告人ハ烟草小賣人ナレハ五匁以下ノ崩シ賣ヲ許シタルモ五匁以上ノ玉造ニ裝置スルハ稅則第十三條ニ明記スル如ク特リ製造人ノ爲スヲ得ヘキコトニシテ小賣人ノ爲スヘキコトニアラス然ルニ被告ハ小賣人ノ資格ヲ以テ五匁以上ノ烟草ヲ玉造ニ裝置シテ賣出シタルノ所爲ハ即チ製造權ヲ侵シタルモノナレハ原裁判ニ同則第二十四條ニ該當シ無鑑札ニシテ製造營業ヲ爲シタル通稅ノ罪ヲ問フハ固ヨリ其當ヲ得タルモノナリトス上告論旨ハ明治十六年太政官第二十號布達第十一項ニ問擬ス可キモノナリト云フモ該條項ハ五匁以下ノ崩シ賣ヲ爲スノ場合ニ適用スヘクシテ本犯ノ如キ五匁以上即チ製造權ヲ侵シタル犯則ニ適用スヘカヲサレハ上告其効ナキモノトス

仍テ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却スルモノナリ

第二千九十九號

○判文(烟草稅則犯) 明治十六年十二月十八日上告  
同 十七年六月廿三日發付

鳥取縣因幡國邑美郡材木町

平民烟草小賣商

松田重藏

明治十六年十一月

五十七年五月

右松田重藏カ被告事件ニ對シ明治十六年十一月二十一日鳥取縣輕罪裁判所於テ被告ハ烟草稅則違犯者ト認定シ烟草稅則第三十四條ニ依リ其營業稅通脫ニ掛ル金十五圓ノ三倍罰金四十五圓ニ處シ其賣捌代金四十九錢六厘ハ之ヲ沒收スルモノ也ト言渡シタル裁判ニ服セス被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ明治十六年八月中土藏掃除ノ際床下ニ葉烟草六百二十目アリシヲ發見シ不用ニ屬スルヲ以テ兼テ惡意ナル山田喜平へ讓與セシモノニテ法律ニ背キタルモノト云フベカラス假リニ違背セシモノトスルモ營業上ノコト故テニ明治十六年七月一日以

後ニ爲スノ理アラシキニテ煙草稅則第三十四條ハ被告カ所爲ノ如キキ罰スル明文ナキキテ該條ニ照シ處斷シ又同則第三十一條ヲ適用シタルハ頗ル錯誤ノ判決ニテ假令類似ノ條アルモ比附援引スルヲ得サルハ言テ俟タサルナリ因テ被告カ所爲ハ煙草稅則中ニ正條ナキモノナレハ原裁判ヲ破毀セラレシコト望ムト云フニアリ原裁判所檢事補福田武規ハ原裁判ハ毫モ不當ノ廉ナク隨テ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ノ理由ナキニ付棄却アルヘキモノト答辨セリ

大審院於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ  
上告ノ理由トスル所ハ在來ノ葉煙草ヲ發見シ讓與シタルモノナレハ煙草稅則第三十四條ニ依リ罰セラル、モノニアラス又同則第三十一條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト論告スルニアレト同則第三十四條ニ所謂鑑札ヲ受ケスシテ營業ヲ爲ス者トハ未製造煙草ノ在來買入レ品ヲ分タス其鑑札ヲ受ケス他人ニ讓與シ代價ヲ得タルハ該條ニ包含スルコト言テ竣タス又同則第三十一條ヲ適用シタリト云フモ原判文ヲ監査スルニ毫モ該條ヲ適用シタルコトナキノミナラス他ニ亦不當ノ點アルヲ見ス要スルニ原裁判所カ判定シタル事實ニ對シ徒ニ不服ヲ訴フルニ止マリテ治罪法第四百十條各項外ニ涉リ上告ノ理由ナキモノトス  
右理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第二千百號

○判文(煙草稅則犯)明治十六年十二月十八日上告  
十七年六月廿三日發付

鳥取縣因幡國邑美郡元魚町

平民煙草小賣營業

織田敬三郎

明治十六年十一月

三十一年二月

右敬三郎カ被告事件ニ付明治十六年十一月二十二日被告ハ明治十六年七月以來量目五匁代價三錢五厘ト記載アル刻煙草九十二個ヲ代金壹圓六拾五錢六厘ニテ賣捌キ八個ヲ所持シタル犯則ナリト認メ煙草稅則第三十五條ニ該テ罰金十五圓ニ處シ其賣捌キ代金ハ之ヲ追徴スト言渡シタル裁判ヲ不服ナリトシ被告敬三郎カ上告ヲ爲シタル旨趣ハ被告カ量目四匁五造リ煙草ヲ量目五匁代價三錢五厘ト記載シタルハ店方繁劇ノ際誤記セシモノニシテ現ニ賣渡ス處ノ煙草ハ四匁五三厘ノ印紙帶封シアルハ檢査官モ認メ置カレ其記載ノ誤謬タルヤ明瞭ナリ然レハ過剩ハアルモ不足稅アルニアラス法律誤謬ヲ罰スルノ明文ナケレハ原裁判ノ罰金ヲ言渡シタルハ不當ナリト云フニ在リ原裁判所檢事補福田武規ハ上告ノ不理ヲ辨駁シテ原裁判ノ至當ナル旨ヲ陳述セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ踐行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ  
按スルニ上告ノ論旨ハ被告カ玉造リ煙草ハ現ニ四匁ノ量目ニシテ代價三錢五厘ナルニ三厘ノ帶印紙ヲ用ヒタレハ過剩稅アルモ不足稅アルニアラス其量目ヲ五匁ト記載シタルハ繁劇ノ際誤謬ニ出テタルモノニシテ法律誤謬ヲ罰スル正條ナケレハ原裁判ノ罰金ヲ科シタルハ不當ナリト云フモ其所爲ノ誤記ニ出タルト否トハ專ラ裁判官ノ心証判斷ニ任從スヘキ所ナ

レハ被告カ犯則ノ廉ナシトノ辨論ハ徒ラニ其職權内ニ侵入シテ事實ノ判定ヲ非難スルニ止  
リ治罪法第四百十條ニ規定シタル各項ノ場合ニ適合シタル上告ノ原由ニアラサルモノトス  
仍テ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却スルモノナリ

第二千一百一號

○判文(煙草稅則犯) 明治十七年四月五日上告  
同 年六月廿三日發付

熊本縣熊本區米屋町平民煙  
草小賣營業

三角 藤 七

明治十六年十月  
四十七年

右藤七カ被告事件ニ付明治十六年十月三十日熊本輕罪裁判所ニ於テ被告ハ煙草買入レ帳簿  
ヲ調製シ居ラサルモノトシ煙草稅則第二十三條同第三十八條ニ依リ罰金五圓ニ處シ仍ホ犯  
罪ニ係ル煙草賣捌代金三十二圓廿七錢ヲ追徵ス旨言渡シ其裁判確定シタル處本院檢事長渡  
邊驥ハ非常上告ヲ爲シタリ其要領ハ原判文ヲ閱スルニ被告ハ帳簿ヲ調製セザリシノミニシ  
テ其煙草ニ於テハ別ニ犯則ノ廉アルコトナケレハ其刑單ニ罰金ニ止リ代價ヲ追徵スヘキ者ニ  
アラサルニ之レヲ追徵シタルハ所謂相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルモノナルニ因リ此一  
部ノ破毀ヲ求ムト謂フニ在リ  
茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之レヲ判決スル左ノ如シ

原判文ヲ監査スルニ被告カ行爲ハ單ニ煙草買入帳簿ヲ調製セサルニ止リ其賣捌キタル煙草  
ニ於テハ別ニ犯則ニ係リタルコトナキハ判然タリトス果シテ然ラハ此行爲ニ對シテハ煙草稅  
則第三十八條ニ依リ單ニ罰金ノミニ處シ其煙草賣捌代金ヲ追徵スヘキモノニ非サルニ原  
裁判此ニ出サルハ治罪法第四百三十五條ニ所謂相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル不法ノ裁  
判ナルヲ以テ同條第二項ニ從ヒ原裁判言渡中其煙草代金三拾貳圓貳拾七錢ヲ追徵ストアル  
部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

三角 藤 七

右ノ理由ナルヲ以テ原裁判中煙草代金三拾二圓二拾七錢ヲ追徵スル旨ノ言渡ヲ取消スモノ  
也

第二千一百一號

○判文(証書毀棄) 明治十六年十二月六日上告  
同 十七年六月廿四日發付

山口縣周防國都濃郡須方村  
平民

國 弘 傳 三 郎

明治十六年十月  
三十二年十一月

右國弘傳三郎カ被告事件ニ對シ明治十六年十月三十一日山口輕罪裁判所於テ被告ハ証書ヲ  
毀棄滅盡シタルモノトシ刑法第四百二十四條ニ依リ重禁錮二月ニ處シ罰金三圓ヲ附加スル

一九九

旨言渡シタル裁判ニ服セズ被告ハ上告ヲ爲シタリ其趣意及辨明書ノ要領ハ被告カ毀棄滅盡シタリト認メラレタル証書ハ一ツモ効力ヲ失セサレハ決テ罪トナルヘキ事實ニアラス何ントナレハ貸金ノ當時渡シ置タル返リ証ノ金額ト明治十五年十一月中内入レシタル金額ハ之ヲ引去リ殘金ヲ請求シ既ニ勝訴ノ判決ヲ受ケタレハ其証書ナキモ決シテ害ナケレハ其効力ヲ失ハス又毀棄シタル証書ヲ見ルニ稍々破損セシノミニテ依然請取証及返リ証タルヲ表示シ得ヘシ刑法第四百二十四條ハ証書ノ權利義務ヲ表示スル能ハサルニ至ラシムルヲ云フモノニシテ斯クノ如キモノヲ云フニアラサルヲ其法文ヲ誤解シ刑ヲ言渡シタルハ擬律ノ錯誤ナリ且証人ハ不正ノ人物或ハ告訴人ノ親屬ナレハ証人トスヘキモノニアラス又被告カ當初惡意ヲ以テ之ヲ毀棄セシモノナラハ民事裁判所ヘ正當ノ訴ヲ爲スヘキ理由ナキ而已ナラス其証書ヲ詐取シタル一片ノ証憑ナキニ告訴人等ノ言ノミヲ採リタルハ實ニ偏頗ノ裁判ナルヲ以テ原裁判ヲ破毀シ至當ノ裁判ヲ仰クト云フニアリ原裁判所檢事補屬恭亮ハ上告ノ不當ヲ論シ其理由ナキ旨答辨セリ

大審院於テ專任判事ノ報告ニ由リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ  
 上告ノ旨趣ハ刑法第四百二十四條法文ノ解釋ヲ論告スルニアレハ本條ニ所謂証書類ヲ毀棄滅盡シタルモノトハ必シモ証書ノ全部ヲ毀棄滅盡シタルモノヲ云フニ非ス証書中必要ナル一部ヲ破損シ因テ人ヲシテ疑訝ヲ起サシムル者ノ如キハ本條ニ適當スルコト言テ竣タス況ンヤ本件証書ヲ閱スルニ之ヲ寸斷シアリテ復ヒ用フルコト能ハサルヘケレハナリ其他喋々論訴スルト雖モ原裁判所カ至當ノ証人ヲ訊問シ認定シタル事實ヲ批難スルニ止マリ治罪法第四

百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告趣旨ハ總テ相立タサルモノトス  
 右ノ理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ニ基キ本件上告ハ之ヲ棄却スルモノ也  
 第二千百三號

○判文(証書偽造) 明治十六年七月五日上告  
 同 十七年六月廿四日發付

滋賀縣近江國神崎郡佐野村  
 平民農業

松野 重次郎

明治十六年五月  
 三十六年一月

明治十六年五月十一日大津輕罪裁判所彥根支廳ニ於テ右松野重次郎カ被告事件ヲ審理シ印影盜用貸借証書偽造及詐欺取財ノ所爲アリトシ刑法第二百八條第二項同第二百十條同第三百九十條ヲ適用シ詐欺取財ノ罪ハ未遂犯ニ係ルヲ以テ同第三百九十七條同第一百十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ二罪以上俱發スルヲ以テ同第一百條第三項ニ依リ所犯情狀最モ重キ偽造証書行使ノ罪ニ從ヒ自首スルヲ以テ同第八十五條同第七十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ三月以上三年以下三圓以上三十圓以下ノ範圍ニ於テ重禁錮四月十五日ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ仍ホ同第二百十二條ニ依リ監視八月ニ付シタリ被告松野重次郎ハ之ヲ不法トシ上告シタルノ要領上告人ハ本件印影盜用証書偽造等ノコトニハ關係ナキモ証書上名義ノ登記アルヲ以テ自首ニ罪狀最モ輕キ者ナレハ充分減輕ヲ爲シ重禁錮三月罰金三圓ニ處セラルヘキニ未遂犯

ノ所爲ノミ減等シ自首ニ付テハ單ニ減等ヲ與ヘテレサリシハ不當ノ裁判ナリト謂フニ在リ  
 大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ  
 法律ニ定メタル刑ノ範圍内ニ於テ犯罪ノ輕重ヲ量定シ其相當ナリト思料スル刑ヲ適施スル  
 ハ事實裁判官特有ノ職權ナルヲ以テ其範圍ヲ踰越シテ刑ヲ輕重シタル時ニ非ラサルヨリハ  
 他ヨリ之ヲ左右スルコトヲ得サルナリ故ニ減輕ヲ爲サ、リシトノ論告ハ相立サルモノトス又  
 被告人カ自首ニ付テハ減等ヲ與ヘスト論告スレトモ現ニ刑法第八十五條同第七十條ヲ適用  
 シ本刑四月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ヨリ一等ヲ減シ三月以上三年  
 以下三圓以上三十圓以下ノ範圍内ニ於テ刑ヲ科シタルコトハ原言渡書ニ依リ明確ニシテ原裁  
 判ハ毫モ不法ノ廉アルヲ見ス之ヲ要スルニ本按上告ハ治罪法第四百十條ニ定メタル各項ニ  
 適當セサルヲ以テ同第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

第二千百四號

○判文(嬰兒壓殺) 明治十六年二月廿日上告  
 同 十七年六月廿四日發付

千葉縣下總國香取郡今村平  
 民日備稼

宮本長左衛門

明治十五年十二月

三十四年四月

明治十五年十二月五日茨城重罪裁判所ニ於テ被告ハ嬰兒ヲ故殺シ其死屍ヲ毀棄シタル者ト

判定シ其二罪中一ノ重キ故殺罪ヲ以テ論シ刑法第二百九十四條ニ依リ仍ホ同法第八十九條  
 及ヒ第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ重懲役十年ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ檢事伊藤  
 種基ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告カ嬰兒ヲ殺害セシ所爲タルヤ忽然殺意ヲ生シタルモノ  
 ニ非ス分婉前ヨリ養育スルノ念ナシ之ヲ殺サント決意シ遂ニ分婉ニ至リ殺害シタルコトハ原  
 判文ニ列擧シタル各種ノ証憑ニ徴シテ明瞭ナリトス然ルニ原裁判所カ其謀殺罪ノ証憑明確  
 ナルニモ拘ハラス漫然故殺ノ罪ナリト判定シタルハ不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云  
 フニ在リ仍テ本院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ニ從ヒ立會檢事澄川拙三ノ意見及被  
 告代言人小川盛重ノ辯論ヲ聞キ判決ヲ爲ス左ノ如シ  
 本案上告ノ趣旨ハ謀殺ノ証跡明確ナルニ故殺ト判定シタルハ不當ナルヲ以テ破毀ヲ請フト  
 云フニ在リト雖凡ソ證據ノ取捨鑑別ハ原裁判官ノ特有スル權内ニ在ルヲ以テ其當否ヲ論難  
 スルモ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルハ勿論原裁判言渡ニ「滿期分婉ノ女兒ナルヲ困窮ノ余  
 リ其生育ノ容易ナラサルヲ察知シ遂ニ故殺シ」云々ト故殺罪ヲ構成スヘキ事實ヲ掲ケテ刑  
 法第二百九十四條ヲ適用シタルモノナレハ固ヨリ至當ノ裁判ニシテ毫モ不法ノ廉アルコト  
 シ因テ上告ノ趣旨ハ相立サルモノトス  
 右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也

第二千百五號

○判文(毆傷) 明治十六年十二月十八日上告  
 同 十七年六月廿四日發付

山形縣羽前國最上郡庭月村



平民

松井富藏

明治十六年十一月

二十五年九ヶ月

右富藏外一名毆打創傷被告事件ニ付明治十六年十一月十九日新庄治安裁判所ニ開キタル山形輕罪裁判所ニ於テ刑法第四百四條第三百五條ニ照シ被告富藏ヲ同第四百二十五條第九項ニ依リ其第四百二十五條ニ照シ拘留十日ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ檢察官警部石井元治ハ上告ヲ爲セリ其要旨ハ被害者ノ負傷ハ與助一人ノ所爲ニ非ス被告富藏モ俱々被害者カ植牆ニ取付キタル手ヲ放タシメントシテ強テ引キタルニ由ルモノナレハ其所爲刑法第三百一條第二項ニ依リ尙ホ前キニ輕罪ノ刑ヲ受ケタル者ナルヲ以テ刑法第九十二條ニ依リ本刑ニ一等ヲ加フヘキモノナルニ原裁判玆ニ出テス刑法第四百二十五條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤事實理由ヲ欠キタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ對手人被告富藏ハ檢察官ノ上告ニ對シ異存ナシト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ノ論旨ハ原裁判上擬律ノ錯誤及ヒ事實理由ヲ附セサル不法ノ點アリト云フニ在リ因テ原判文ヲ閱スルニ被告富藏ハ後ヨリ蝙蝠傘ヲ以テ重左衛門ノ体部ヲ毆テ云々強テ引連レントシ重左衛門ノ腰下ノ衣裳ヲ引張ル時與助ハ重左衛門ノ取附キタル左手ヲ開放セシメシ爲メ之ヲ横引シ以テ拇指根第一節ヲ傷ツケ云々トアリテ被害者ノ拇指ヲ傷ツケタルハ全

ク與助ノ所爲ニシテ被告ハ唯毆打シタルニ止マル者ナレハ刑法第四百二十五條ニ依リ處斷シタルハ允當ノ裁判ナリ且既ニ違警罪ノ刑ニ處斷スル上ハ前キニ輕罪ノ刑ニ處セラレタルコアルモ再犯トシテ加等スヘキニ非サレハ原裁判上擬律ノ錯誤アリト爲スヲ得ス又刑法第四百二十五條ニ依リ拘留ニ處スルノ理由ヲ欠キタリト云フト雖モ被告富藏ハ毆打シタルモ創傷ノ所爲ナキ事實ヲ揭ケタレハ事實理由ノ不備ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノ也

第二千百六號

○判文〔持凶器強盜〕明治十六年七月五日上告  
同十七年六月廿四日發付

京都府山城國紀伊郡葦島新

田平民日雇稼

吉田梅吉

明治十六年六月

二十三年九ヶ月

右梅吉カ被告事件ニ付明治十六年六月九日京都重罪裁判所ニ於テ審理ノ末強盜ノ事實アリト認メ刑法第三百七十八條同第三百七十九條ニ依リ同第六十七條同第十七條ニ照シ十二年ノ有期徒刑ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ被告人カ所持スル緋縮緬ノ帛紗地カ贓品ナリトノコト盜犯四名ノ内一人カ被告人ニ相似タルトノ二事ニアルモ帛紗ハ會テ越前國へ鐵道人夫ニ出稼中賈ヒ得タルモノナリ又ハ容貌ノ相似タルトハ決テ信スヘカラ

サルコナルニ原裁判所ハ直ニ以テ強盜犯ナリト認メ刑ヲ言渡サレタルハ擬律ヲ錯誤シタルモノナリト云ヒ退テ上告辯明書ヲ差出シ前意ヲ擴張シ併テ豫審判官ハ請求セシ證人ヲ喚問セラレサルハ不法ナリト云ヒ破毀ヲ要求シ

對手人檢事補小室確爾ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辯駁シ原裁判毫モ不當ニアラスト答辯セリ大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ上告代官人佐久間長四郎ハ上告趣旨ヲ擴張シテ曰ク公判始末書ニ治罪法第三百八十六條ノ式ヲ履ミ裁判長ハ開廳スヘキヲ陳述シタリトノ記載ナク法ニ違ヒタルモノナリト云ヒ又ハ私訴ニ付檢察官ノ意見ヲ問ヒタル蹟ナク治罪法第三百九十九條ニ違背シ加之陪席判事ハ裁判長ニ告ケ而テ訊問ヲ爲スヘキニ之カ手續ヲ爲サス証人ヲ訊問シタルハ治罪法第二百九十一條ニ違背シタル共ニ越權ノ處分ナリト論述セリ立會檢事林三介ハ上告及代官人カ擴張趣旨ハ其理ナキモノナリトノ意見ヲ開陳セリ玆ニ之ヲ密接スルニ

上告ノ理由トスル處強盜ヲ爲シタルコアルニ非ルニ原裁判所ハ所持ノ帛紗ヲ贓品ナルト其容貌ノ似タルトヲ以テ強盜犯ナリト認メラレタルハ不當ナリト云フニアリト雖モ原裁判所カ正當ノ職權ニ因リ各種ノ證據ヲ取捨鑒別シ認メタル事實ニ對シ採證ヲ批難スルニ過キサレハ破毀ノ原由ト爲スコト得ス何ントナレハ治罪法第四百十六條ニ被告人ノ自狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ證據ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ又豫審判官ハ請求セシ證人ヲ喚問セサリシト云フ不服ノ理由ナルモ當時終結ノ際之カ上訴ヲ爲サスシテ今更豫審確定ノ後ニ至リ之カ不法ヲ訟フルモ亦上告ノ原由ト爲スヲ得サル

モノトス其他代官人ニ於テ裁判長ハ開廳スヘキノ陳述ヲ爲サス私訴ニ付檢事ノ意見ヲ問ハス陪席判事ハ裁判長ニ告ケス證人ヲ訊問シタル如キハ治罪法ノ規則ニ違背シタリト云フニアルモ治罪法第三百八十六條ニ裁判長ハ開廳ノ日ニ當リ公廷ニ於テ陪席判事檢察官ノ面前ニテ開廳スヘキヲ陳述ス可シ云々トアルハ其重罪法庭ヲ開ク初頭ニアリテ行フヘキ式ニテ其期中重罪審判ノ件數毎ニ之カ陳述ヲ爲スヘシト定メタル法文ニハアラサルナリ今ヤ本案訴訟書類ヲ見ルニ重罪法庭ヲ開キタル初頭ニアリテ審判シタル件數ナリトモ見ルニ由シナケレハ敢テ之カ式ヲ行ハサリシモ不當ト云フヲ得ス假ニ重罪法庭ヲ開キタル初頭ニアリテ審判セシモノトシ之カ陳述ヲ爲サ、リシハ不當ナリトスルモ其當時ニアリテ被告人ハ之カ異議ヲ申立テラレハ治罪法第四百十條第四ニ又ハ無効ノ記載ナキ規則ニ背キタルニ因リ異議ノ申立アリタル場合ニ於テ之ヲ認可セサル時トアル明文ニ適當セサル論旨ナリトス從テ越權ノ處分ニモアラサルナリ又外二點ノ論旨モ異議ヲ申立テタル場合ニアラサレハ前同

一ナルヲ以テ別ニ贅セス因テ上告及ヒ擴張趣旨共ニ相立、サルモノト判定ス以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

第二千七百七號

○判文(強盜) 明治十六年六月十五日上告  
同 十七年六月廿四日發付

神奈川縣橋樹郡本能寺村出  
生無籍箕作業

前田 權次郎

明治十六年五月  
二十一年六月生

明治十六年五月二十八日神奈川重罪裁判所ニ於テ被告權次郎カ強盜事件ヲ審理シ刑法第三百七十八條第三百七十九條第百十三條第百條ニ依照シ二十歳未滿ニ付仍同第八十一條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ重懲役七年六月ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事渥美友成ハ上告セリ其要旨ハ被告カ所爲ハ二人以上持兇器強盜ヲ爲シタル者ナレハ刑法第三百七十八條第三百七十九條ヲ適用シ二十歳未滿ニ付同第八十一條ニ照シ減一等即チ重懲役九年以上十一年以下ノ刑期範圍ニ於テ處斷スヘキモノナルニ減一等ヲ言ナカテ重懲役七年六月ト言渡シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ對手人被告權次郎ハ答辨書差出サス大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事澄川拙三ノ意見及代言人梅田貞次ノ陳述ヲ聽キ之ヲ審按スルニ被告ノ所爲ハ原裁判所カ認メタル事實ニ依レハ二人以上持兇器強盜ノ數罪ヲ犯シタル事明確ニシテ即チ一ノ重キ刑法第三百七十八條第三百七十九條ニ依リ二十歳未滿ニ付同第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ重懲役九年以上十一年以下ノ刑期範圍ニ於テ處斷スヘキモノトス然ルニ原裁判ノ法律適用ニ至リ減一等ヲ言ヒナカラ其刑期範圍ヲ誤リ重懲役七年六月ト言渡シタルハ不法ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ依リ直チニ判決スルコト左ノ如シ

前田 權次郎

右ノ理由ニ付被告事實ハ原裁判所カ確認スル所ニ依據シ刑法第三百七十八條第三百七十九

條第百十二條第百十三條第百條ニ依照シ二十歳未滿ニ付仍同第八十一條第六十七條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ重懲役九年以上十一年以下ノ範圍ニ於テ重懲役九年ニ處ス  
但犯罪ノ用ニ供シタル麻繩蠟燭マツチ等ハ刑法第四十三條ニ從ヒ沒收シ裁判費用ハ負擔スヘシ其他現在ノ物品并差押ヘ品ハ原裁判ノ通各所有者ニ還付ス  
第二千八百八號

○判文(竊盜) 明治十七年一月十二日上告  
同 十七年六月廿四日發付

京都府下京區第二十九組西

八百屋町平民古手商

三 好 幸 七

明治十六年十二月  
四十六年四月

右幸七カ被告事件ニ付明治十六年十二月十二日京都重罪裁判所ニオイテ被告カ瀬川熊次郎ニ對シ暴行脅迫ヲ爲シタルトノ事件ハ証憑不充分ナルニヨリ無罪ナルモ其他四次ノ犯罪ノ内第一ノ所爲ハ既決ノ囚徒逃走ノ罪第二ハ他人ノ物品ヲ毀棄シタル罪第三ハ牆壁ヲ踰越シタル盜罪第四ハ屬籍氏名職業ヲ詐稱シタル罪ナリ而シテ第一ノ犯罪ヲ除クノ外ハ皆再犯ニ係ルヲ以テ刑法第四百二十二條ノ初項同第四百二十一條同第三百六十八條同第三百六十七條同第三百七十六條同第二百三十一條同第九十二條ニ依リ數罪俱發スルヲ以テ同第百條ニ照シ所犯情狀最モ重キ第三ノ竊盜罪ノ一ニ從ヒ五年六月ノ重禁錮ニ處シ一年三月ノ監視ニ付ス

ル旨言渡シタリ對手人檢事補鶴田朝ハ該裁判ヲ不當トシ上告セル要旨ハ原裁判言渡書中被  
 告ハ明治十六年十一月五日午前四時頃壁ヲ切毀ツノ用具ト爲スノ意思ヲ以テ所持ノ出刃庖  
 丁ヲ携帯シ云々其兇器ヲ不用トシ關キタル場所ト衣類ヲ竊取シタル場所ハ五間餘ノ距離ナ  
 ルヲ以テ兇器ヲ携帯シテ行フタル事實ニアラストアリ是レ不適當ノ裁判ナリ如何シトナ  
 レハ刑法第二百七十條ノ精神タルヤ苟クモ竊盜ノ目的ヲ有シ兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタ  
 ル邸宅ニ入ルヲ以テ該條ノ犯罪成立ス可キハ法文ニ揭テ明カナレハナリ然ルニ原裁判玆ニ  
 出テサリシハ所謂擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ被告三好幸七ハ原裁判ハ正當適實ニシ  
 テ本案上告ハ不當ナリト答辨シタリ

大審院オイテ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ檢事澄川拙三ノ意見被告代理人仁杉英  
 ノ陳述ヲ聞キ之レヲ審按スルニ上告ノ理由トスル所ハ苟クモ竊盜ノ目的ニテ兇器ヲ携へ人  
 ノ住居シタル邸宅ニ入りタル已上ハ其用法ノ如何ニ拘ラス刑法第三百七十條ニ問擬ス可  
 シト云フニアレト該條ノ法文タルヤ「兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯  
 シタル者」トアリ是レ其兇器ヲ抱持シテ竊盜ヲ遂ケタル者ヲ云フヤ明カナリ本案被告ハ瀨  
 川熊次郎ノ邸宅ニ入りタルモ該出刃庖丁ノ所在ハ別棟ノ納家ニシテ且ツ盜所即チ家内ノ寢  
 臥シタル所ヲ距ルコト五間餘ナルハ原判文ニ明示シタル如クナリ然ラハ被告カ出刃庖丁ヲ携  
 ヘタルハ之レヲ憑ンテ竊盜ヲ遂クルノ爲メナラスシテ牆壁ヲ毀壞スルノ意思ヲ以テ用意シ  
 タリト做サ、ルヲ得ス故ニ原裁判所カ被告カ所爲ヲ認メ兇器ヲ携帯シテ行フタル事實ニア  
 ラストシ刑法第三百七十條ヲ適用セサリシハ允當ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ謂フ所

ノ擬律錯誤ノ裁判ニ非サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之レヲ棄却スルモノナリ  
 第二千九號

○判文〔竊盜及詐欺取財〕明治十六年三月七日上告  
 同 十七年六月廿四日發付

山形縣羽前國南置賜郡成島

町士族勇太三男無職業

牧野與市

明治十五年十二月

二十七年三月

右與市カ被告事件ニ付明治十五年十二月廿八日上田輕罪裁判所カ第一氏名詐稱已決囚徒逃  
 走人ノ器物ヲ毀棄第二竊盜第三詐欺取財未遂第四未決囚徒逃走官吏ノ職務ヲ妨害スルノ事  
 實アリト認メ刑法第百條ニ從ヒ一ノ同第三百六十六條同第三百七十六條ニ依リ四年ノ重禁  
 錮ヨリ先ニ受ケタル刑ノ役過セシ三十一日ヲ控除シ三年十月二十九日ノ重禁錮ニ處シ二年  
 ノ監視ヲ付加ストノ裁判言渡ヲ不當ナリトシ檢事補高橋克親ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被  
 告人カ所爲ニ對シ其情狀ノ最モ重キ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ニ從ヒ重禁錮四  
 年ニ處シ監視二年ヲ附加シ先ニ處斷ヲ受ケタル重禁錮一年ヨリ同第五十二條ニ依リ役過シ  
 タル三十一日ヲ除キ更ニ十月二十九日ヲ拘役スヘキト刑ノ適用ヲ述タルニ原裁判所ハ數  
 罪俱發ノ内情狀ノ重キ竊盜ノ科ニ因リ重禁錮四年ヨリ已ニ役過シタル三十一日ヲ除キ更ニ

重禁錮三年十月二十九日ニ處シタリ然ルニ今回裁判シタル處ノ重禁錮四年ノ刑ハ未タ一日モ服役セサルノミナラス其裁判モ確定セサルニ既ニ役過シタル三十一日ヲ控除ストノ裁判ハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人被告與市ハ上告趣旨ノ不當ナルトノ趣旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

刑期限内逃走シ更ニ數罪ヲ犯シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ刑法第五十二條ニ明掲スル如ク前ニ受ケタル一罪ニ對シ逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日數ヲ計算シ服役セシムヘキ刑期計算法ヲ示シタルモノニテ既ニ確定シタル裁判ニ對シ更ニ論擬スヘキモノニアラサルナリ而テ逃走後ノ犯罪ニ付テハ刑法第百條第三項ニ從ヒ所犯情狀ノ最重キ罪ニ依リ更ニ相當ノ刑ヲ科スヘキコトハ上告趣旨ノ如クナルニ原裁判所ハ其事實ヲ認メナカラ前ニ受クヘキ刑ト逃走後ノ犯罪ニ依リ受クヘキ刑トヲ混淆シ四年ノ刑期ヨリ三十一日ヲ控除スト裁判言渡シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ適當スル上告ニテ破毀ノ原由アル裁判ナリト判定ス以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スルコト左ノ如シ

牧野 與市

原裁判言渡ニ掲ケタル各種ノ徵憑ニ依リ認メタル事實ハ第一ハ刑法第二百三十一條同第四百四十二條同第五十二條同第四百二十一條第二ハ同第三百六十六條同第三百七十六條第三ハ同第三百九十條同第三百九十七條第四ハ同第四百四十四條同第四百四十九條同第五百二十九條ヲ

適用スヘキ數罪ニテ即チ刑法第百條第三項ニ依リ其所犯情狀最重キ第二ノ同第三百六十六條ヲ適施シ罰スヘキ竊盜ノ罪ナリトス

其第三百六十六條ニ人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

其第三百七十六條ニ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス因テ被告牧野與市ヲ三年ノ重禁錮ニ處シ一年ノ監視ヲ附加スル者也  
第二千百十號

○判文(山林盜伐) 明治十五年十二月七日上告  
同 十七年六月廿四日發付

千葉縣下總國海上郡清瀧村  
平民

佐久間儀三郎

年齡不詳

同村平民

多田吉藏

年齡不詳

同國香取郡富川村平民

木内伊之助

年齡不詳

同村平民

岩瀬由松

年齢不詳

同村平民

木内寅市

年齢不詳

同國海上郡松ヶ谷村平民

小長谷久右衛門

年齢不詳

右儀三郎外五名カ立木盜伐ノ被告事件ニ付豫審判事カ盜伐ト認ムル廉ナキヲ以テ免訴シタル豫審終結言渡ニ對シ民事原告人越川四郎右衛門カ故障ヲ爲シタルニ因リ明治十五年七月廿八日千葉輕罪裁判所會議局ニ於テ該豫審終結言渡ヲ認可シタル判決ヲ不當ナリトシ右四郎右衛門カ上告ノ要点ハ被告カ犯罪ノ証憑充分ナルヲ免訴シタル豫審終結言渡ヲ認可シ故障申立ヲ棄却シタルハ不當ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

民事原告人タル者私訴ニ付豫審終結言渡ニ對シテ故障ヲ爲シ得ヘキハ特ニ越權ノ處分アル場合ニ限ルハ治罪法第二百四十六條ニ掲グル文詞ノ如シ今本案上告ノ如キハ被告ハ立木盜伐ノ廉ナシト事實ノ判定ヲ下シタルニ不服ヲ唱ヘ之カ故障ヲ爲シタルモノナレハ千葉輕罪

裁判所會議局カ其故障申立ヲ棄却シタルハ固ヨリ相當ノ判決ニシテ不當ニ非ス因テ該上告ハ其理由ナキモノトシ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

第二千百一十一號

○判文(遺失物隱匿) 明治十六年十二月廿七日上告  
同 十七年六月廿四日發付

山形縣羽前國西村山郡谷地  
荒町平民湯屋渡世藤兵衛長  
男

檜 芳 吉

明治十六年十二月  
十四年十一月

明治十六年十二月八日山形輕罪裁判所ニ於テ右芳吉カ遺失物隱匿被告事件ヲ審判シ刑法第三百八十五條ニ依リ犯時年齡十六歲ニ滿タサルモ辨別アツテ犯シタルモノナルヲ以テ刑法第八十條第二項第七十一條ニ照シ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減シ其範圍内ニ於テ五日ノ拘留ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ原裁判所檢事山川德治ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ刑法第三百八十五條ノ罪ハ遺失物取扱規則第二條ノ五日間ヲ經過シタル後成立スル者ト解釋セサルヲ得ス故ニ被告カ遺失物ヲ得テ其翌日ニ返還シタルモノナレハ未タ犯罪成立セサルモノナルニ原裁判所ハ右刑法第三百八十五條ニ依テ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ又原判文ニ拾得シタル場所店頭ト云ヒ店先ト云ヒ宅内ナルヤ往來ナルヤ明瞭ナラス若シ

宅内ナレハ窃盜ナルヘク往來ナレハ遺失物ナルヲ以テ其場所ヲ明示スルハ最モ必要ナルニ  
 此事實理由ヲ欠キタリト云フニ在リ對手人被告芳吉ハ右上告ニ對シ答辨セズ  
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ按スルニ上告ノ理由ト爲ス  
 處原裁判言渡書ニ事實理由ヲ明示セス及ヒ擬律ニ錯誤アリト云フニアルヲ以テ茲ニ原判文  
 ナ闕スルニ山崎貞太郎者店頭ニ立越シ鎌貫求メ歸宅セシ際被告モ續テ店頭ニ立出タリ  
 シニ圖ラズ財布ノ落チ居リタルヨリ云々トアリ而シテ其店頭ノ語ハ其區域廣クシテ必スシモ  
 店場内ト限ルヘカラス假リニ店場内トセルモ抑店場ハ衆人出入ノ場所ニシテ殆ト戸外通路  
 ト異ナルナケレハ概シテ窃盜ヲ以テ論シ難キ場合モアルモノナレハ此點ニ付原裁判上理由  
 ノ不備アリトスルモ之ヲ以テ本按破毀ノ原由ト爲スヲ得ス又刑法第三百八十五條ノ罪ハ  
 遺失物取扱規則第二條ノ五日間ヲ經過シタル後ニ成立スルモノト解釋シテ原裁判ノ不當ヲ  
 鳴スト雖モ遺失物取扱規則第二條ハ唯届出猶豫期限ヲ定メタル迄ニシテ五日ノ期限内外ヲ  
 以テ罪ノ成立ヲ論ス可キモノニ非ス故ニ惡意ヲ以テ之ヲ隱匿シタルモノハ假令五日以内ナ  
 ルモ刑法第三百八十五條ヲ以テ論スヘキモノトス而シテ本按被告ハ如キハ再三詰責セラレ  
 包ムニ由ナクシテ隱匿シタル旨ヲ白狀シテ返還シタル事實ナレハ原裁判官ニ於テ刑法第三  
 百八十五條ヲ適用シタルハ允當ノ裁判ナリトス  
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本按上告ヲ棄却スルモノナリ  
 第二千百十二號

○判文(詐欺取財)明治十六年四月十八日上告  
 同 十七年六月廿四日發付

群馬縣上野國東群馬郡前橋

曲輪町平民

菊池源吉

明治十六年二月

三十七年五月

明治十六年二月二十三日前橋輕罪裁判所ニ於テ右菊池源吉カ詐欺取財被告事件ヲ審判シ刑  
 法第三百九十條第三百九十四條ヲ適用シ重禁錮二月罰金五圓監視六月ノ刑ニ處シ詐取セシ  
 衣類ハ小峯「テイ」ノ所有ナルヲ以テ同人ニ返還ス可シト言渡シタル裁判ニ服セス被告人源  
 吉ハ上告ヲ爲シタリ其要領被告人ハ栗山專平へ金圓ヲ貸與シ其抵當トシテ衣類ヲ受取リタ  
 ルモノニシテ之ヲ典物トナシタルハ專平承諾上ノ事ナレハ罪ト爲ル可キ所爲ニ非ス假ニ承  
 諾ヲ經サルモノトスルモ其衣類ハ欺罔ノ手段ヲ以テ騙取シタルニ非スシテ委託ノ物品ヲ費  
 消シタルモノナルニ因リ刑法第三百九十五條ヲ適用ス可キ犯罪ナリ且典物トナシタルモ流  
 質ニ至ラスシテ物品現在スルヲ以テ仍ホ同第三百九十七條ニ照シ處斷セラル可キモノナリ  
 又本案衣類ハ栗山專平ヨリ預リタル物件ナルニ直チニ小峯「テイ」ニ返還ス可シト言渡サレ  
 タルハ順序ヲ踐マサル不當ノ裁判ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ  
 定式ヲ履行シ判決ヲ爲スコ左ノ如シ  
 原裁判言渡書ヲ檢閱スルニ被告人ハ栗山專平カ小峯「テイ」所有ノ衣類等入質シアルヲ受ケ  
 出スノ際不足金拾五圓ヲ專平ニ貸渡シ其衣類ヲ預リ他ニ入質等爲シ置キナカラ豫審掛數度

ノ訊問ニ對シテハ右品々預リタル儀決シテ無之旨抗辨シ專平等ハ惡皆販賣シタル旨申欺  
 キ且前ノ貸金ハ專平ヨリ返濟ヲ受ケ置ナカラ飽迄同人等ヲ瞞着シ其品差戻サザル所爲ハ即  
 チ入チ欺罔シテ財物ヲ騙取シタルモノト判定シ刑法第三百九十條ヲ適用シタルモノニシテ  
 其詐欺取財タルノ事實明白ナリ然ルニ被告人ハ委託物ヲ費消セシ所爲ニ止マルト陳辯スル  
 モ裁判官ノ職權ヲ以テ判定シタル事實ノ當否ヲ論難シ漫ニ不服ノ旨ヲ訴フルニ過キスシテ  
 上告ノ理由ト爲スコト得ス又物品返還ノ處分ハ順序ヲ謬リタリト論告スルモ右衣類ハ小峯  
 「テイ」ノ所有ナルコト明瞭ナルニ因リ直チニ所有主ヘ還付ス可シト言渡シタルモノナレハ之  
 チ以テ不當ノ處分ト謂フコト得ス依テ上告ノ旨趣總テ相立タサルモノト判定シ治罪法第四  
 百二十七條ノ成規ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

第二千百十三號

○判文(詐欺取財) 明治十六年十二月二十日上告  
 同 十七年六月廿四日發付

大坂府河内國八上郡中村五  
 十三番地平民重田安松方同  
 居

野口留吉

明治十六年十一月

三十三年十一月

明治十六年十一月三十日五條治安裁判所ニ開キタル大坂輕罪裁判所奈良支廳ニ於テ被告留

吉カ監視規則違犯及ヒ詐欺取財被告事件ニ對シ監視規則ニ違犯ノ罪ハ刑法第五百十五條ニ  
 依リ再犯ナルチ以テ同第三百五十六條ニ照シ重禁錮二月ニ處シ詐欺取財ノ罪ハ刑法第三百九  
 十條ニ依リ再犯ナルチ以テ同第九十二條ニ照シ重禁錮二月十五日ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加  
 シ仍ホ同第三百九十四條ニ依リ六月ノ監視ニ付スル者也但數罪俱ニ發シタルチ以テ刑法第  
 百條第三項ニ依リ所犯情狀最モ重キ詐欺取財ノ刑ノミヲ執行スト裁判言渡シチ爲シタリ原  
 裁判所檢察官警部補川崎芳太郎ハ右裁判ヲ不法ナリトシ上告ヲ爲シタル要旨ハ被告留吉ハ  
 明治十五年十二月廿八日堺輕罪裁判所ニ於テ監視規則違犯事件ニ付欠席裁判ヲ受ケタルモ  
 所々徘徊シテ其處刑ヲ受ケタルコトヲ知ラス明治十五年十一月十一日詐欺取財事件訊問中始  
 メテ之ヲ覺知シタルモノナレハ再犯チ以テ論ス可キニアラサルニ刑法第五百十六條同第九  
 十二條ヲ適用シ一等ヲ加ヘ尙ホ詐欺取財ノ所爲ト俱發セシモノトシ刑法第百條ヲ適用シタ  
 ルハ總テ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ對于人被告野口留吉ハ該上告ニ對シ答辨セズ  
 茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ被告カ監視  
 規則違犯ノ罪ハ明治十五年十二月二十八日重禁錮一月ノ欠席裁判ヲ受ケタルモ所々徘徊シ  
 テ本籍ニ立歸ラス明治十六年十一月詐欺取財事件訊問中始メテ欠席裁判アリタルコトヲ知リ  
 シモノナレハ上告論旨ノ如ク更ニ再ヒ監視規則ヲ犯シタル者ト謂フチ得ス而シテ該欠席裁  
 判ハ被告人ノ之ヲ覺知シタル當時故障ナクシテ確定シタルモノナルチ以テ後ニ發シタル詐  
 欺取財ノ罪ヲ處斷スルニ方リ刑法第百二條一罪前ニ發シ云々其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發  
 ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算スルトアルニ照シ詐欺取財ノ刑ニ通算スヘキモノトス然ルニ原



三三〇  
裁判茲ニ出テス監視規則再犯ノ罪ト詐欺取財再犯ノ罪ト俱發シタルモノト判定シ刑法第三百九條ニ依テ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決ヲ爲ス左ノ如シ

野口留吉

右ノ理由ニシテ原裁判所ノ認メシ事實ナルヲ以テ被告ノ所爲ヲ法律ニ照スニ刑法第三百九十條人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ該ルモ再犯ナルヲ以テ同法第九十二條同第七十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ二月十五日以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ同法第三百九十四條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモノトス而シテ被告ハ曩キニ監視規則違犯ノ罪ニ付重禁錮一月ノ欠席裁判ヲ受ケタル者ナルヲ以テ同法第二百二條ニ照シ後發ノ刑ニ通算シテ被告留吉ヲ二月十五日ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付スル者也

第二千十四號

○判文〔騙取〕明治十六年十二月三日上告  
同十七年六月廿四日發付

大分縣豊後國大分郡鶴崎町

士族農業

姫野啓治

明治十六年十月

五十五年五ヶ月

右啓治カ被告事件ニ對シ明治十六年十月三十日大分縣裁判所ニ於テ被告ハ小出展治ト謀リ藤田薰藏ヘ對シ詐欺取財ノ罪ヲ犯セシ者ニテ其所爲新法實施以前ニ係ルニヨリ刑法第三條ニ基キ舊法即チ新律綱領賊盜律詐欺取財條ニ照シ竊盜ニ準シテ論シ贓金三十圓以上改定律例改正七罪例圖ニ依リ懲役九十日ト新法即チ刑法第三百九十四條ヲ比較シ明治十四年第八十一號布告ニ照シ輕キ新法ニ從ヒ重禁錮二月ニ處シ公訴裁判費用ヲ負擔セシメ民事原告人ノ訟求ハ相立タスト言渡ル裁判不當ナリトシ被告啓治ハ上告セリ其要領ハ被告カ薰治ヲ欺キ金圓騙取セシコナキハ首藤壽馬カ登時被告ハ不在ナリシトノ証言及ヒ薰藏ト續幸夫ノ供述相齟齬スル耳ナラス其他事實上歷々之ヲ証明スルニ足ルヘキモノアルヲ原裁判所カ更ニ之ヲ顧スシテ反テ証トナラサルモノニ信ヲ措キ被告ヲ詐欺取財犯者ト所斷シタルハ當ヲ得ス由シ又該金收受シタリト假定スモ薰藏ハ展治ニ返金スヘキ義務アリテ之ヲ被告ニ渡セシモノナレハ毫モ詐欺騙取ノ手段ナキヲ以テ之ヲ費用受寄財産條ニ問擬スヘキ筈ナラン仍ホ私訴ニ付テモ被告一名ニ係リシカ不當ニシテ展治ト兩名ニ係ルニ於テハ其要求理アルモノハ如クニ判決アリシハ共ニ不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云ニ在リ

原裁判所檢事補山中幸義ハ被告ノ上告至當ナル旨答辨シ併テ附帶ノ上告爲シタル要領ハ被告カ犯罪ノ証憑不充分ナルヲ以テ無罪ノ言渡爲スヘキコト勿論ナレモ茲ニ一步ヲ讓リ其認定シタル事實アリト假定スモ箇ハ寄託金消費シタルニ過キサル耳若シ或ハ之ヲシテ刑法第三百九十五條ノ後段即チ騙取ノ處爲アリシト認定シタルモノトセンカ尙ホ事實及ヒ法律ノ

理由ニ瑕瑾アリ又公判辯論ノ順序ニ付キ治罪法第三百五十三條ニ背戾シタルコトアルヲ以テ  
異議ノ申立ナシタルニ對手人意見モ聞カスシテ之ヲ排斥シ仍ホ辯論終結以後裁判言渡ニ至  
ル迄四十七日ヲ經過セシ耳ナラス此間ニ於テ告訴人及ヒ其他ノ者ヨリ夥多ノ書面ヲ徴セシ  
ハ渾テ違法ノ所斷ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云ニ在リ

民事原告人藤田薫藏ハ原裁判至當ニシテ被告ハ上告ノ不理ナル旨答辯セリ

因テ治罪法第四百廿五條ノ式ヲ履行シ之ヲ審案スルニ原判文中明治十五年三月中展治ヨリ  
薫藏ニ係リ大分治安裁判所へ出訴ノ節廿八圓七十二錢ヲ差引ノ上出訴爲サシメタルモ三十  
圓ハ詐テ受取リタルコトナシト供出シテ展治カ勝訴ニ歸シ展治ト共ニ其騙取ノ目的ヲ遂ケタ  
ル事實アリト認定ス「トアルヲ以テ見レハ其爰ニ至リシ起因ハ遠ク新法實施以前ニ在リト  
スルモ其罪ヲ構造セシハ全ク明治十五年三月ニシテ即チ新法實施以後ニ在ルカ如シ然ルニ  
刑法第三條ヲ引用シテ新舊二法ヲ比照シ以テ之ヲ所斷シタル耳ナラス仍ホ其勝訴ヲ以テ騙  
取ノ目的ヲ遂ケタルモノトノ文詞アルヲ見レハ其主眼ハ金圓詐取ニアラスシテ唯勝訴ヲ企  
圖セシニ過キサルモノ、如シ果テ然レハ詐欺取財ノ罪アル者ニアラサルコトハ今爰ニ喋々ノ  
辨ヲ待タス尙シ其主要金圓騙取ニアリシモノトセハ未ダ以テ其目的ヲ遂ケ得サリシコトハ了然  
タルニ適ツルニ已遂犯ノ刑ヲ以テシタルハ不當ナリト云ハサルヲ得ス故ニ或ハ該判文中明  
治十四年十一月中展治ヨリ薫藏へ係リ舊大分區裁判所へ勸解出願ノ節双方ノ示談ニ因テ再  
ヒ薫藏ヨリ展治へ差入ル、金三十圓ヲ被告ニ於テ受取リ豫テ展治ト相謀リ明治十五年一月  
ニ至リ展治ヨリ薫藏ニ係リ大分治安裁判所へ再ヒ勸解出願ヲ爲シタル節証人トシテ其訊問

ヲ受ケ一旦右二稜ノ金員ハ展治ト同シク受取リタルコトナシト答辯セシモノ云々」トアルノ事  
實ヲ認メ以テ處斷セシモノカト云ハソニ箇ハ又純平タル詐欺取財ノ罪ヲ構造スヘキ元素ニ  
虧欠アルヲ以テ未ダ刑法第三百九十條ニ適切ナル事實ナリト云チ得ス因テ其他ノ上告点ハ  
逐一當否如何ノ判決ヲ要セス結局治罪法第四百十條ノ第九第十等ニ適當スル破毀ノ原由ア  
ル裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ公訴ニ係ル原裁判ノ全部ヲ破毀シ更ニ相  
當ノ裁判セシムル爲メ之ヲ熊本輕罪裁判所ニ移スモノ也

但私訴ニ係ル上告ハ治罪法第四百十條ニ規定セシ項目ニ適當セル原由之レナキニ付同法  
第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却ス

第二千百十五號

○判文(賭博)明治十六年十二月八日上告  
同 十七年六月廿四日發付

愛知縣尾張國東春日井郡瀬

戸村平民無職業

井上新兵衛

明治十六年十一月

五十三年八月

右井上新兵衛カ被告事件ニ對シ明治十六年十一月二十日御嵩治安裁判所ニ開キタル岐阜輕  
罪裁判所於テ被告ハ金錢ヲ賭シ現ニ博奕ヲ爲シタルモノト認定シ刑法第二百六十一條ニ依

リ重禁錮一月ニ處シ罰金五圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ原裁判所檢察官御嵩警察署警部補稻吉綱五郎ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ハ杉山常男外數名カ金錢ヲ賭シ博奕ヲ爲シタル際其駒元トナリ利ヲ圖リタル者ニテ其事實ハ自白等ニ依リ明瞭ナレハ刑法第二百六十條ニ照シ處斷スヘキヲ同法第二百六十一條ヲ適用シ處斷セシハ擬律錯誤ト信認スルヲ以テ原裁判ヲ破毀シ至當ノ判決ヲ求ムト云フニアリ

大審院於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判スル左ノ如シ

上告旨趣ハ被告ハ博奕ヲ爲ス際駒元トナリ利ヲ圖リタルモノナルヲ刑法第二百六十一條ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアレモ是レ原裁判所カ認メサル事實ヲ掲ケテ其裁判

ノ當否ヲ論難スルニ止マリ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ス何ントナレハ諸般ノ證據ヲ取捨シ事實ヲ認定スルハ原裁判官ノ特權ニシテ他ヨリ之ヲ非難シ得ルノ限リニ非サレハナリ

右ノ理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ニ基キ本按上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第二千百十六號  
○判文(無届不參) 明治十六年六月十九日上告  
同 十七年六月廿四日發付

青森縣陸奥國三戸郡小中野

村字北横町平民職業不詳

大久保茂八郎

年齢不詳

青森縣陸奥國上北郡三澤村

字五川目村平民職業不詳

川村米吉

年齢不詳

右茂八郎米吉カ召喚當日無届不參スル被告事件ニ付明治十六年五月二十二日八戸治安裁判所ニ於テ明治十年第五號公布及明治十四年第七十二號公布ニ依リ各罰金四圓ニ處ストノ裁判言渡ニ服セス各上告セリ茂八郎カ上告ノ要領ハ召喚ニ應シ出頭シタルモ詞訟上不案内ナルヨリ名刺モ差出サス且原告モ出頭セサルニ付其儘歸宅シ翌十九日連帶人及ヒ原告人ト熟議ノ上同月二十六日マテ延期出願シタルニ掛官ハ其際前日ノ不參ノ廉ヲ訊問セサルハ是レ黙許セラレタルモノト信認セリ然ルチ豈ニ計ラシヤ同二十二日ニ至リ欠席ノ上罰金ヲ言渡サレタルハ不當ナルニ因リ取消請願スルモ採用セサルノミナラス延期内ニ召喚セラレタルハ不服ナリト云ヒ米吉カ上告ノ要旨モ茂八郎ト異ナル處ナキヲ以テ別ニ掲載セズ  
對手人檢事補二瓶正性ハ上告旨趣不當ニシテ原裁判妥當ナリト答辯セリ  
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告ノ理由トスル處召喚ニ應シ出頭シタルモ原告人モ出頭セサレハ名刺ヲ差出サス歸宅シタリ又ハ延期請願スルモ前日ノ不參ノヲ訊問セラレサレハ黙許セラレタルモノナリ延期内再ヒ召喚セラレタルハ不當ナリト云フニアリト雖モ要スルニ原裁判所ニ於テ各種ノ證據ヲ審案シ召喚當日無届不參シタルモノト認メタル事實判定上ニ對シ徒ニ之レヲ左右セントスルニ過キサレハ之レヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得サルモノトス因テ上告ハ相立タサルモノト判定ス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ法リ本接上告ヲ棄却スルモノ也

第二千百十七號

○判文(無届不參)明治十六年五月二日上告  
同 十七年六月廿四日發付

山口縣長門國厚狹郡山川村  
平民

中村卯之助

明治十六年二月二十三日赤間關治安裁判所ニ於テ右中村卯之助カ無届不參事件ヲ審判シ明治十年第五號布告ニ照シ一圓五十錢ノ科料ニ處スト言渡シタル欠席裁判ニ對シ中村卯之助ハ上告ヲ爲シタリ其要領上告人ハ曩キニ山口輕罪裁判所豫審掛ノ呼出ニ因リ出頭シ不在中ナルヲ以テ赤間關治安廳ノ召喚ヲ受ケタリヤ否ヲ知ルニ由ナシ其召喚狀ハ妻「ウ」カ請取タル所ニシテ上告人カ入手セシニ非サレハ召喚狀ヲ受ケナカラ何分ノ事由ヲ届ケ出サルハ「ウ」カ失錯ニ係リ上告人カ關知スル所ニ非ス故ニ出頭當日不參セシモ罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ニシテ即チ刑法第七十七條ノ明文ニ依リ無罪タル可キ者ナレハ原裁判ヲ破毀シ公明ノ判決ヲ仰クト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審接スルニ

上告ノ旨趣ハ裁判所ノ召喚ヲ受ケタルヲ知ラサルニ因リ無届不參ノ罪アルナシト陳辯シ事實ノ覆審ヲ求ムルニ過キス抑無届不參ノ闕席裁判ヲ受ケタル者當日果シテ正當ノ事故アリテ出頭スルヲ得サリシモノナレハ言渡書ノ送達アリタルヨリ三日内ニ原裁判所ニ對シヒ之ヲ棄却スルモノナリ

第二千百十八號

○判文(集會條例犯)明治十六年六月十八日上告  
同 十七年六月廿四日發付

京都府葛野郡下嵯峨村平民  
牛車營業

笹井庄五郎

明治十六年九月  
四十一年八月

明治十六年九月十九日京都輕罪裁判所ニ於テ右笹井庄五郎カ官吏抗拒被告事件ヲ審理シ被告ハ巡查カ身代限揭示ヲ貼付セントスルニ當リ其說論ニ從ハス兩手ヲ擴ケテ巡查ノ前ニ立塞リ強テ其執行ヲ妨ケタルモ唯命令ノ執行ニ對シ障礙ヲ與ヘタル者ニシテ刑法第三百二十九條ニ依リ論スヘキ者ニ非ストシ無罪放免ノ言渡ヲ爲シタリ原檢察官小室確爾ハ之ヲ不法トシ上告シタルノ要領ハ手ヲ以テ毆チ足ヲ以テ蹴リ又器物ヲ以テ遮ル等皆暴行中ノ手段ニシテ唯其方法ノ異ナルノミ身體ニ接スルト否トヲ以テ之カ區別ヲ定ムヘカラス刑法第三百二十九條ハ總テ手荒キ舉動ヲ爲シ因テ行ヒ得ヘキ職務ヲ妨ケタルモノヲ罰スルノ旨趣ニシテ被

告カ所爲ノ如キ其一ニ居ルモノナレハ原裁判ノ破毀ヲ求ムト謂フニ在リ大審院ニ於テ治罪  
 法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スノ左ノ如シ  
 刑法第三百二十九條ニ記載シタル抗拒ノ罪ハ暴行若クハ脅迫ノ所爲ヲ以テ爲シタル時ニ非レ  
 ハ構造セサルナリ原判文ヲ閱スルニ被告人ハ巡查ノ説諭ニ從ハス兩手ヲ擴ケテ巡查ノ前ニ  
 立塞リ云々トアリテ命令ノ執行ヲ阻止シタルノ舉動ハ確認スヘキモノアリト雖モ其行爲未  
 タ暴行脅迫ニ涉ラサルモノナレハ原裁判所カ官吏ニ抗拒シタル者ヲ以テ論スヘキ限ニ在ラ  
 ストシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ正當ニシテ上告ノ趣旨ハ相立タサルモノトス仍テ治罪法第  
 四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノナリ  
 第二千百十九號

○判文〔集會條例犯〕明治十六年十二月十三日上告  
 同 十七年六月廿四日發付

大坂府東區常盤町一丁目三  
 十一番地平民雜業

上西 忠太郎

明治十六年十一月

安政四年三月廿八日生

熊本縣肥後國合志郡立野村

三十九番地平民農

片島 直八

明治十六年十一月

三十三年

右兩名カ集會條例違反被告事件ニ付明治十六年十一月十日大坂輕罪裁判所ニテ被告等  
 カ所爲ハ其筋ノ許可ヲ經タル演題ヲ掲載廣告シタル者ニシテ其旨趣ヲ廣告シタル者ニアラ  
 ストシ各無罪ヲ言渡シタリ檢事補御坐中治ハ之レヲ不當トシ上告セル要旨ハ被告等カ明治  
 十六年七月廿一日新聞紙ヘ掲ケタル廣告文ハ必シモ演題ナリト云フ可ラス如何トナレハ第  
 一演題ト明記シタルニ非ス第二演題ハ僞民權退治トアレモ廣告文ニハ僞民權家退治トアリ  
 テ「家」ノ一字ヲ增加セリ第三被告ノ意思一ニ演題而已チ廣告スルニアレハ認可ヲ得サル三  
 個ノ演題共ニ廣告ス可キ筈ナルニ左ハセカリシナリ此事實ハ演說旨趣ヲ廣告シタリト認ム  
 ルニ足レハナリ若シ之レヲシモ罰スルヲ得サルモノトセハ集會條例第八條ハ徒法ニ屬スル  
 ニ至シト云フニアリ對手人被告片島直八カ答辯ノ主旨ハ被告等ハ演說旨趣及ヒ演題ヲ廣告  
 シタルニアラス新聞紙ニ僞民權家ト書シタルハ板垣退介ヲ指シタルナリ同人ハ民權家ノ名  
 アルモ其實ナシ依テ之レヲ退治ス可キ精神ナリ又演題ニ單ニ僞民權ト掲ケタルハ我國教ヲ  
 措キ明リニ民權自由ヲ名トシ財產平均論ト云ヒ共和政治ヲ唱フル等ノ如キ國體ヲ蔑如スル  
 者ヲ總稱シタルモノナリ畢竟被告ハ平素自分ノ主義トスル所チ文字ニ掲ケテ廣告シタル譯  
 ニテ演說又ハ旨趣ヲ掲載シタルニ非サレハ集會條例ニ觸ル、ノ限ニアラスト云フニアリ  
 大審院オイトテ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スル左ノ如シ  
 上告者カ本按ノ要旨トスル點ハ新聞紙廣告ニ「僞民權家」トアルチ演題ニ比照スレハ現「家」

ノ一字ヲ増加セリ是正シク演題ニ非スシテ演說旨趣ヲ廣告シタル證徴ナリト云フニアレモ  
 集會條例第八條政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ云々トノ法文ハ談論  
 旨趣ノ視ル可キモノヲ掲グルヲ禁シタリト解釋セサルヲ得サル可シ本按被告カ其廣告ニ  
 「家」ノ一字ヲ加ヘタル意思ハ知ルニ由ナキモ僞民權退治ト云ヒ僞民權家退治ト云フ文字上  
 僅カニ一字ノ差アル迄ニテ其實等シク之ヲ退治スト云フニ外ナラサレハ「家」ノ一字ヲ以テ  
 故ラニ演說旨趣ヲ包含セシメタリト看做ヲ得ス何ントナレハ該文字而已ニテハ旨趣ノ視ル  
 可キナケレハナリ故ニ原裁判所オイテ無罪ヲ言渡シタルハ決シテ不當ニ非サルナリ凡ソ事  
 實ノ判定ハ承審官ノ特有權ニ付他ニ適法ノ原由アルニ非サレハ敢テ其職權内ニ侵入スルヲ  
 得サルモノトス本按上告ハ即チ事實ノ認定ヲ論難スルモノニテ治罪法第四百十條ノ規定外  
 ニ涉リ其他ノ上告論旨ハ條例ニ定メサル事柄ナルニ付共ニ上告ノ原由ト爲スヲ得ス依テ同  
 法第四百二十七條ニ從ヒ上告ハ之レヲ棄却スルモノナリ

第二百二十號

○判文〔賣藥規則犯〕明治十六年五月十九日上告  
 同 十七年六月廿四日發付

山口縣長門國美稱郡伊佐村  
 平民賣藥行商

藤岡菊太郎

明治十六年四月

三十九歲五月生

同縣同國同郡同村平民賣藥  
 行商

丸石直助

明治十六年四月

三十一歲八月生

同縣同國同郡國行村平民賣  
 藥行商

本間多一郎

明治十六年四月

三十五歲十月生

右菊太郎外二名カ賣藥規則違犯被告事件ニ付明治十六年四月二十六日福岡輕罪裁判所小倉  
 支廳於テ刑法第五條末項ニ依リ明治十年第七號布告賣藥規則第三章第二十一條ニ依リ藥劑  
 一方ニ付拾圓ノ罰金各百八拾圓ツ、ノ罰金ニ處シ藥種十八方ハ沒收スト言渡タル裁判ヲ不  
 當トシ被告ハ各上告セリ其要領ハ被告等ハ會テ賣藥行商鑑札ヲ申受居ルモ之レヲ携帯セズ  
 シテ八方ノ賣藥行商爲シタルモノナレハ賣藥規則第二十條ニ依リ八方ノ罰金ニ處セラルヘ  
 キヲ同規則第二十一條ニ依リタルノミナラス藥劑ヲ十八方ト爲シ罰セラレ藥劑沒收ヲ言渡  
 シタルハ不當ナルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云ニアリ

對手人檢事補八坂寧ハ被告カ上告趣旨允當ニシテ原裁判ハ擬律錯誤ナリト答辯セリ

大審院於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽審按スルニ上告ノ理由トスル所原裁判所カ被告等ニ對シ賣藥規則第二十條ヲ適用スヘキニ第二十一條ヲ適用シタルハ不當ナリトノ趣旨ハ其論旨ノ如ク被告等ハ無鑑札ニテ賣藥行商爲シタルモノナレハ賣藥規則第二十一條ニ擬シ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ニ處スヘキヲ同規則第二十一條ニ依リ藥劑一方ニ付拾圓ツ、ノ罰金ニ處シ製藥沒收ヲ言渡シタルハ擬律錯誤ニシテ又判文上一「被告人共ハ明治十六年一月一日以來賣藥行商鑑札無免許ニテ明治十五年十二月三十一日前ニ賣据ヘ置タル賣藥ト交換ナシタル節印紙ヲ貼用セサルモノト判定ス」トアリテ賣藥ニ印紙貼用セサリシモノ、如ク而シテ之レヲ賣藥規則第二十一條ニ擬シタルハ一ハ事實アリテ法章ナク一ハ法章アリテ事實ナク即事實及ヒ法律ニ依リ言渡ノ理由齟齬アルモノナリ又公判始末書ヲ閱スルニ被告等カ行商セシ藥劑ハ十八方ナルヲ毫モ見ルニ由ナシ然ルヲ漫ニ之レヲ十八方ト爲シ罰金ヲ付シタルハ越權ノ處分ナリ依テ本按ハ治罪法第四百十條第九十一項ニ適合スル破毀ノ原由アルモノトス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ山口輕罪裁判所赤間關支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

第二千二百二十一號

○判文(賣藥規則犯) 明治十六年五月七日上告  
同 十七年六月廿四日發付

福岡縣筑前國早良郡西新町  
平民藥種商

紫藤市兵衛

明治十六年四月

二十九年十二月生

明治十六年四月九日福岡輕罪裁判所ニ於テ右紫藤市兵衛カ賣藥規則違犯被告事件ヲ審理シ明治十三年第一號布告及ヒ刑法第二百五十四條ニ照シ三十圓ノ罰金ニ處ス但自首ハ事發覺後ニ係ルヲ以テ刑法第八十五條ヲ適用セス且現在ノ毒藥ヲ混和セシ蠅取藥二百六十壹貼ハ沒收ストノ言渡ニ服セス被告紫藤市兵衛カ上告シタルノ要領蠅取藥ハ原ト許可ヲ得タルモノナレトモ效驗ナキヨリ礬石ヲ混和シタルニ追テ罪科ニ觸レンコトヲ慮リ自首シタルモノニシテ告訴發若クハ探偵等ニ因リ事既ニ發覺シタルコトハ毫モ辨知セサル所ナレハ減等ノ上尙ホ情狀ヲ酌量シ減輕セラルヘキニ發見前ノ自首ヲ發覺後ニ變置シテ處分セラレタルハ不法ノ裁判ナレハ破毀ヲ求ムト謂フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト如シ

被告ハ事發覺前ノ自首ヲ發覺後ト爲シ且酌量減輕ヲ爲サ、リシハ不法ナリト論告スト雖モ被告人カ自首ノ事發覺後ニ係ルハ一件書類ニ於テ事實明瞭ナルヲ以テ原判官ハ發覺前ノ自首ニアラスト事實ヲ認定シタルモノナレハ其當否ヲ論難スルモ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スコト得サルナリ又犯罪ノ情狀ヲ原諒シテ刑ノ輕重ヲ量定スルハ事實裁判官職權内ノコトニシテ其酌減ヲ爲サ、リシハ不法ナリトスルモ亦上告ノ原由ト爲スコト得サルモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

第二百二十一號

○判文(煙草稅則犯) 明治十六年十二月廿一日上告  
十七年六月廿四日發付

三三四

千葉縣下總國千葉郡矢作村

平民同郡千葉町寄留煙草印

紙賣捌人 大島 忠 治

營業人 同國印幡郡佐倉彌勒町煙草

中村儀右衛門

同國同郡肴町煙草營業人

根本七兵衛

同國同郡新町煙草營業人

吉田次郎兵衛

同國同郡田町煙草營業人

野本繁行

右大島忠治外四名カ煙草稅則違犯事件ニ付明治十六年十一月二十八日千葉輕罪裁判所會議  
局ニ於テ豫審終結ノ言渡ニ對スル檢察官ノ故障ヲ判決シ煙草稅則第三十九條ハ全ク管轄廳  
ノ許可ヲ得スシテ煙草印紙ヲ賣買シタル者即チ密賣買ヲ爲シタル者ヲ罰スル法律ニシテ被

告等カ如キ賣捌ノ許可ヲ得タル者又ハ買入鑑札ヲ受ケタル者ニシテ止タ其賣捌所ノ外ニ於  
テ賣買シタルヲ罰スヘキ法律ニ非スト爲シ豫審判事カ刑法第五條第二項及第二條ノ總則ニ  
從ヒ免訴スト言渡シタル豫審終結ノ言渡ヲ認可セリ  
原裁判所檢事補山本辰六郎ハ右判決ヲ不法ナリトシ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告等ハ煙草  
稅則第十九條ニ背キ煙草印紙賣捌所ノ外ニ於テ賣買ヲ爲シタル者ナレハ免許ヲ得ス密賣シ  
タルト同一ナルヲ以テ該規則第三十九條ニ依テ罰スヘキモノトス何ントナレハ其第三十九  
條ニハ止タ管轄廳ノ許可ヲ得スシテ云々トアリテ全ク管轄廳ノ許可ヲ不得シテ云々トハア  
ラサレハナリ然ルニ會議局ノ判決茲ニ出テサルノミナラス同則第四十六條ニ刑法ノ總則ヲ  
用ヒストノ法文アルニモ拘ハラス刑法第二條ヲ適用シタル豫審終結ヲ認可シタルハ擬律錯  
誤ノ裁判ナリ又檢察官ハ証憑蒐集ノ爲メ豫審ヲ求ムルモノナルニ會議局ニ於テ被告等ハ或  
ハ稅則第二十四條第二十五條及二十六條ノ違犯アルヤモ知ルヘカラスト雖モ檢察官ヨ  
リ豫審判事ニ送付セル証憑書類ヲ閱スルニ其端緒タモ無之云々ト恰モ檢察官カ立證セサル  
點ニ付テハ豫審判事ハ審問ヲ要セサル如ク判決シタルハ越權ノ處分ナリト云フニ在リ  
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ  
本按被告等カ煙草印紙賣捌所ノ外ニ於テ賣買ヲ爲シタル所爲ハ原檢察官上告論旨ノ如ク煙  
草稅則第三十九條ニ依テ處斷スヘキモノトス何ントナレハ煙草印紙ハ特ニ官許ヲ受ケタル  
賣捌所ニ限り賣買スヘキモノニシテ其他ノ場所ニ於テ賣買スルヲ得サルハ該稅則第十九條  
ニ規定シアルノミナラス其第三十九條ノ管轄廳ノ許可ヲ得ス云々トハ前第十九條ノ管轄廳

三三五



ノ許可ヲ得タル云々ノ文意ヲ受ケタル者ナレハナリ故ニ本件ノ如キハ法律上罰スヘキ正條アルモノナルニ正條ナキモノトシ免訴ヲ言渡シタル豫審終結ヲ認可シタルハ越權ノ處分ナリトス又上告第二ノ旨趣ニ基キ原判文ヲ閱スルニ被告等ハ或ハ煙草稅則第二十五條及ヒ第二十六條ノ法則ニ違犯アルヤモ亦知ルヘカラスト雖モ豫審官ヨリ豫審判事ニ送附セル本案ノ証憑書類ヲ查閱スルニ云々証憑ハ其端緒タモ無之畢竟檢察官ノ臆測ニ過キサルモノナレハ豫審判事カ此點ニ對シ審糺セサルモ決シテ審理不盡ナリト云フヲ得サルモノトストアレモ抑モ豫審判事ノ職務タル犯罪ノ証憑ヲ集取スルモノニシテ檢察官ノ立證ヲ俟テ始メテ之レカ訊問ヲ爲スモノニ非ルヤ勿論ナルニ原會議局ニ於テ檢察官ヨリ豫審判事ニ送附セル証憑書類中其端緒タモ無之云々ノ理由ヲ以テ判決シタルハ共ニ治罪法第四百十條第十一項ニ適當セル上告ノ理由ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ基キ原裁判ヲ破毀シ更ニ東京輕罪裁判所會議局ニ移シ審判セシムルモノナリ

第一千二百二十三

○判文(官吏侮辱) 明治十七年四月十八日上告  
年六月廿五日發付

千葉縣上總國市原郡姉ヶ崎  
村士族無職業

近藤 四郎

右四郎ガ被告事件ニ付明治十七年三月廿六日千葉輕罪裁判所ニ於テ被告ハ公然ノ演說ヲ以

テ千葉縣令船越衛ノ職務ニ對シ侮辱シタルモノトシ刑法第四百一一條ニ依リ且ツ其齡十六歲以上二十歲ニ滿サルヲ以テ同第八十一條ニ照シ一等ヲ減シ仍ホ所犯原諒スヘキ所アルヲ以テ同第八十九條同第九十條ニ照シ又一等ヲ減シ通シテ本刑ニ二等ヲ減シ十五日ノ重禁錮ニ處シ貳圓五十錢ノ罰金ヲ附加ス而シテ其集會條例ニ違反シタリトノ點ニ對シテハ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ト言渡シタル處同裁判所檢事補今井醇ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲スノ要旨ハ被告ハ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタルノ外尙ホ學術討論中政治ニ關スル事項ヲ論議シタルコト明瞭ニシテ即テ集會條例第十六條第十條ニ該當スルモノナルニ原裁判官ニ於テ單ニ官吏侮辱ノ行爲ノミヲ治シ其集會條例ヲ犯シタル行爲ニ對シテ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ越權ノ處分ニ涉ルモノナリト云フニアリ爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ニ定メタル公式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

原判文ニ據ルニ被告ガ學術演說中ノ論議ハ只其自說ヲ正確ナラシムルニ止マリ政談ニ涉リタルモノニ非ストハ原裁判官ノ認定シタル所ナリトス果シテ然レハ事實ノ認定ハ法律上原裁判官ニ特任スル所ニシテ他ヨリ敢テ之ヲ非難スルヲ得サルモノナレハ本案上告論旨ハ其原由ナキニ依リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

第一千二百二十四號

○判文(私書偽造) 明治十六年十二月六日上告  
十七年六月廿五日發付

栃木縣下野國安蘇郡本流原  
村平民關根又次郎妻

關根 ヌイ

明治十六年十一月

三十三年一月

同縣同國下都賀郡川原田村

平民

大橋 藤次郎

明治十六年十一月

三十五年一月

右兩名カ私書偽造及ヒ誣告ノ被告事件ニ付明治十六年十一月十二日栃木輕罪裁判所於テ被告關根「ヌイ」ハ治罪法第三百五十八條ニ從ヒ無罪被告大橋藤次郎ハ刑法第二百十條ニ照シ而シテ輕罪再犯ナルニ付同第九十二條ヲ適用シ本刑ニ一等ヲ加ヘ重禁錮四月ニ處シ罰金拾五圓ヲ附加シ仍ホ刑法第二百十二條ニ依リ十月ノ監視ニ付スト言渡シタリ

右ノ裁判ニ對シ同裁判所檢事補横田信謹ハ上告爲シタリ其要領ハ被告關根「ヌイ」ハ被告大橋藤次郎ト謀リ關根峯次郎夫婦ヲ誣告セン爲メ廣瀬「ヤス」名義ノ保証書偽造ノヲ藤次郎ニ依頼シ其偽造シタルモノナルヲ知リ行使シタルハ被告人「ヌイ」ノ豫審調書中「ヤス」カ自分ニ於テ云々保証書ヲ「ヤス」カ渡シタル姿ニシタルカ宜シカラント大橋藤次郎ナル者カ申スニ付藤次郎ニ頼ミ拵賞ヒ候又廣瀬「ヤス」カ云々其譯ヲ藤次郎ニ話シ廣瀬「ヤス」カ認メタル保証書ノ如クニ偽造シ賞ヒ候トトノ陳述及ヒ廣瀬「ヤス」ノ豫審調書等ニ據リ明晰ニシテ則

被告「ヌイ」ハ藤次郎ニ據リ之ヲ偽造シテ行使シ被告藤次郎ハ「ヌイ」ノ爲メニ之ヲ偽造シ「ヌイ」カ誣告スルノ用ニ充テタルモノナレハ素ヨリ偽造ノコトハ「ヌイ」ニ據リテ起リ藤次郎ハ共謀シタルニ止ルナリ然ルニ裁判所ハ以上ノ事實ナルニモ拘ラス廣瀬「ヤス」名義ノ保証書ハ專ラ被告大橋藤次郎ノ手裏ニ成ルヲ以テ被告「ヌイ」カ私書ヲ偽造シ行使シタリトノ證據充分ナラスト判決シ獨リ被告藤次郎ノミ私書偽造ト判決シタルハ事實理由ノ齟齬シタル裁判ナリ又被告藤次郎ニ對シ單ニ私書偽造行使ノ罪ノミ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ該言渡ノ全部ヲ破毀シテ相當ノ裁判アランコトヲ請求スト云フニアリ

大審院於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スルコト左ノ如シ

上告ノ旨趣ハ之ヲ要スルニ原裁判官カ認定シタル事實及ヒ採証ノ當否ヲ非難スルニ止リ其原由ナキモノトス何ントナレハ事實ノ認定及ヒ證據ノ採擇ハ原裁判官ノ特權ニシテ他ヨリ之ヲ非難スルヲ得サレハナリ而シテ被告藤次郎カ誣告ノ罪ヲ罰セサリシハ擬律ノ錯誤ナリト論スレトモ其誣告ノ罪視スヘカラサルコト載テ原文ニ明カナレハ原裁判所於テ單ニ藤次郎カ私書偽造ノ罪ノミヲ罰シタルハ相當ニシテ毫モ擬律ノ錯誤ナキモノトス其他原裁判ニ環瑾ノ廉アルヲ視サレハ本按上告ハ到底相立タサルモノナリトス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第二千二百二十五號

○判文(印影盜用) 明治十六年六月四日上告 同 十七年六月廿五日發付

青森縣陸奥國三戶郡法師岡

村廿八番地平民農

大浦竹次郎

明治十六年五月

三十三年九月

右竹次郎カ被告事件ニ付明治十六年五月三日弘前輕罪裁判所八戸支廳ニ於テ被告ハ金五十圓ノ證書二葉金三百五十圓ノ證書一葉ヲ詐爲シ古川倉太ノ印影ヲ盜用シタルモノトシ刑法第二百十條及ヒ第二百八條第二項ニ該ルヲ以テ第百條ニ照シ犯狀重キ第二百十條ニ依リ重禁錮六月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ仍ホ第二百十二條ニ依リ一年ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告竹次郎カ上告ヲ爲シタル旨趣ハ第一明治十五年九月八日三戸郡七崎村逸見米吉宅ニ於テ古川倉太ト飲酒ノ際同人ヨリ實印ヲ受取リ倉太カ醉眠シタルニ乘シ竊ニ金五十圓ノ證書二葉金三百五十圓ノ證書一葉ヲ詐爲シ倉太ノ印影ヲ盜用シタルモノト判定セラレタレト明治十五年九月八日ハ倉太ニ於テ八戸支廳出庭ノ日ナレハ酒ヲ呑ミ醉眠シ又同人カ居所ト該支廳トハ距離四里以上ナレハ七崎村ニ曠ク止ルヘキ理由アルコトナシ第二被告ヲ誣告シタル告訴ヲ以テ證據トシ又惡策ニ原シ証人齊田多橋長谷喜藏ノ陳述及ヒ石橋「コイト」カ藤井慶吉ニ教唆セラレテ爲シタル陳述又ハ被告カ藤井慶吉ニ相渡タル約定證書等ヲ以テ無罪者タル被告ヲ有罪者ト判定セラレタルハ越權ノ處分ナリト云フニ在リ原檢察官ハ原裁判相當ニシテ被告上告ハ其理由ナキ旨ヲ答辯セリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告ノ要旨ハ原裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル事

實判定上下採證方トノ不當ヲ論シ有罪無罪ノ事實ヲ爭フニ過キヌシテ治罪法第四百十條外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス因テ本件ハ同法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

第一千二百二十六號

○判文(証書偽造詐僞取財)明治十六年十二月廿八日上告  
同十七年六月廿五日發付

神奈川縣橫濱區松影町四丁

目百三拾七番地平民同所居

留地二百四十九番地寄留左

官職

入江清左衛門

明治十六年十一月

三十九年

右清左衛門カ被告事件ニ對シ明治十六年十二月三日橫濱輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年九月四日柳下長次郎ヨリ受取リタル交換約定書中三千ノ三ノ字誤脱アリシヲ奇貨トシ本月本日ノ本ノ字九月四日ノ四ノ字ヲ五ニ變造シ家屋買戻シノ儀ヲ橫濱始審裁判所へ出訴シ全ク貳千圓ヲ詐取セント試ミタルモ意外ノ障礙ニ依リ竟ニ之レヲ遂ケサリシ者ト認定シ証書變造ノ所爲ハ刑法第二百十條第一項第二百十二條詐僞取財未遂ノ所爲ハ同第三百九十七條ニ據リ二罪俱發ニ係ルヲ以テ同第百條ニ照シ所犯情狀尤モ重キ證書變造ノ罪ニ對シ重禁

錮六ヶ月罰金七圓監視六月ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル證書ハ沒收スト言渡シタルニ服セス  
 被告入江清左衛門ハ上告セリ其要領ハ本件ハ最初ヨリ公明ナル裁判官ノ判定ヲ乞ハソカ爲  
 メ告訴セシ者ニシテ理アラハ受取ラソ理アラサレハ受取ルヲ得サルヘシト覺悟セシ者ナ  
 ルニ原裁判所ハ何ノ條理何ノ事實ニ由リ詐僞未遂犯ノ名稱ヲ附セラレタルヤ之レ擬律ノ錯  
 誤ナリ且詐僞未遂罪ニハ刑法第百十一條乃至第百十三條ノ別アルニ其何レナルヤ更ニ法條  
 ナ明示セサルハ事實及ヒ法律ニ據リ言渡シノ理由ヲ附セサルモノナリ又被告ハ證書月日ノ  
 四ヲ五ト直セシ罪アリトノナレハ右變造ハ誰レカ手ニ成立チシヤ其證據ヲ明示スヘキハ  
 本件ノ要點ナルニ其証ヲ舉示セシテ判決シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ且原判文ニ中川音  
 藏ノ証言トアルハ如何ナルモノヲ指シタルヤ原書類ハ勿論豫審及ヒ公判廷ニ於テ此ノ如キ  
 人ノ証人タリシヲナシ然ルニ一ノ証言ト爲シタルハ越權ノ處分ナレハ破毀ノ上更ニ適法ノ  
 裁判アラソヲ求ムト云ニ在リ對手人檢事補島村文耕ハ原裁判相當ニシテ上告其理ナキ旨  
 答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ代言人角田眞平ハ上告趣旨ヲ擴張シ立會檢事林三介ハ  
 原判文ニ中川音藏ノ証言トアルハ上告趣旨ト同意見ニシテ越權ノ處分ナリ且原裁判所カ被  
 告カ詐欺取財ノ未遂犯ナリト認定シ單ニ刑法第三百九十七條而已ニ據リ處斷シタルハ法律  
 ノ理由ヲ附セサル不法ノ裁判ナレハ破毀アラソヲ望ム旨意見ヲ陳述セリ因テ之ヲ審按ス  
 ルニ中川音藏ナル者ハ豫審及ヒ公判廷ニ証人トシテ出廷シタル者ニ非ルハ訴訟書類ニ徴シ  
 テ明白抑承審官カ心証ヲ造ルノ資料ニ供スル他人ノ証言ハ必ス公式ニ據リ其資格ヲ有スル

証人ノ陳述ニ非ルヨリハ之ヲ証言ト爲スヲ得ス然ルニ原判文ニ中川音藏ノ証言云々ト掲載  
 シ本案証憑ノ一ニ供シタルハ即チ越權ノ處分ナリトス且原判文ニ被告カ詐欺取財未遂ノ所  
 爲ハ刑法第三百九十七條ニ該當云々トアリテ單ニ未遂犯罪ノ例ニ照シ處斷スヘキ本條而已  
 ナ掲載シ主タル詐僞取財ノ正條及ヒ未遂犯罪ノ正條ヲ明示セサルハ是亦法律ノ理由ヲ付セ  
 サル裁判ニシテ上告論旨及ヒ本院檢事意見ノ如ク治罪法第四百十條第九項第十一項ニ相當  
 スル破毀ノ原由アルモノトス但其他ノ點ニ係ル上告ノ趣旨ハ玆ニ辨明ヲ要セス  
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ據リ原裁判全部ヲ破毀シ東京輕罪裁判所ニ移  
 シ更ニ審判セシムルモノナリ

第二千二百二十七號

○判文(証告)同 明治十七年四月廿三日上告  
年六月廿五日發付

青森縣陸奥國三戸郡扇田村

字野澤八番地平民

古川 倉 太

明治十六年三月二十三年

同縣同國同郡八戸二十八日

町五番地平民

藤 井 慶 吉

明治十五年三月

三四三

右倉太并慶吉カ誣告及ヒ詐僞取財被告事件ニ付明治十七年三月三十一日弘前輕罪裁判所八戸支廳ニ於テ被告カ誣告ノ所爲ハ犯罪ノ証憑充分ナラス詐欺取財ノ所爲ハ罪トナラサルモノトシ各無罪ト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ檢事補二瓶正雄カ上告ヲ爲シタル要旨ハ第一被告ニ於テ誣告及ヒ詐欺取財未遂ノ罪アル証憑アルニ偏ニ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ事實ノ理由ニ齟齬アル擬律錯誤ノ裁判ナリ第二被告事件ニ付第十九號第二十號第二十一號ノ連借証書ハ真正ニ成立タルモノナリヤ否ヲ辨スルヲ以テ緊要ナリトシ而シテ其証書ノ成立ハ真正ニ非サルモノト判定ナシタリト雖モ元其証書ノ不正ハ大浦竹次郎外一名カ罪ノ有無ニ關シ曩ニ當廳ニテ不正ト裁判アリタルカ故ニ被告ニ於テ當時上告中ナリシヲ以テ何ソ更ニ此ノ証言ノ不正ノ裁判ヲ請求ス可ソヤ其請求セシハ先ニ竹次郎ニ對シ不正ノ証書ナリ其証書ノ印影ハ盜用ナリトノ裁判アリシハ其事實誣告ナリ僞証ナリトノ公訴ナリ此反訴反証ヲ措キ當時上告中ナル竹次郎ノ印影盜捺事件ヲ再ヒ裁判シタルハ越權ノ所分ナリト云フニ在リ被告倉太ハ答辯書差出サス慶吉ニ於テ上告ノ旨趣不當ニシテ原裁判相當ナリト答辯セリ茲ニ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スル左ノ如シ

本按上告第一ノ點ハ原裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル事實判定ニ對シ其當否ヲ論難スルニ過キスシテ其事實ノ齟齬擬律ノ錯誤ナリト云フハ自己ノ信認スル所ノ事實及ヒ擬律トハ適合セストノ趣意ニ外ナラス而テ原判文ヲ閱スルニ事實理由ニ齟齬且擬律ニ錯誤アルコトナシ上告第二ノ點ハ被告カ誣告罪ノ有無ヲ審究スルニハ先ツ以テ該証書ノ成立ヲ詳明スルヲ以テ

必要ナリトス故ニ之カ正否ヲ辨明シタルハ固ヨリ相當ノ事ニシテ越權ノ處分ナリト云フヲ得ズ因テ本件上告ハ相立タサルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

第二千二百二十八號

○判文(強盜)明治十六年七月十二日上告  
同 十七年六月廿五日發付

岡山縣備中國加陽郡高松村  
平民紋吉長男當今懲役終身

土師石右衛門

明治十六年六月

二十四年五月

右石右衛門カ被告事件ニ付明治十六年六月十五日廣島重罪裁判所ニ於テ審理ノ末第一囚徒逃走第二竊盜第三獄舎破壞逃走第四強盜第五捕吏ニ抗拒負傷セシメ第六護送途中巡查ニ暴行ヲ加ヘ逃走シ第七氏名詐稱ノ數罪アリト認メ新舊法ヲ比照シ一ノ無期徒刑ニ處スヘキ處既ニ懲役終身ノ處刑中ナルヲ以テ其刑ヲ執行セスト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ檢事加納謙ハ上告セリ其要領ハ被告石右衛門ハ懲役終身中逃走シ外ニ在テ數罪ヲ犯シタルヲ原裁判言渡ニ掲載セシ如ク尤モ重キ罪ハ新法實施以前ニ係レハ舊法上捕亡律懲役人逃條例懲役人又犯罪條例懲役終身ノ囚人又罪ヲ犯スノ例ニ照シ棒鎖十日ニ該リ更ニ懲役終身ヲ言渡スヘキモノニアラサレハ從テ之ヲ新法ニ比照シ無期徒刑ニ處スヘキモノニアラス明治十四年第

八十一號布告第十三條ニ舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ストアレハ其棒鎖ニ處スヘキハ論ヲ俟タサルモノナルニ原裁判爰ニ出テサルハ治罪法第四百十條第十項ニ相當スルモノト考量シ破毀ヲ求ムト云フニアリ  
對手人被告土師石右衛門ハ之ニ答辯セス  
大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ立會檢事澄川拙三ノ意見代言人吉川守國ノ陳述ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

被告石右衛門カ事實ハ前ニ懲役終身ノ刑ヲ受ケ服役中逃走シ外ニ在テ數罪ヲ犯シタルモノニテ其數罪中最モ重キモノハ新法實施以前ニ係ル改正罪人拒捕律改正懲役人逃條例改正懲役人又犯罪條例ニ依リ棒鎖十三日ニ該ル罪ニテ之ヲ刑法第三條ニ從ヒ新法ニ比照セントスルモ明治十四年第八十一號布告第十三條ニ舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ストノ明文ノアルアレハ單ニ棒鎖ヲ科スルニ止メ更ニ懲役終身ノ刑ヲ執行スルニ過キサルモノナルニ原裁判ノ爰ニ出テサルハ擬律錯誤ニ係ル破毀ノ原由アル裁判ナリト判定ス  
以上ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スルヲ左ノ如シ

土師石右衛門

原裁判言渡ニ各種ノ証憑ヲ掲ケ確認シタル事實ノ其第一第二第三第四第五第六第七ノ數罪ノ内一ノ重キ改正罪人拒捕律ニ依リ懲役終身尙ホ改正懲役人逃條例及ヒ懲役人又犯罪條例ニ照シ棒鎖十三日ニ該ル但第七ノ犯罪ハ新法實施後ニテ單ニ新法ニ問擬スヘキモノ

ナルモ輕キニヨリ論セス

因テ明治十四年第八十一號布告第十三條ニ照シ被告土師石右衛門ヲ棒鎖十三日ニ處シ贓品ノ内現在シ又ハ既ニ飯下ケ置キタル衣類及ヒ贓金ヲ以テ買取タル物品ハ被害者ニ還付スル者也

第二千百二十九號

○判文(強盜) 明治十六年七月十二日上告  
同 十七年六月廿五日發付

滋賀縣近江國栗田郡矢倉村  
平民雜業

山田幸吉

明治十六年六月  
二十六年七月

右幸吉カ被告事件ニ付明治十六年六月廿五日京都重罪裁判所ニ於テ審理ノ末二人以上共ニ兇器ヲ携帯シ強盜ヲ爲シタルノ事實アリト認メ刑法第二百七十八條同第三百七十九條同第六十七條同第十七條同第八十九條同第九十條ニ依照シ本刑ニ一等ヲ減シ十年ノ重懲役ニ處シ而テ被告人ハ大津輕罪裁判所ニ於テ重禁錮ノ刑ニ處セラレタルヲ以テ刑法第二百二條ニ依リ已ニ役過シタル日數三十五日ト後發ノ刑ニ通算スト言渡タル裁判ニ服從セス上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告人ハ最初ヨリ竊盜ヲ爲サント共謀シ山村治三郎等ト圓通寺ニ至リ戶外ニ瞭望シタルノ事實ハ裁判官モ亦之ヲ認メラレナカテ其瞭望ノ場所ト脅迫ノ現場トハ隔リア

リテ被告人カ其脅迫シタルヲ知リ得ヘキモノナルヤ否ヤヲ審究セス強盜共犯者ト認メラレタルハ事實理由ヲ附セサル裁判ナリト云ヒ又被告人ハ前述ノ如ク竊盜ノ所爲アルニ過キサルナリ若シ小笹萬助外一名カ兇器ヲ携帯セシ情ヲ知リタルモノトセハ兇器ヲ携帯シテ爲シタル竊盜ノ如クナレハ其兇器タルノ用ヲ爲スニ足ラス仮ニ之ヲ兇器ナリトスルモ脅迫セシ情ヲ知ラサレハ刑法第三百七十條ニ問擬セラル可キ事實ニアラスト云ヒ仍ホ上告辨明書ヲ差出シ其趣旨ヲ擴張シ破毀アリタシト要求シ

對手人檢事補小室確爾ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辯駁答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ上告代言人渡邊義雄ハ上告趣旨ヲ擴張シ被告人カ瞭望爲シタリトハ公判廷ニ於テ始テ供出セシモノニテ豫審ノ申立トハ相反シタリ其相反シタル申立ヲ以テ裁判ノ資料トセラレタルモノナレハ強盜共謀者タルノ判定ヲ明了ニ與ヘサルヘカラサルニ其共謀者タルノ事實ニ至テハ甚タ明カナラス是事實理由ヲ附セサル瑕瑾アル裁判ナリト云ヒ立會檢事加納久宜ニ於テハ上告及ヒ代言人ノ上告擴張趣旨共ニ理ナキモノトノ意見ヲ陳述セリ爰ニ之ヲ審按スルニ

上告ノ理由トスル處竊盜ヲ爲サント共謀シ戸外ニ瞭望爲シタルマテニテ強盜共犯ニアラサルニ其事實理由ヲモ附セス強盜共犯者ナリト認メテラレタルハ不當ナリト云フニアリト雖モ原裁判言渡ヲ審閱スルニ聊カ事實理由ヲ附セサリシモノト見ルヘキ廉アルヲナク要スルニ原裁判所カ各種ノ證據ニ依リ職權上認メタル事實ニ對シ徒ニ不服ヲ唱ヘ之ヲ動かサントスルニ過キスシテ治罪法第四百十條ニ上告ヲ爲シ得ル場合ヲ定メタル第一ヨリ第十一ニ至ル

明文以外ニ渉ル訴旨ナルヲ以テ破毀ノ原由ト爲スニ足ラサルモノトス又代言人カ擴張スル趣旨モ亦破毀ノ原由ト爲スヲ得ス如何トナレハ原裁判言渡ノ事實理由ノ部ニ(山村治三郎即今行衛未知小笹萬助并住所名前知レサル中村ナル者ト共ニ京都府山城國愛宕郡幡枝村圓通寺ニ到リ被告ハ門内ニ在テ瞭望シ治三郎萬助ハ拔刀中村ナル者ト共ニ同寺住職北園治獄ノ居所ニ立入り同人及ヒ徒弟乘圓ヲ縛シ金錢衣類物品ヲ強取シ云々)トアリテ其罪ヲ構造スヘキ原素ト模様トヲ充分ニ揭示シアリテ刑法第三百七十八條同第三百七十九條ヲ適用スヘキ事實タルヲ明晰タレハナリ因テ上告及ヒ擴張ノ趣旨共ニ相立タサルモノト判定ス以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

第二千三百三十號  
○判文(竊盜) 明治十六年四月廿八日上告  
同 十七年六月廿五日發付

三重縣伊勢國安濃郡北神山  
村平民現今一志郡久居寺町  
天心寺住職權少講義

松 山 實 禪

明治十六年三月  
四十一年八月

右實禪カ被告事件ニ付明治十六年三月十四日安濃津輕罪裁判所於テ竊盜ノ罪アリト認メ犯時刑法實施前ニ係ルヲ以テ刑法第三條二項ニ依リ舊法賊盜律盜田野穀麥條改正七贓例圖刑

法第三百七十三條第三百七十二條第三百七十六條ニ比照シ明治十四年第八十一號布告第二條第十條ニ依リ重禁錮二月ニ處スト言渡シタリ被告實禪ハ此裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ被告カ三圓七十五錢ニ賣却シタル竹ハ天心寺境内ニ生シタルモノナルナ原裁判所ハ之レヲ境外官有地ニ生セシテ擅ニ伐採シ賣却シタリト認メタルハ全ク事實ヲ誤ラレシモノニテ抑官有地ハ元天心寺境内ナリシテ上地セシ故其境界不明ノ場所モアリ且被告ハ住職日淺キカ故誤テ伐採シタルモ計リ難シト雖モ個ハ罪トナルヘキモノナラス然ルニ伐採セシ土地ハ住職トナリシ際檀家惣代世話掛リ等ヨリ引渡サレタル天心寺境内ナルコト地券改正ノ圖面等ニ因ルモ著シク戸長カ實施ヲ辨知セスシテ陳述スル所ハ証言ト爲スニ足ラサレハ被告ハ無罪タルヘキニ之レヲ有罪トシ刑ニ處シタルハ擬律錯誤ナルヲ以テ破毀ヲ要ムト

對手人檢事補箕浦元嘉ハ上告ノ趣旨ハ不當ナルヲ以テ棄却ヲ求ムト答辯シ且附帶上告ヲ爲シテ曰被告ハ境外官有地ナルコトヲ包藏シ境内ト冒認シ該地ニ生シタル竹ヲ賣却シタル旨ノ白狀証人ノ陳述ニ依テ明確ナリ而シテ犯時刑法實施前ニアルヲ以テ同法第三條第二項ニ依リ舊法ハ賊盜律詐欺取財條第三項改正七罪例圖刑法ハ第三百九十三條第三百九十條ヲ適比スヘキニ舊賊盜律盜田野藪麥條刑法第三百七十三條第三百七十二條第三百七十六條等ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト

大審院於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽審按スルニ上告ノ理由ハ天心寺境内ノ竹ヲ伐採賣却シタルモ官有地ノ竹ヲ賣却シタルニアラス依テ無罪タルヘキヲ刑ニ處シタルハ擬律錯誤ナリト云ニアリト雖モ事實裁判官カ各種ノ證據ヲ採テ認定シタル事實ニ侵入

シ判定ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ破毀ノ原由ナキモノトス何ソトナレハ治罪法第四百十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢証調書證據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ依テ上告ノ趣旨効ナキモノトス原檢察官附帶上告ハ其論旨ノ如ク原裁判所於テ認メタル被告ノ所爲ハ舊法賊盜律詐欺取財條第三項改正七罪例圖刑法第三百九十三條第三百九十條ヲ比照スヘキヲ舊賊盜律盜田野藪麥條刑法第三百七十三條第三百七十二條第三百七十六條等ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナルヲ以テ治罪法第四百十條第十項ニ適合スル破毀ノ原由アルモノトス

右ノ如クナルヲ以テ被告カ上告ハ治罪法第四百二十七條ニ依リ之レヲ棄却シ原檢察官附帶上告ニ付同法第四百二十九條ニ依リ原裁判言渡ヲ破毀シ本院於テ直ニ判決スル左ノ如シ

松山實禪

被告カ所犯ハ原裁判所於テ認メタル事實ニ據リ之レヲ法律ニ照スニ犯時新法實施以前ニ係ルヲ以刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニ舊法ハ賊盜律詐欺取財條第三項及改正七罪例圖ニ照シ贓金一圓以上懲役六十日ニ該リ新法ハ刑法第三百九十三條ニ他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ストアルヲ以テ其第三百九十條二月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金第三百九十四條六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ該當ス因テ之ノ輕キ舊法ニ從ヒ仍ホ明治十四年第八十一號公布第二條第六條第十條ニ照シ罰金監視ヲ附加セサルモノトス右ノ理由ナルヲ以テ被告松山實禪ヲ重禁錮二月ニ處スルモノ也



第一千三百三十一號

○判文(竊盜) 明治十六年七月六日上告  
同 十七年六月廿五日發付

三五二

静岡縣駿河國安倍郡静岡馬  
場町平民銚職

中川清太郎

明治十六年六月  
十九年三ヶ月

右清太郎カ被告事件ニ付明治十六年六月十四日静岡輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末竊盜ノ事實アリト認メ刑法第三百六十六條同第三百六十七條ニ依リ同第九十二條同第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ五月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ヲ附加ストノ裁判言渡ヲ不當ナリトシ檢事補三浦翁輔ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ原裁判所ニ於テ被告カ所爲ニ對シ刑法第三百六十六條同第九十二條ニ從ヒ本刑ニ一等ヲ加ヘ二月十五日以上五年以下ノ重禁錮ニ該ルモ犯時二十歳未滿ナルヲ以テ同第八十一條ニ依リ一等ヲ減シ二月以上四年以下ノ範圍ナリト示シタルハ誤謬ナリトス何トナレハ刑法第九十九條但書ノ明文ニ從ヒ先ツ再犯加重シ而テ後チ其加重シタルモノヲ本刑トシ一等ヲ減スヘキモノナレハナリ因テ原裁判ノ破毀ヲ要求シ對手人被告清太郎ハ檢察官上告ノ趣旨允當ナリト云ヒ共ニ破毀ヲ要求スト答辯セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ本案被告事件ハ刑法第三百六十六條ニ該リ再犯ニ係ルモノナレハ同第九十二條ニ依リ本刑

ニ一等ヲ加ヘ二月十五日以上五年以下ノ重禁錮ト爲シ而シテ同第九十九條ニ從ヒ其加重シタル處ノ刑ヲ本刑ト爲シ減等スヘキコトハ上告趣旨ノ如クナルニ原裁判ノ茲ニ出テサルハ治罪法第四百十條第十項ニ適當スル上告ニテ破毀ノ原由アル裁判ナリト判定ス以上ノ如クナルヲ以テ同法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直ニ本院ニ於テ裁判スルコト左ノ如シ

中川清太郎

原裁判言渡ニ掲ケタル各種ノ証憑ニ依リ認メタル事實ハ刑法第三百六十六條同第九十二條ニ依リ罰スヘキ竊盜再犯ノ罪ナリトス其第三百六十六條ニ人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス其第九十二條ニ先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加ヘ二月十五日以上五年以下ノ重禁錮トナル而シテ被告人ハ犯時二十歳未滿ナルヲ以テ刑法第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ一月二十日以上三年九月以下ノ重禁錮トナル刑法第三百七十六條ニ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

因テ被告ヲ五月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ニ附加スルモノ也

第一千三百三十二號

三五三

○判文〔官林盜伐〕明治十六年五月十六日上告  
十七年六月廿五日發付

山梨縣南都留郡禾生村清泉  
寺住職

生出圓圭

明治十六年四月  
四十二年

明治十六年四月三十日谷村治安裁判所ニ開キタル甲府輕罪裁判所ニ於テ右圓圭カ官林盜伐  
被告事件ヲ審判シ刑法第三百七十二條同第三百七十三條同第三百七十六條同第四百四條同第  
百五條ニ依リ仍ホ所犯情狀原諒スヘキ所アルヲ以テ同第八十九條同第九十條同第七十條ニ  
照シ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮二十一日ニ處シ監視六月ニ付ス旨言渡シタルニ對シ被告圓圭  
ハ上告ヲナシタリ其要旨ハ抑本件ノ事實ハ藤本德次郎カ私怨上ヨリ被告ヲ罪ニ陷シ入ル、  
爲メ藤本富吉ト商謀シ富吉ヲシテ被告カ教唆ニ因リ官林ヲ盜伐シタリト不實ノ自首ヲ爲サ  
シメタルニアリテ被告ニ於テハ決シテ之カ盜伐ヲ教唆シタル覺ヘナキニ原裁判所ハ想像ニ  
出タル巡查ノ意見書ト本件ニ直接ノ關係ヲ有セサル藤本德次郎等ノ陳述等ヲ採テ以テ無罪  
ナル被告ヲ刑ニ處セラレタルハ治罪法第四百十條第九項第十項ニ適當スル不法ノ裁判ナリ  
ト云フニアリ

同裁判所檢察官福島爲則ハ原裁判相當ニシテ上告ノ原由ナキ旨答辯セリ

茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ判決スルヲ左ノ如シ

上告ノ論旨ハ要スルニ法律上原裁判官ニ任從スル處ノ探證及ヒ事實ノ認定上ニ對シ之ヲ非  
難シ以テ不服ヲ訴フルニ過キヌシテ更ニ治罪法第四百十條各項目ニ適合スル上告ノ原由ナ  
キニ依リ同法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

第二千三百二十三號

○判文〔山林盜伐〕明治十六年六月十九日上告  
十七年六月廿五日發付

島根縣石見國鹿足郡下高尻

村平民農業

澄川豐次

明治十六年五月  
五十年六ヶ月

島根縣石見國鹿足郡下高尻

村平民大工職

河野林助

明治十六年五月  
五十五年三ヶ月

右豊次林助カ被告事件ニ付明治十六年五月廿一日松江輕罪裁判所濱田支廳ニ於テ審理ノ末  
山林ノ樹木ヲ盜伐シ未發前自首シタル事實アリト認メ刑法第三百七十三條ニ依リ同第八十  
五條同第八十六條同第八十九條同第九十條同第七十二條ノ次項ニ照シ一日ノ拘留ニ處スト

言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ檢事補鈴木量ハ上告セリ其要領ハ被告人共カ山林ノ樹木ヲ竊ニ伐採シタルハ己レヲ利スル爲メニアラサルヲ明白ナレハ刑法第四百十九條ニ問擬シ自首減輕酌量減輕スヘキニ原裁判所カ刑法第三百七十三條ニ依リ自首及ヒ酌量減輕シ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云ヒ破毀ヲ要求シ

對手人被告澄川豐次河野林助ハ之ニ答辯セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ由リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

上告ノ理由トスル處刑法第四百十九條ヲ以テ罰スヘキモノナルニ原裁判所ハ同第三百七十三條ニ依リ處斷セシハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアリト雖モ被告人ニ於テ己レヲ利スル意思ナキモ苟モ故意ヲ以テ他人ノ所有物ヲ盜取シタルモノナレハ其盜罪免カレ得ヘキ限リニアラサルナリ今ヤ原裁判言渡ニ〔居村官有地ニ於テ嘗テ奉祭セル三島神社ノ修繕費ニ補助セシテ該境內ニ立木スル根元凡一丈五尺有余廻リノ樺外十一本ヲ廣島縣佐伯郡宮内村平民谷口幸助ヘ該代金十七圓ニテ竊カニ賣リ渡シ而テ既ニ之ヲ伐採セシメタルニアリ云々〕ト事實ヲ認メタレハ其盜伐ニ係ルヲ明瞭ニテ原裁判所カ刑法第三百七十三條ニ問擬セシハ決テ擬律ノ錯誤ニアラサルナリ因テ上告ノ趣旨効ナキモノト判定ス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

第二千三百二十四號

○判文〔無届不參〕明治十六年十二月十八日上告  
同 十七年六月廿五日發付

岩手縣陸中國南岩手郡東中

野村字吳服町士族

宮 杜 孝 一

年齡不詳

右宮杜孝一ニ對シ明治十六年十一月廿日盛岡治安裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年十一月十九日同裁判所ノ召喚ヲ受ケ無届不參スルヲ以テ明治十年第五號公布ニ依リ尙ホ明治十四年第七十二號公布第三條ニ照シ罰金三圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ服從セス被告カ上告爲シタル旨趣ハ明治十年第五號公布ヲ案スルニ無届ニテ遲不參スル時ハ主任ノ裁判官ニ於テ直ニ五錢以上十圓以下ノ罰金ヲ科スルトノ主意ナレハ該言渡書ニ記名セル判事補山田正義ハ即チ上告人ヲ召喚シタル主任官ナラサル可カラス然レトモ上告人ハ當日則明治十六年十一月十九日出頭ノ召喚ヲ受ケタルコトナシ是レ其言渡書ニ對シ誤謬ノ所斷ナリトスル所ナリ又上告人ハ岩手縣士族ナリ然ルニ該言渡書上告人ノ肩書ヘ漫リニ平民ト記載スルカ如キハ甚タ不當ト思考セルヲ以テ速カニ破毀アランコトヲ希望スト云ヒ同裁判所檢察官ハ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

本案上告ノ旨趣ハ明治十年第五號公布ノ主意ニ戻リ其主任ニアラサル判事補山田正義於テ罰金ノ言渡ヲ爲シタルハ誤謬ノ處斷ナリ將タ士族ヲ平民ト肩書セシハ不當ナリト云フニ外ナラスト雖モ該公布中直チニトアルハ其訴ヲ俟タズ對審ヲ要セス即時其主任官ニ於テ處斷シ得ルコト明示シタルニ止リ必スヤ主任官其人ニ於テ之レカ罰金ヲ言渡スヘシト命シタル

ニアラサレハ其他ノ裁判官ニ於テ之レニ代ルヲ得ヘキハ勿論ナリ且平民ト肩書セシハ其誤寫タルヲ明瞭ナルノミナラス本件上利害ノ及フ所ナキモノナレハ併セテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス因テ該上告ハ治罪法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スルモノナリ

第二千三百三十五號

○判文(無届不參) 明治十六年十二月廿八日上告 同 十七年六月廿五日發付

福島縣岩代國北會津郡若松  
西名子屋町四十四番地平民  
醫

中 島 謙 藏

年齡不詳

明治十六年十二月十四日若松治安裁判所ニ於テ右謙藏ヲ無届遲參ノ科アリトシ明治十年第五號布告ニ據リ尙明治十四年第七十二號布告ニ照シ科料金十錢ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ謙藏ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ若松治安裁判所呼出ノ當日即チ明治十六年十二月十四日時間ヲ誤リ遲參セシハ本人大竹孝次郎ニシテ代人タル被告ノ所爲ニアラサレハ被告ハ其科罰ヲ受クヘキノ理ナク又右孝次郎ノ始末書ヲ徴セサレハ時間ヲ誤リタルハ誰レニ在ルヤ分明ナラストセンカ犯罪ヲ証明セス証據不充ナル者ヲ罰スルノ理モ亦之アラサルナリ以上ノ理由ナルニ因リ原裁判言渡ヲ取消サレンコトヲ求ムト云フニアリ仍テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告ノ論旨タルヤ徒ニ事實上ニ立入り原裁判ヲ非難スルニ過キサレハ治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ至ル項目ニ適當セサルヲ以テ上告ノ理由ナキ者トス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也  
第二千三百三十六號

○判文(株式會所及米商會所類似) 明治十六年十一月廿一日上告 同 十七年六月廿五日發付

宮城縣仙臺區元柳町三番地  
士族蝙蝠傘製造

朴 澤 鏡 之 進

明治十六年十月  
三十一年六月

同縣同區同町二丁目二十六

番地平民無職

伊 藤 新 吉

明治十六年十月  
二十三年四月

右朴澤鏡之進伊藤新吉カ闕席裁判ノ故障ニ對シ明治十六年十月十九日明治十六年十一月二日仙臺輕罪裁判所於テ被告鏡之進ハ會主トナリ或ハ家屋ヲ貸與ヘ數名ヲ集メ石油反物相場場ト唱ヘ証據金ヲ差シ入レ米商會所條例株式條例類似買賣ヲ爲シ各自ヨリ一枚ニ付キ金五厘

ツ、ノ口錢ヲ取リタルモノト認定シ被告新吉ハ石油反物相場ト唱へ証據金ヲ差シ入レ米商會所條例株式條例類似賣買ヲ爲シタル者ト認定シ明治十六年第四號及ヒ明治十三年第二十一號布告ニ照シ鑛之進ハ罰金百五十圓新吉ハ罰金七十圓ニ處スト更ニ言渡シタル裁判ニ服セズ被告鑛之進カ上告爲シタル要領ハ時々現品ノ相場ヲ一定セシムル爲メ他ノ商家ト入札法ニ因リ其取極ヲ爲シタルアルモ虛無ノ物品ヲ賣買スル如キ則チ米商會所條例類似ノ賣買ヲ爲シタルニ非ラス然ルニ有罪ト處斷セラレタルハ不當ナリ又假リニ類似賣買ナシタルモノトスルモ會主トナリ或ハ口錢ヲ取ル等ヲ以テ主謀者トナシ共犯者ヨリ情狀重キモノト爲スチ得ス何ントナレハ會主ハ普通ノ會主ト異ナルヲナク其會ノ雜務ヲ扱フモノニテ小使同様にモノナレハナリ又口錢ハ一己カ利益トナシタルニアラスシテ筆墨其他ノ雜費ニ充テタルモノナレハ共犯者ヨリ數等ノ輕キヲ占ムルモノナルニ却テ適當ノ罰金ニ處セラレタルハ不當ナリト云フニ外ナラス又被告新吉カ上告爲シタル要領ハ商家カ爲シ得ヘキ相場ヲ爲シタルニ拘ハラス該刑ニ處セラレタルハ不當ナリ又假リニ該刑ニ該ル所爲ナリトスルモ偏重偏輕ノ裁判ナリ何ントナレハ共犯者大和元吉高橋政右衛門ハ二十圓ツ、ノ罰金ニ處セラレ被告ハ七十圓ニ處セラレタルハナリ云々論疏スルニアリ同裁判所檢事補阿部克己ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辯シタリ

大審院於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ  
 本案上告ノ旨趣ハ之ヲ要スルニ商家カ爲シ得ヘキ商業則チ石油反物ノ相場賣買ナルニ米商會所條例株式條例類似ノ賣買ナリトシ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ外ナラスト

雖モ斯ハ原裁判官カ爲シタル判定ニ對シ徒タニ不服ヲ訴フルモノニ過キサレハ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス如何トナレハ法律ニ於テ其實質ノ判定及ヒ証憑ノ採擇ハ都テ原裁判官ニ放任スル所ノ職權ニシテ他ヨリ之ヲ非難シ得ヘキ限リニ非サレハナリ又共犯者ヨリ適當ノ罰金ニ處セラレタルハ不當ナリト云フト雖モ該罰金ノ範圍內於テ其情狀ヲ量リ相當ノ罰金ニ處斷スルハ固ヨリ原裁判官ノ權內ニアレハ是等ノ事ヲ舉ケ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

右ノ理由ナルニ付該上告ハ治罪法第四百十條ノ各項已外ニ涉リ本院ノ管理スヘキ所ニアラサルヲ以テ同第四百二十七條ニ則リ上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

宮城縣仙臺區國分町九番地

平民茶商

松浦才藏

明治十六年十月

三十二年二月

右才藏カ米商會所條例株式條例類似賣買被告事件ニ付明治十六年十月六日仙臺輕罪裁判所於テ明治十六年第四號明治十三年第二十一號布告ニ照シ罰金百圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セズ被告ハ明治十六年十月十日付ヲ以テ上告趣意書ヲ差出シタルモ其申立書無之ニ付原書類ヲ取調ルニ被告ハ明治十六年十月八日仙臺區光禪寺通り六丁目四十五番地平民内藤養治ニ囑托シ共犯者一同連署シ上告申立書可差出處同人於テ記載落シタルニ付其事由ヲ同

裁判所受付掛へ口頭ヲ以テ申立タルノ相違ヨリ期限ヲ失ヒタルモ右ノ次第ナルニ付治罪法第三百十三條ニ依リ上告權回復致ストノ上申書ヲ同裁判所ニ差出シタリ然ラハ則チ被告ハ上告權ヲ失ヒタルモノナルヲ明カニシテ本件ハ治罪法第三百十二條ニ依リ之レカ回復ヲナスノ權アルヤ否ヤヲ判決スルノ一點ニ止マルモノトス抑モ治罪法第三百十二條ニ上訴ノ權ヲ回復シ得トアルハ其明文ノ如ク非常ノ變災厄難等總テ抗拒ナシ得ヘガラサル災害ニ係リ期限ヲ經過シタル場合ヲ指スモノニシテ本件ノ如キ場合ニマテ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス何ントナレハ本件ハ被告カ代人ノ過失ニヨリ其期限ヲ經過セシモノニシテ是則チ本人タル被告ノ過失ナリト云ハサルヲ得サルノミナラス必ス連名ヲ要スル事件ニアラサレハ別紙之レヲ差出スモ妨ケナキモノナレハナリ況ンヤ仙臺輕罪裁判所受付掛ニ於テ被告代人ヨリ記載落シノ事由ヲ申出タルヲナシト申立テ他ニ果シテ然ルヤ否ヲ証明スヘキ具ナキニ於テヤ

右ノ理由ナルヲ以テ被告ハ上告權ヲ失ヒタルモノニ付治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之レヲ棄却スルモノ也

宮城縣仙臺區立町三丁目百  
三十五番地北村豐吉方止宿  
東京府平民骨董商

池田 甚太郎

明治十六年十月

二十八年九月

同縣同區國分町三十二番地

平民埋木商

及 川 勇藏

明治十六年十月

五十一年六月

同縣同區定禪寺通櫓町十七

番地庄子万吉方止宿富山縣

平民米穀商

舟橋 宗三郎

明治十六年十月

二十九年十一月

同縣同區東一番町十三番地

岩崎勝次郎方借舎平民古着

渡世

小川 利三郎

明治十六年十月

二十六年三月

三三三

同縣同區國分町五十六番地  
平民下駄商

玉川 金兵衛

明治十六年十月  
二十七年六月

同縣同區常盤町二十五番地  
平民小間物商

佐藤 永之丞

明治十六年十月  
二十五年七月

同縣同區東一番町三十三番地  
地平民賣藥行商

高橋 安太郎

明治十六年十月  
二十二年五月

同縣同區國分町百六十番地  
愛知縣平民蝙蝠傘職

加藤 安太郎

明治十六年十月  
二十七年四月

同縣同區大町一丁目十四番地  
地平民古着商

横山 金藏

明治十六年十月  
二十七年六月

同縣同區元材木町二十一番地  
地平民無職

及川 權五郎

明治十六年十月  
二十五年三月

同縣同區肴町二番地平民太  
物行商

阿部 良作

明治十六年十月  
二十九年七月

同縣同區二日町十二番地平

民下駄商

大和元吉

明治十六年十月

四十五年八月

同縣同區元荒町十九番地平

高橋政右衛門

明治十六年十月

三十九年十月

同縣同區國分町三丁目三十

三番地平民砂糖商

山口惣七

明治十六年十月

三十九年六月

右十四名カ被告事件ニ付明治十六年十月六日仙臺輕罪裁判所於テ被告等ハ石油反物相場ト唱ヘ各証據金ヲ差シ入レ免許ヲ得スシテ米商會所條例株式條例類似ノ賣買ヲ爲シタルモノト認定シ明治十六年第四號及ヒ明治十三年第二十一號布告ニ照シ池田甚太郎及川勇藏舟橋宗三郎小川利三郎玉川金兵衛佐藤永之丞高橋安太郎横山金藏ハ罰金百圓宛及川權五郎阿部

良作加藤安太郎山口惣七ハ罰金七十圓宛大和元吉高橋政右衛門ハ罰金二十圓宛ニ處ストノ裁判言渡ニ服セズ被告人等カ上告爲シタル要領ノ第一ハ石油端物商業ノ免許ヲ與フルト與ヘサルトハ政府ノ特權ナリ然ラハ則チ其免許ヲ得スシテ商業ヲ營ムモノハ本年宮城縣甲第七十四號第八條ヲ犯ス者ニテ明治十三年第二十一號及ヒ同十六年第四號公布ヲ犯シタルモノニアラス然ルチ該條例類似賣買ノ所爲ト判定セラレシハ不當ナリ將タ明治十三年第二十一號布告ニ其佗之ニ類似シタル云々トアルハ抑モ通常一般ノ性質ノモノヲ指シタルニ非ラズ大即チ之ヲ譯言スレハ金錢ヲ賭ケ博奕ニ同シキ相場類似ナルモノニテ決シテ商法家ノ入札相場ノ類ノ如キニ適用スルモノニアラサルヘシ然ルニ彼ノ性質ト是ノ性質ト相混同シテ擬律セラレシハ不當ナリト又其第二ハ裁判言渡前ニ當リ被告池田甚太郎ノ口供中囁嚅ノ件々少ナカラサルニ付内藤養治ニ其不足ヲ補ハント上申セシニ裁判終結相成リタリト却下セラレタルハ治罪法第四百五十一條ヲ犯シタルモノナリ云々縷述スルニアリ同裁判所檢事補阿部克己ハ原裁判允當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ  
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ  
本按上告ノ旨趣ハ石油反物ノ商業爲シタルモノニ刑ヲ言渡サレタルハ不當ナリト云フニアレハ斯ハ原裁判官カ爲シタル判定ニ對シ徒ニ不服ヲ訴フルモノニ過キサレハ以テ上告ノ原由ト爲スコトヲ得ス何ントナレハ法律ニ於テ事實ノ判定及ヒ証憑ノ採擇等ハ都テ原裁判官ニ放任スル所ノ職權ニシテ佗ヨリ之ヲ非難シ得ヘキ限リニ非ラサレハナリ又被告池田甚太郎ハ口供ヲ補ハシ爲メ差シ出シタル上申書ヲ却下セラレタルハ法律ニ違背セリト云フト雖モ



已ニ本件辯論終結ノ後ニ於テ此請求ヲ爲シタルモノナレハ之ヲ却下シタルハ相當ニシテ破  
毀スヘキ限リニアラストス

右ノ理由ナルニ付キ該上告ハ治罪法第四百十條ノ各項已外ニ涉リ本院ノ管理スル所ニアラ  
サルヲ以テ同第四百二十七條ニ則リ上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第二千二百二十七號

○判文〔証券規則犯〕明治十六年一月七日上告  
同 十七年六月廿五日發付

東京府本所區龜澤町二丁目  
十番地平民

兒 島 幸 吉

明治十六年十二月  
三十四年

明治十六年十二月十五日東京輕罪裁判所ニ於テ右兒島幸吉カ証券印稅規則違犯ノ被告事件  
ニ付被告ハ同規則第二則第一條第二類ニ違背シタルモノトシ刑法第五條ニ基キ右規則第四  
則第二條及ヒ明治十四年第七十二號布告第三條ニ依リ脫稅高二十七錢ノ二十倍即チ五圓四  
十錢ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告幸吉ハ上告ヲナシタリ其要領ハ印稅違犯  
ナリトセラレタル証書ハ只一時起草シタルマテニシテ花岡助之丞ヘ差入レタルモノニアラ  
サレハ治罪法第三百五十八條ニ依リ免訴ノ言渡アルヘキ筈ナルニ罰金ヲ言渡サレタルハ同  
法第四百十條第十項ニ所謂擬律ノ錯誤ナリト云フニ外ナラス原裁判所檢事補馬渡多藏ハ被

告ノ上告ハ其理由ナキヲ以テ棄却アラントナキモ旨答辨セリ

爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ判決スル左ノ如シ

被告カ上告ノ旨趣ハ法律上裁判官ニ特任スル所ノ職權内ニ侵入シ其事實認定ヲ非難シ覆審  
ヲ求ムルモノニシテ一モ治罪法第四百十條ニ規定シタル上告ノ原由ナキヲ以テ同法第四百  
二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

第二千二百二十八號

○判文〔官吏侮辱及抗拒〕明治十七年四月廿二日上告  
同 年六月廿六日發付

神奈川縣大住郡須賀村平民  
馬喰渡世

伊 藤 留 五 郎

明治十七年三月  
五十歲生月不詳

右留五郎カ被告事件ニ付明治十七年三月廿七日橫濱輕罪裁判所ニ於テ被告ハ第一明治十六  
年十一月二十二日平塚警察分署ニ於テ官吏ノ職務ニ對シ侮辱ヲ爲シタル罪第二明治十六年  
十一月廿三日午前三時頃平塚分署ヨリ被告人カ内實妻トナス處ノ同居主土屋「ウタ」ヲ拘引  
ノ爲メ巡查加藤正治外數名同家へ出張セシテ抗拒シ右加藤正治カ着用ノ外套ヲ破毀シ又警  
部代理巡查毛利七郎ヲ毆打シ疾病休業二十日ニ至ラサル創傷ヲ爲シタル所爲ハ証憑充分ナ  
リトシ第一ハ刑法第四百一十一條ニ該當シ第二ニ於テハ一旦責付ヲ爲シタル犯人ヲ引致スル

ニ令狀ヲ携帶セサルノミナラス日出前即チ午前三時ニ於テ人民ノ家宅ヲ搜索スルハ法律ノ許サ、ル所ヲ行フタルモノニシテ已ニ法律規則ヲ執行スルニ非スシテ人家ヲ襲フタル者ナレハ被告人カ夜間其妻ノ拘引ヲ拒ムニ當リ創傷ヲナシタルハ勢ノ止ムヲ得サルニ出タル者ナレハ即チ刑法第三百十五條末項ニ該當シ其罪ヲ論セス第一ノ所爲ハ同第四百十一條ニ依リ處分ス可キモ先ニ輕罪ノ刑ニ處セラレタルヲ以テ第九十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ一月七日以上一年三月以下六圓廿五錢以上六十二圓五十錢以下ノ範圍ニ於テ重禁錮五月罰金十圓ヲ附加スト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ原裁判所檢事補島村文耕ハ上告ヲ爲セリ其要旨ハ第一被告伊東留五郎罪証充分ナリト認メナカラ相當ノ裁判ヲ與ヘサルハ即チ越權ナルヲ第二責付中ノ被告人ヲ引致スルニ令狀ナキヲ違法ナリト認メタルハ即チ事實ノ齟齬ナルヲ第三現行犯アル場合ハ日出日没ニ不拘司法警察官ニ於テ被告ヲ逮捕スルノ權アルヲ却テ人家ヲ襲フタル者ト誤認セシハ即チ擬律ノ錯誤ナルヲ原裁判ハ右三箇ノ不法アルヲ以テ上告ノ原由アル者ト確認シ上告ヲ爲スト云フニ在リ對手人被告伊藤留五郎ハ答辯ヲ爲サス大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ曰ク原裁判所ニ於テ被告カ第二ノ所爲ニ對シ無罪ヲ言渡シタルノ理由ハ司法警察官カ夜間家宅搜索ヲナシタルハ法律ノ許サ、ル所ヲ行フタルノ所爲ナリト云フニ在レハ該判ノ當否ヲ監査スルニハ先ツ其夜間家宅搜索ヲ爲シタルハ果シテ法律ニ背キタル所爲ナルヤ否ヤヲ審究セサルヘカラス今原裁判所カ証憑ナリトシテ掲載シタル証人毛利七郎ノ陳述ニ依ルニ初メ被告人カ請願ニ因リ土屋「ウタ」ヲ責付シタルモノ仍藏匿ノ舉動アリト思料シ「ウタ」ヲ引致ノ爲メ巡査後藤正

治チ出張セシメ云々トアリテ其文意タルヤ司法警察官ハ土屋「ウタ」ヲ舉動現行犯ナリト認メ之ヲ逮捕セシメタル者ト云フニ外ナラス果シテ然ラハ現行犯ヲ逮捕スルニハ夜間家宅ヲ搜索スルモ固ヨリ法律ノ禁セサル所ナレハ決シテ法律ヲ犯シタル者ナリト云フヲ得ザレハ其現行犯ナルヤ否ヤヲ審究スルハ實ニ本件必用ノ点ナルニ原裁判所カ前陳ノ如キ証言ヲ掲載シナカラ究竟其現行犯ナルヤ否ヤノ理由ヲ附セスシテ輒ク夜間家宅ヲ搜索スルハ法律ノ許サ、ル處ナリト判定シタルハ治罪法第三百四條ニ背キタル不法ノ裁判ナレハ隨テ其擬律ノ正鵠ヲ失ハサルヤ否ヤヲ知ルニ由ナキモノトス因テ茲ニ附帶上告ニ及ヒ原裁判ヲ破毀シ他ノ相當ナル裁判所ニ移スノ言渡アラソク望ムト陳述セリ按ズルニ原判文上証人毛利七郎カ陳述ニ土屋「ウタ」カ責付シタルモノ仍藏匿ノ舉動アリト思料シ「ウタ」ヲ引致ノ爲メ巡査後藤正治チ出張セシメ又被告人留五郎ヲ拘引ノ爲メ三名ノ巡査ヲ連レ出張シ云々又警部ノ命ニ依リシナレハ令狀ヲ付セスト申立テ証人後藤正治ノ調書ニ依レハ留五郎引致ノ爲メニアラス警部代理毛利七郎ノ命ニ從ヒ土屋「ウタ」ヲ引致ノ爲メ出張シ「ウタ」ヲ押捕スルニ留五郎カ抗拒シ云々トノミ掲載シ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク本件ノ必要ナル其現行犯ナルヤ否ノ點ニ付テ理由ヲ付セス輒ク夜間家宅ヲ搜索スルハ法律ノ許サ、ル所ナリト斷了セリ是レ治罪法第三百四條ノ成規ニ違背シタルモノニテ治罪法第四百十條第九項ニ該當ナル事實理由ノ不備ナルモノトス但本案既ニ破毀ノ原因ヲ備ヘタレハ上告ノ各論點ニ付キ別ニ說明ヲ付スルヲ要セサルモノトス

以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ更ニ本案被

告事件ヲ東京輕罪裁判所ニ移シ審判セシムルモノナリ  
第二千二百二十九號

○判文(官吏抗拒) 明治十六年十一月十四日上告  
同 十七年六月廿六日發付

大坂府西區松島花岡町三十

二番地平民料理店

難波 鹿造

明治十六年十月

三十五年

右鹿造カ被告事件ニ付明治十六年十月三十日大坂輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年九月十八日午前一時頃突然大坂府西區松島中ノ町一丁目小野寅方へ侵入シ暴行ヲ爲サントスル際巡行ノ巡查ニ制止ヲ受ケタルヨリ暴行ヲ以テ之レニ抗拒シタルモノト認定シ刑法第三百二十九條ニ依リ仍ホ同第八十九條同第九十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮二月ニ處シ罰金二圓五十錢ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補秋田政徳ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ夜間故ナク人家ニ侵入シ及ヒ暴行ヲ以テ官吏ニ抗拒シタルニ事件ノ公訴ニ對シ原裁判官ニ於テ單ニ其官吏ニ抗拒シタル所爲ノミヲ判決シ夜間故ナク人家ニ侵入シタルノ所爲ヲ判決セサルハ治罪法第四百十條第七項ニ適合スル不法ノ裁判ナリト謂フニ在リ  
茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
原裁判官渡ニ據ルニ被告カ行爲ハ夜間故ナク小野寅方ニ進入シテ暴行ヲナサントスル際巡

行ノ巡查ニ制止ヲ受ケ暴行ヲ以テ之レニ抗拒シタルニ在ルコト判然タリトス果シテ然ラハ此事實ニ對シテハ刑法第七十二條同第三百二十九條ニ依リ仍ホ同第三百條末項ニ照シ一ノ重キ者ニ從テ處斷スヘキモノナルニ原裁判所ニ出テス單ニ同第三百二十九條ニ依リ處斷シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル不法ノ裁判ナリトス依テ同第四百二十九條ニ從ヒ原裁判官渡シテ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

難波 鹿造

右被告人ノ行爲ハ原裁判官ノ認定シタル所ニ依リ明確ナルヲ以テ刑法第七十二條同第三百二十九條ニ依リ仍ホ同第三百條末項ニ照シ一ノ犯情重キ暴行ヲ以テ官吏ニ抗拒シタル罪ヲ問ヒ且ツ所犯原諒スヘキ狀情アルヲ以テ同第八十九條同第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ二月以上二年以下二圓五十錢以上二十五圓以下ノ範圍内ニ就テ二月ノ重禁錮ニ處シ二圓五十錢ノ罰金ヲ附加スル者也

第二千四百十號

○判文(官印偽造) 明治十六年六月六日上告  
同 十七年六月廿六日發付

愛知縣尾張國中島郡奧田村

二百七番地正本寺住職教導

職試補平民

吉田 法山

明治十六年五月

三七三

二十五年十二月

右法山カ被告事件ニ付明治十六年五月九日愛知重罪裁判所ニ於テ被告ハ第一官印ヲ偽造シ  
 第二人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取シ第三及ヒ第四官吏ノ公証シタル文書ヲ偽造シテ之ヲ行使シ財  
 物ヲ騙取シ第五証書ヲ偽造行使シ財物ヲ騙取シタルモノトシ刑法第百九十五條第三百九十  
 條第三百九十四條第二百四條第二百十條第一項ニ照シ處斷スヘキ數罪俱發スルヲ以テ第百  
 條ニ照シ一ノ重キニ從ヒ重懲役ニ處スヘキ處原諒スヘキ情狀アルヲ以テ第八十九條第九十  
 條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ輕懲役八年ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ被告法山カ上告ヲ爲シ  
 タル旨趣ハ被告ニ於テ第一印判師田中里兵衛ヲ欺キ愛知縣海東郡伊麥村戸長役場ノ印ヲ偽  
 造シタルコトナシ第二水谷慶造ヲ欺キ同人ヲシテ借主タラシメ堀内金兵衛ヨリ金貳百圓ヲ騙  
 取シタルモノト判定セラレタリト雖モ該金ノ性質ハ全ク貸借ニシテ騙取シタルモノニ非ス  
 第三竹田宣明カ依頼ニ因テ買受タル加藤庄平ノ地券二十七枚吉田諦靈ヨリ預リ置ク地券六  
 枚都合地券三十三枚ヲ右宣明ニ貸渡シ置キタル迄ニシテ第三第四第五ノ所爲ハ總テ宣明カ  
 所爲ニシテ被告ニ於テ其罪ヲ犯シタル覺ヘナシト云フニ在リ原檢察官ハ上告不當ニシテ其  
 理由ナキ旨ヲ答辯セリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ上告代言人古田常七カ陳述  
 及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スル左ノ如シ  
 本案上告ノ旨趣ハ原裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル事實判定ニ對シ其當否ヲ論疏スルニ過キ  
 スシテ治罪法第四百十條外ニ涉ル上告ナルヲ以テ其原由ナキモノトス因テ同法第四百二十  
 七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

第二千四百四十一號

○判文(私印私書偽造) 明治十六年五月二日上告  
 同 十七年六月廿六日發付

岐阜縣美濃國厚見郡小熊村  
 平民無職業

佐溝能尾

明治十六年四月

三十七年五月

明治十六年四月七日岐阜輕罪裁判所ニ於テ右佐溝能尾カ被告事件ノ審理ヲ遂ケ被告人ハ明  
 治十四年二月中地所取戻ヲ舊名古屋裁判所岐阜支廳へ出訴セシモ敗訴トナリタルヨリ明治  
 十四年中該地所取戻證書ヲ偽造爲スニ付三谷清助ノ私印ヲ偽造シ明治七年三月日付畧記ノ  
 地所取戻證書ヲ偽造シ明治十四年八月中舊東京上等裁判所へ該偽造證書呈供セシニ敗訴ト  
 相成タルヨリ明治十四年十二月中再ヒ該偽造證書寫ヲ大審院へ差出セシ處該件ハ同院ニ於  
 テ破毀相成名古屋控訴裁判所へ移サレタルヲ以テ明治十五年年中ニ至リ尙又其偽造證書寫ヲ  
 同裁判所へ提供行使シアルヲ明治十五年九月中三谷孝助ヨリ被告ニ對シ該證ハ偽造ニ出テ  
 タルモノナリト告訴セシニ際シ其證書ハ紛失セシト陳述シ該證書ヲ提出セサルハ故ニ其形  
 跡ヲ隱蔽セントノ意匠ヲ以テ湮滅セシメタルモノニシテ即チ私印私書ヲ偽造行使シタルモ  
 ノト認定ス其所爲第一ハ刑法第二百八條ニ照シ第二ハ刑法第二百十條ニ照シ數罪俱發ナル  
 ナリテ刑法第百條ニ照シ一ノ重キ刑法第二百八條ニ依リ重禁錮六月ニ處シ罰金五圓ヲ附加

ス仍ホ刑法第二百十二條ニ照シ六月ノ監視ニ附スト言渡タル裁判ニ服セス被告佐溝能尾ハ上告ヲ爲セリ其要ヲ節約スレハ第一被告ニ於テ私印私書ヲ偽造シタルニアラサルニ其所爲アル者トシ刑ニ處セラレタルハ不法ノ裁判ナリ第二被告ヨリ請求シタル證據ノ取調ナクシテ判決サレタルハ不當ナリ第三被告カ舊名古屋裁判所岐阜支廳へ出訴ニ及ヒタルハ明治十四年一月中ナルニ同二月ト記載セラレ又被告カ該証書ヲ大審院へ奉呈セシハ同十四年十一月中ナルニ同十二月中ト記載セラレタルハ不當ナリ第四被告ハ證書偽造ノ罪アリトスルモ未タ以テ其目的ヲ遂ケサルハ未遂犯罪ナリ然ルチ既遂犯トシタルハ不法ナリ第五證人淺川雄太郎ノ証言ヲ證據ノ一ニ供セラレタルモ該調書ノ朗讀ナキノミナラス公判席ニ喚問モナカリシハ不當ナリト云フニ在リ原裁判所檢事補木村金吉郎ハ被告カ上告ノ旨趣ハ治罪法第四百十條ノ理由ヲ存スルモノニアラサルヲ以棄却アルベキモノトノ答辯ヲ爲セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事堀田正忠ノ意見ヲ聽クニ曰ク上告ノ論點ニ對シ逸々左ニ意見ヲ陳セン第一上告第一ノ論點ハ單ニ事實ノ判定上ニ不服ヲ鳴スモノニ過キスシテ法律ニ定メタル上告ノ理由ニ適當セサレハ到底相立タサルモノト思考ス第二公判始末書ヲ查スルニ被告カ證據ノ取調ヲ請求シタル事實ノ見ルヘキナキヲ以テ上告第二ノ論點ハ徒ニ架空ノ造言ヲ構へ原裁判言渡シノ破毀ヲ試ムルモノニ過キサレハ是亦相立サル論點ト思考ス第三上告第三ノ理由ノ如ク一月ヲ二月ト十一月ヲ十二月ト誤記シタリトスルモ本按裁判上ニ毫モ影響ヲ及ボサレハ是亦破毀ノ理由トスルニ足ラス第四被告ハ證書ヲ偽造シ之ヲ民事ノ法廷ニ呈供シタルモノナレハ其所爲ハ即チ証書偽造ノ既遂犯罪ニシテ行使ノ

目的ハ業已ニ遂ケタルモノト云サルヲ得ス因テ此論點モ相立サル者ト思考ス第五公判始末書ヲ閱スルニ其第五項ニ「書記ハ豫審調書ヲ朗讀ス」トアルアレハ獨リ証人淺川雄太郎ノ調書ヲ朗讀セサルノ理ナキヲ以テ上告第五ノ理由中朗讀ヲ聽カサリシトノ申立ハ相立サル者トス又公判判事ハ自ら證人ヲ喚問スルノ責ナキヲ以テ之ヲ喚問セサルモ破毀ノ理由トナラサルナリ依テ此論點モ相立サル者ト思考ス因テ被告カ上告ハ總テ理由ナキモノト確信ス然レトモ原裁判言渡書ヲ按スルニ被告ハ明治十四年中ニ於テ私印私書ヲ偽造シ之ヲ行使シテ三谷清助ノ地所ヲ詐取セントシタルヤ明瞭ニシテ原裁判官モ之ヲ認ムル處ナリトス然リ而私書私印偽造行使ノ罪ハ既遂罪ナルモ其詐欺取財犯ノ點ハ未タ目的ヲ遂ケ得サレハ未遂犯罪トナシ各犯罪ニ對シ新舊法ノ各本條ニ比照シ處斷ス可キモノナルニ原裁判茲ニ出テサルハ失當ノ裁判ト思考セリ則チ附帶ノ上告ヲ爲シ原裁判ノ更正ヲ求ムト云フニ在リ茲ニ原裁判書等上告ニ關スル一切ノ書類ヲ查閱シ之ヲ審按スルニ本院檢事意見ノ旨趣ノ如ク上告論旨ノ第一ハ治罪法第四百十六條ニ規定シタル事實承審官職權内ナル事實ノ認定ヲ非難スルニ止マリ其第二第五ノ兩點ハ公判始末書中果シテ上告旨趣ノ如キ事アリシト視ルヘキモノナク然シテ其際被告カ故障ヲ申立シト云フニモアラサレハ共ニ治罪法第四百十條ノ各項ニ適當ナル上告ノ理由ニアラストス其第四點偽證書ハ裁判所へ呈出スル歟又ハ被害者等へ明示シタルヲ以テ行使ト云フヘキモノニシテ此點モ亦上告ノ理由ニアラス其第三點ハ實ニ上告論旨ノ如ク判文上誤謬アルモノト雖一月ヲ二月ト十一月ヲ十二月トシタルカ爲メ本案裁判上ニ影響ヲ及ボシ被告ノ不利ト爲リシニアラサレハ此ノ一些事ヲ以テ原裁判ヲ破毀

スヘキ限ニアラヌ要スルニ被告カ上告ハ總テ法律ニ定メタル原裁判破毀ノ理由ニアラヌト  
 ス又本院檢事付帶上告ノ旨趣ニ依リ之ヲ按スルニ被告ハ質代金ヲ出シ質地ヲ受ケ戻サント  
 スル者ニテ單ニ他人ノ財産ヲ騙取セント欲スルニアラサルモ他人即チ被害者ニ於テ被告ニ  
 渡ストチ欲セサル土地ヲ偽證書ニ力ヲ藉リ引渡サ、ルヲ得サラシメント爲ルニアレハ其要  
 他人ノ財産ヲ騙取セントスル者ナルヲ以其所爲タル詐欺財ヲ得ントシテ未ダ遂ケサルモノ  
 ト云ハサルヲ得ス然ルニ原裁判所ニ於テ其事實ヲ認メ其刑ヲ科サ、リシハ擬律ノ錯誤ニシ  
 テ而新法實施前ノ犯罪ナルニ新舊ノ法ヲ比照セサリシハ俱ニ治罪法第四百十條第十項ニ適  
 當ナル理由ナリトス因テ被告カ上告ハ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却シ附帶上告ノ  
 旨趣ニ付治罪法第四百二十九條ニ遵ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ  
 爲ス左ノ如シ

佐 溝 能 尾

原裁判所カ認メシ事實ニシテ前條ノ理由ナルヲ以テ其事實中第一私印ヲ偽造行使シタル  
 ハ舊法ニ於テハ新律綱領詐偽律偽造私印條ニ該リ懲役百日新法ニ於テハ刑法第二百八條  
 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス刑法第二百十二  
 條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付スト云  
 フニ該ルモノトス  
 第二證書偽造行使ノ所爲ハ舊法改定律例第二百四十六條私ノ文書ヲ詐爲スル者ハ情ヲ量  
 リ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツ不應爲條情輕キ者ニ擬シ懲役三十日新法ニテハ刑法第二百十

條云々其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ云々シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮四  
 圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス刑法第二百十二條此節ニ云々六月以上二年以下ノ監視  
 ニ付スト云フニ該ルモノトス

第三詐欺財ヲ得サルノ所爲ハ舊法竊盜財ヲ得サルモノニ准シテ論シ懲役四十日新法第三  
 百九十條人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲  
 シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス刑法第三百九十  
 七條此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス  
 刑法第一百十二條罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙云々ニ因リ未ダ  
 遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス則チ本刑ニ二等ヲ減スヘキモノ  
 トス仍ホ刑法第三百九十四條前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ  
 監視ニ付スト云フニ該ルモノトス

以上ノ三罪舊法ニ於テハ名例律二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ第一ノ罪ニ從ヒ懲役百  
 日ヲ科スヘキモノニシテ新法ニ於テハ刑法第百條云々二罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重  
 キニ從ヒ處斷ス云々輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷スト云フニ照シ第一ノ罪  
 ヲ重トシ刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照シ輕キ舊法ニ從ヒ被告佐溝能尾ヲ懲役百  
 日ニ處スルモノ也

第二千四百四十二號

○判文(証書偽造)明治十六年七月五日上告  
 同 十七年六月廿六日發付

鳥取縣因幡國邑美郡西町士  
族無職業

田邊 料治

明治十六年六月  
四十六年二ヶ月

鳥取縣因幡國八上郡小倉村

平民農業

北尾 伊八

明治十六年六月  
三十一年四ヶ月

右料治伊八カ被告事件ニ付明治十六年六月九日鳥取縣裁判所ニ於テ審理ノ末私印盜用證書偽造詐欺取財未遂ノ事實アリト認メ刑法第百條ニ依リ一ノ同第二百八條第二項同第二百十二條ニ照シ各三年ノ重禁錮ニ處シ二十圓ノ罰金二年ノ監視ヲ附加ストノ裁判言渡ニ服從セス各上告セリ料治カ上告ノ要領ハ原裁判所カ偽造證書ナリト認定セラレタル長谷庄次郎カ借金證書ハ亡母「フサ」ノ遺物財産中ヨリ發見シタルヲ以テ返却方請求シタルモノニシテ決シテ偽造シタルコアラス然ルニ原裁判所ハ何等ノ証憑ニ依リ認メラレタルヤ北尾伊八ト共謀上成立タル偽造證書ナリトシ處斷セラレタルハ不當ナリト云ヒ伊八カ上告ノ要旨ハ親戚長谷庄次郎カ更ニ知ラサル處ノ偽造ノ貸金證書ヲ以テ田邊料治ヨリ勸解出願セラレタル

ニ付告訴致シ吳レ可キ旨委任ヲ受ケ其入費トシテ金十五圓ノ約定證書ヲ受取リタルモ他ニ不得已事故アリテ告訴ヲ遲延シタルマテノ事實ナルニ豫テ交際モナサハル田邊料治ト共謀詐取シタルモノト認メラレタルハ不服ナルノミナラス偽造シタリト認メラレタル證書ハ果シテ偽造シタルヤ之カ鑑定ヲモ爲サシメス輒シ有罪者ナリトシ處斷セラレタルハ不當ナルニ因リ破毀ヲ求ムト云ヒ猶ホ料治ハ上告辯明書ヲ提出シテ前意ヲ擴張セリ  
對手人檢事補安藤眞一ハ原裁判毫モ不當ニアラスト答辯セリ  
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ  
上告ノ理由トスル處遺物財産中ヨリ發見シタル證書ニシテ偽造シタルニアラス告訴入費トシテ金拾五圓ノ約定證書ヲ受取リタルモ他ニ事故アリテ告訴ヲ延引シタルマテナルニ曾テ知ラサル者ト共謀詐取シタリト認メラレタリ又ハ偽造證書ト認メラレタルモ鑑定ヲ爲サシメサルハ不當ナリト云フニ在リト雖モ原裁判所カ治罪法第百四十六條ニ依リ特任セラレタル職權ヲ以テ正當ノ手續ヲ履行シ爲シタル處ノ事實認定上ニ對シ徒ニ之ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス又偽造證書ノ鑑定ヲ必要ナリトスルハ之カ請求ヲ爲スヘキ筈ナルニ公判始末書中之カ請求ヲ爲シタリト見ルヘキ明記アルコトナク飯ニ之カ請求ヲ採用セサリシモノトスルモ別ニ異議ヲ申立タルニモアラサレハ今更不服ヲ唱フルモ破毀ノ原由ト爲スヲ得ス因テ上告趣旨相立タサルモノト判定ス  
以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

○判文(私書偽造及毆傷) 明治十六年十二月十八日上告  
同 十七年六月廿六日發付

島根縣石見國鹿足郡後田村  
平民當今山口縣周防國吉敷  
郡山口中讀井町寄留

永 見 太 三

明治十六年十一月  
三十一年十月月

右太三カ被告事件ニ對シ明治十六年十一月八日山口輕罪裁判所於テ被告ハ既ニ死亡セシ平五郎ヨリ戸長ヘ宛タル養子入籍願書ヲ取扱タルハ事實相違ナキモ故ラニ入籍願書ヲ偽造シ其財産ヲ掠奪セントシタル等ノ証憑ナク又他人ヘ害ヲ加ヘ或ハ害ノ生スヘキモノニ非ラサルヲ以テ刑法上罪トナラサルニ付無罪ナリト雖モ平五郎遺子當時三年六月ノ良介ヲ戒メノ爲メナリトテ制縛毆打シ負傷セシメ數日間疾病ニ至ラシメタルモノト判定シ刑法第三百二十三條第三百二十四條第三百一條第二項ニ依リ其重キ第三百二十三條ノ刑期範圍内ニ於テ重禁錮八月ニ處シ罰金二十圓ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス被告太三ハ上告ヲ爲シタリ其趣意及辨明書ノ要領ハ制縛シタルハ慈愛懲戒ノ爲メニシテ良介カ嘔吐ヲ催セシ際補助シ小紐ヲ以テ胸部ヲ縛シ遣シ其儘忘却寢ニ就キ翌朝ニ至リ見レハ皮膚紫色ニ變シ居タルニヨリ附藥ヲ爲シタルモ全ク過誤ニ出テタルモノナリ又懲戒ノ爲メ梯ノ木ニ縛シタルモ負傷スヘキ程ノヲニ之ナク灸治ヲセシハ疾病治療ノ爲ニシテ身體ノ創傷ハ堀友三郎カ強テ連レ行

キタル後ニテ被告ノ知ル所ニアラス而シテ良介ハ疾病セシク無ク醫師ノ鑑定書ハ唯創痕ノ鑑定ニテ被告カ負傷セシメタル證憑ニアラス然ルチ原裁判所ハ近隣内田茂吉ノ喚問ヲ請求スルモ採用セス證人等ノ不實ノ陳述ヲ採リ推測ヲ以テ裁判ヲ下シタルノミナラス曩キニ豫審廷於テ書記タリシ柴崎尙善ヲシテ公廷ヘ立會ノ檢察官タラシメタルハ治罪法ニ違背セシ不法ノ裁判ナルニ付原裁判ヲ破毀シ至當ノ裁判ヲ望ムト云フニアリ原裁判所檢察官ハ被告カ上告ハ其理由ナキ旨答辯シ且附帶ノ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ送籍願書ヲ偽造シタルハ既ニ裁判官於テ認メタル所ナリ而シテ本件ハ不正ノ養子及家族創傷ニ係リ被害者ノ告訴ニ起リシモノニテ送籍書ヲ有効トセハ嗣子良介カ直チニ戸主タルヘキ權利ヲ消滅シ財產ハ被告カ有トナルニ付其害ヲ被リタルヲ判然タレハ其害ノ生スヘキナキヲ以テ無罪ナリト言渡タルハ擬律ノ錯誤ニ係ル裁判ナリ依テ至當ノ判決ヲ望ムト云フニアリ大審院於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ  
被告上告ノ旨趣第一嗣子良介ヲ制縛シタルハ懲戒及疾病補助ノ爲ニシテ決シテ負傷セシメタルヲナキヲ證人等ノ不實ノ陳述ヲ採リ制縛負傷セシメタルトシ第二豫審ニテ書記タリシ者檢察官トナリ公廷ニ立會シハ法律ニ背キタルモノナリト云フニアレモ一ハ承審官カ特有ナル權内ニ侵入シ不服ヲ訴フルニ過キス二ハ豫審ニテ書記タリシ者檢察官トナリ公廷ニ立會フヲ禁シタル法律アラサレハ共ニ上告ノ原由トナスヲ得ス又檢察官附帶上告ノ旨趣タル被告カ送籍狀ヲ偽造シタルハ惡意ニ出テ害ノ及フヘキモノナルヲ判然タルニ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアレモ原裁判官カ惡意アリシ證憑ナク又他ニ害ノ及フ



ヘキモノニ非スト認定シタル以上是又他ヨリ動カシ得ヘキモノニ非ラス何ソトナレハ諸般ノ證據ヲ取捨シ事實ヲ認定スルハ原裁判官カ特權ニシテ他ヨリ之ヲ非難シ得ルノ限リニアラサレハナリ

右ノ理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ニ則リ本案上告及附帶上告トモ之ヲ棄却スルモノ也

第二千四百四十四號

○判文(私書偽造) 明治十六年五月一日上告  
同 十七年六月廿六日發付

福島縣岩代國河沼郡三谷村

平民農業

佐藤彌次郎

明治十六年三月二十五日

右彌次郎カ私書偽造被告事件ニ付明治十六年三月十五日福島縣裁判所若松支廳於テ刑法第二百十條第二百十二條ニ依リ重禁錮二年ニ處スヘキ所前ニ若松輕罪裁判所於テ闘毆ノ科ニ因リ重禁錮一月ニ處セラレタルヲ以テ刑法第二百二條ニ照シ前發ノ刑一月ヲ控除シ剩ル重禁錮一年十一月ニ處シ罰金二十圓監視一年ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス被告彌次郎カ上告セル要領ハ被告ハ小池多喜七外二名ノ代理トナリ勸解廷出頭シタルコトアルモ多喜七一名ノ代人ト爲リ出頭シタルコトナキニ判文上單ニ小池多喜七代ト爲リ云々ト示サレタルハ不

當ニシテ被告ハ明治十四年十二月廿五日菅野知義ト受授シタル受取證書ヲ變造シタルコトナシ知義於テ呈出スル所ノ變造シタルト云受取證書ハ預金ヲ貸金ニ改約スル際証書書類一切交換シタルハ存在スル謂ナシ良シ存在スルモ之レヲ變造シタルニアラサルコトハ(二百四)ノ三文字ヲ容易ニ挿入シ得ヘキモノナラス是等ノ事實再三再四具ニ開申シタルヲ採用セス知義カ虛妄ノ供述ヲ信シ無罪ヲ有罪トサレ且被告ハ毆打創傷ノ犯罪ニ依リ拘留サレ未タ判決ヲ受サル内本案被告事件ノ審問ヲ受クルニ至リ二罪俱發ノ場合ニ遭ヘリ而シテ毆打創傷ノ罪ヲ以テ既ニ重禁錮一月ニ處セラレタルハ本案事件ノ罪ハ自ラ消滅ニ飯シタルモノト思考セリ個ハ刑法第百條二罪俱發ノ規定ニ依ラレ毆打罪ヲ重トシテ罰セラレタル者ナルヘケレハナリ然ルヲ再ヒ私書増減變換ノ罪名ヲ附シ収監セラレ終ニ刑ニ處セラレタルハ事實ヲ誤リ隨テ無罪ヲ有罪トサレタル擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百十條第九項十項ニ依リ破毀ヲ求ムト云ニアリ

對手人檢事補加藤秀男ハ上告ノ不當ナルヲ論駁シ原裁判相當ナリト答辯セリ  
大審院於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽審按スルニ上告ノ理由ハ原裁判所ハ被告カ陳供スル事實ヲ採ラスシテ虛妄ノ片言ヲ信シ且既ニ本案事件ハ毆打創傷事件ノ判決ニ依リ消滅ニ歸シタルヲ以テ無罪タルヘキナ更ニ刑ニ處セラレタルハ事實ヲ誤リ擬律錯誤アル不當ノ裁判ナリト云ニアレトモ抑モ本件事實如何ニ付テノ論告ハ治罪法第四百十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書証據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアルヲ以テ破毀ヲ要ムル原由ト爲ヌヲ得ヌ又二罪俱發所斷ノ規定ニ依リ本

案ノ事件ハ消滅ニ歸シタルナラントノ点モ決シテ然ラス其毆打罪ノ判決前糞ニ犯シタル本案事件起リタルモ未ダ公訴アラサル前ニ於テ毆打罪ノ判決ナシ本件ハ追テ公訴ノ末別ニ判決ナシタルモノナレハ二罪俱發ノ場合ヲ以所斷シタルニアラス況ヤ本件ニ付毆打罪ノ刑期日數ヲ控除シアルニ於テヤ事實理由ニ齟齬アリ擬律錯誤ノ裁判ト云フヲ得ス治罪法第四百十條各項目外ニ渉ル訴旨ナルヲ以テ上告ノ趣旨相立サルモノトス其他勸解出願ノ代理ニ付テノ論辯ハ本件ニ影響ヲ及ホサルヲ以テ別ニ辯明ヲ與フルヲ要セズ右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却スルモノナリ

第二千四百四十五號

○判文(私書偽造)明治十六年五月廿四日上告  
十七年六月廿六日發付

埼玉縣武藏國旆羅郡玉井村

百六十三番地平民農

富田 龜太郎

明治十六年五月

二十八年

明治十六年五月八日浦和輕罪裁判所熊谷支廳於テ被告龜太郎カ私書變造并證券印稅規則違犯事件ヲ審理シ刑法第二百十條第二百十二條ニ依リ重禁錮四月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ監視六月ニ附シ尙ホ明治七年第八十一號公布證券印稅規則第二則第一條第三類及第四則第一條ニ照シ脫稅高十倍ノ科料金五錢ニ處ストノ裁判言渡ヲ不法トナシ被告龜太郎カ上告セシ

要領ハ原裁判所カ採テ證據トセラレタル富田タカ及秋谷平吾等ノ陳述ノ如キハ證據トスルノ効ナキノミナラス本件ニ必要ナル變造ト認メラレシ證書ノ鑑定ヲ請フモ遂ニ許容セラレズシテ刑ヲ言渡サレシハ不服ナリト云フニ在リ對手人檢事補高橋良榮ハ上告旨趣ノ理由ナキヲ述ヘ原裁判違法ノ廉ナシト答辯セリ

大審院於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事池上三郎ハ本件被告ノ上告趣旨ハ其理由ナキヲ以テ棄却アラントシ望ムト雖モ原裁判官カ認定セシ事實ニ因レハ私書變造ノ罪ト詐欺取財未遂ノ罪ヲ構造シタルモノナルニ刑法第三百九十九條第三百九十七條等ヲ適用セサリシハ擬律ニ錯誤アル裁判ナルヲ以テ附帶上告ヲ爲シ破毀ヲ求ムト因テ審按スルニ被告カ上告趣旨ハ原判官カ職權ヲ以テ爲シタル採證ノ如何ヲ論難スルニ過キス鑑定人ノ如キモ公判始末ヲ閱スルニ辯護人カ強テ之レヲ請求セサル旨申立其請求ヲ拋棄シタルモノニテ毫モ治罪法第四百十條各項目ニ適合スルノ原由ナケレハ該上告ハ之ヲ棄却スト雖モ原判文ヲ檢スルニ平吉ヨリ朽木六束云々ト記シタル證書ヲ受取リタルニ木ト六ノ字ノ間餘地アルヲ奇貨トシ之レニ百ノ字ヲ插入シ明治十五年十二月中右變造ノ證書ヲ以テ熊谷治安裁判所へ薪代金催促ノ勸解願出タルヲ明確云々トアリテ此事實ニ據レハ被告カ所爲ハ私證書變造行使ノ罪ト詐欺取財未遂ノ罪ト俱發セシモノナルニ單ニ刑法第二百十條第二百十二條ニ依リ處斷シタルハ即チ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリトス因テ本案私書變造ニ係ル裁判ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ則リ直チニ判決スルヲ左ノ如シ

富田 龜太郎

右ノ理由ナルヲ以テ被告事實ハ原裁判所カ確認セシ所ニ據リ刑法第二百十條第二百十二條  
第三百九十條第三百九十七條第三百九十四條及第百條ニ依照シ一ノ重キ同法第  
二百十條云々重禁錮四月以上四年以下罰金四圓以上四十圓以下ノ刑期範圍ニ於テ重禁錮四  
月罰金四圓ニ處斷シ仍ホ同第二百十二條ニ依リ六月ノ監視ニ付ス  
但變造ニ係ル證書壹葉ハ刑法第四十三條第一項ニ照シ沒収ス  
第二千四百四十六號

○判文(無免許醫業)明治十七年一月十二日上告  
同 年六月廿六日發付

大坂府西區新町南通四丁目

九番地平民按摩業

玉井久兵衛

明治十六年十二月

五十二年十二月生

右久兵衛カ被告事件ニ付明治十六年十二月五日大坂輕罪裁判所ニ於テ被告ハ醫術開業ノ免  
許ヲ得サル者ナルニ明治十五年四月以來私ニ醫業ヲ爲シ明治十六年九月中モ大坂府西區新  
町通り三丁目大戸佐兵衛娘「サト」ノ病氣ヲ診察シテ藥劑ヲ投與シタルノ罪アルモノト認メ  
刑法第二百五十六條ニ依リ五十圓ノ罰金ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル藥品器具ハ同第四十三  
條第四十四條ニ依リ沒収スト言渡タリ被告玉井久兵衛ハ右ノ裁判ヲ不服ナリトシ上告ヲ爲  
シタルノ要領ハ被告ニ於テハ從來按摩業ヲ以テ貧困ノ生活ヲナシ藥店ヨリ葛根湯ト唱ヘル

藥劑ヲ買求メ家屬共ノ感冒症ニ用ヒ居候迄ニシテ敢テ醫業ヲ爲シタルニアラス大戸佐兵衛  
娘「サト」ハ藥劑ヲ投與シタルモ診察ヲ爲シ藥劑ヲ投シタルニアラス熱氣甚シク様見受該風  
藥ヲ相用ヒナハ發汗致シ熱氣去ルヘシト懇親上無代價ニシテ施用シタル迄ニシテ素ヨリ利  
益ヲ要シ醫師ノ行爲ヲナシタルニアラス又無學文盲ニシテ醫業ヲ爲シ得ヘキ資格ヲモ有セ  
サレハ道理上推測ヲ爲スモ醫業ヲ爲シタルニアラサルヲ知ルヘキナリ其風藥ヲ投與シタ  
ルハ法律ノ何タルヲ知ラス眞ニ失過ニ出タルモノナレハ處罰ヲ受ク可キモノニアラス若シ  
之ヲ罰スルモノトスレハ情狀ヲ酌量シ減輕ノ處罰アルヘキモノナルニ原裁判ノ然ラサルハ  
不當ナリト云フニ在リ

原裁判所檢事補御座中治ハ上告ノ論旨ハ事實判定ノ當否ト酌量減輕ノ處分ナキヲ非難スル  
ニ止マリ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ之ヲ判決スル左ノ如シ

按スルニ被告玉井久兵衛カ上告ノ旨趣ハ私ニ醫業ヲ爲シタルニアラス從來被告ハ無學文盲  
ニシテ醫業ヲ爲シ得ヘキノ資格ヲ有セサル者ニ付道理上ヨリ推測スルモ醫業ヲ爲ス能ハカ  
ルハ明瞭ナルベシ又タ懇親上藥舖ノ賣藥ナル葛根湯ヲ大戸佐兵衛娘「サト」ハ無代價ニテ與ヘ  
タルマテナレハ之ヲ罰スルモノトスルモ酌量減輕ノ情狀アル者ナルニ原裁判爰ニ出テサルハ不  
當ナリト云フニアルモ其果シテ被告ノ云フ如クナルヤ否ヤノ事實ヲ判定シ且ツ罰金ノ多寡  
ヲ定ムルハ事實承審官ノ特有權ニシテ何人ト雖其職權内ニ侵入シ非議論難スルヲ得サルノ  
ミナラス上告ヲ爲シ得ヘキ項目ヲ定メタル治罪法第四百十條ノ明文ニ適當ナラサル論告ナ

レハ以テ上告ノ理由ト做スヲ得サルモノトス  
仍テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本案上告ヲ棄却スル者也

第二千四百四十七號

○判文〔私營營業〕明治十六年十一月八日上告  
同 十七年六月廿六日發付

埼玉縣武藏國兒玉郡鶴森村

寄留茨城縣平民

關 忠 平

明治十六年十月  
三十八年五ヶ月

明治十六年十月十九日浦和輕罪裁判所熊谷支廳ニ於テ右忠平カ私ニ營業ヲ爲シタル被告事  
件ヲ審判シ刑法第二百五十六條ニ依リ罰金四十圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告忠平  
ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ノ行爲タル醫學學生ニシテ病院長ノ命ヲ受ケ診察又ハ調藥シ  
タルモノナルヲ以テ之ヲ私ニ營業ヲ爲シタルモノト謂フヘカラス且ツ最初本庄警察署ニ於  
テ爲シタル白狀ハ誤認ニ出テタルナリ證人早野卯之吉外二名ノ陳述ハ被告カ有罪ナルヲ證  
スルニ足ラス然ルニ原裁判官ハ刑法第二百五十六條ニ依リ被告ヲ刑ニ處シタルハ不法ナリ  
ト云フニ在リ同裁判所檢事補高橋良榮ハ原裁判至當ナリト答辯セリ  
玆ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ判決スルヲ左ノ如シ  
上告ノ論旨ハ之レヲ要スルニ法律上原裁判官ニ任從スル處ヲ探證及ヒ事實認定上ニ對シ之

レカ當否ヲ論難シ以テ不服ヲ訴フルニ過ギオシテ更ニ治罪法第四百十條各項ニ適應スル破  
毀ノ理由ナキニ依リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之レヲ棄却スル者也

第二千四百四十八號

○判文〔誹毀〕明治十六年十二月三日上告  
同 十七年六月廿六日發付

長野縣信濃國小縣郡上田町

居住士族

村 上 義 道

明治十六年十一月  
三十一年六ヶ月

右村上義道カ被告事件ニ對シ明治十六年十一月六日廣島輕罪裁判所尾道支廳於テ被告ハ眞  
宗ノ祖師親鸞ヲ淫亂ナリ又眞宗徒ハ國賊ナリ等公然ノ演說ヲ以テ誹毀シタルモノニテ其僧  
徒ノ告訴ニ係ルモノト認定シ親鸞ヲ誹毀シタルハ其親族ノ告訴ニアラサルヲ以テ刑法第三  
百六十一條ニ依リ其罪ヲ論セス僧徒ヲ誹毀シタルハ刑法第三百五十八條ニ依リ一月ノ重禁  
錮ニ處シ十五圓ノ罰金ヲ附加スル者也ト言渡シタル裁判ニ服セス被告村上義道ハ上告ヲ爲  
シタリ其趣意及辨明書ノ要領ハ原裁判官カ證據法ノ原則ニ悖リ被告事件ノ模様ニ因リ有罪  
ノ推測ヲ以テ事實ヲ認定スルノ資料トセラレタルモノナリ被告ハ眞宗僧徒ヲ國賊ト指シタ  
ルモノニアラス其國賊ト指シタルハ比較ノ語ニ用ヒ眞宗ハ神道ト道ヲ比フルキハ國賊ト云  
フヘキモノニシテ彼ノ彌陀ノ金言トモ云フ極重惡人無他方便云々斯ノ如キ教旨ヲ奉スルモ

ノコソ國賊トモ云フヘシト説キタルモノニテ其証據物件トスルモノハ清水坊相之進外一名トノ間ニ往復シタル三回ノ書翰ニモ神道ニ眞宗ヲ比シタル大意ヲ示シタルニアリテ眞宗僧徒ノ現行ヲ指シタルモノニ非サルハ証スルニ足レリ而シテ其証人タル四名ハ眞宗熱心ノ者ニテ口頭一轍ニ出テ、盡ク有罪ヲ証言シ被告カ差出シタル証人五名ハ被告ト意ヲ同クシ孰レカ信スヘカラス殊ニ林松翠ノ如キハ説教ノ當夜ヨリ主トシテ談判セシ者ニシテ被告ヲ敵視スル眞宗ノ信徒ナレハ彼等ノ陳述ハ採証ノ一部ト爲スヘキモノニアラス然ルヲ誹毀ノ有罪者ト認定シタルハ治罪法第四百十六條第一項ニ悖リタリト云フヘシ假リニ僧徒ヲ指シテ國賊ナリト明言セシトスルモ告訴者井上義讓外二名ハ未タ曾テ何寺ノ住職タルヲ聞カサルノミナラス信徒惣代トアレハ是等ハ被害者ニアラス其被害者ニアラサル告訴ヲ受理スルハ法律ニ背キタルモノナリ又僧徒ヲ指シ國賊ナリト云フモ惡事醜行ヲ適發シタルニアラス眞宗僧徒公衆ニ對スルモノニシテ一己ノ姓名ヲ指示セルモノト大ニ異ナリ公衆ニ對スル誹毀ノ如キハ未タ法律ニ正條アルヲ見サレハ法律ノ罰スルヲ得サルモノト云フヘシ本件ノ如キハ只眞宗ノ教旨中ノ部分ヲ指シテ國賊ト論シタルモノナレハ其害ヲ被ムルハ未タ如何ナル者ナルヤヲ知ルヘカラス之レ間接ノ所爲ニテ刑法第三百五十八條ニ該當スヘキモノニアラス然ルヲ原裁判官ハ其權限ヲ越ヘ認定セシモノナレハ到底刑法第三百六十一條ニ相當スル被害者ノ在ラサレハ治罪法第四百十條第五第十項ニ因リ上告ノ原由アルヲ以テ原裁判ヲ破毀シ相當ノ裁判ヲ望ムト云フニアリ原裁判所檢事補村田繼述ハ被告ノ上告趣旨ハ其理由ナキ者ニ付棄却アルヘキモノト答辯セリ

大審院於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ被告カ上告ハ其原由ナキモ仮リニ眞宗僧徒ヲ指シ國賊ナリト明言シタリトスルニ刑法第三百五十八條ヲ適用シタルハ不當ナリト云フ論旨ニ至ツテハ其理アリトス抑被告カ眞宗僧徒ハ國賊ナリト公然演説ナシタルハ原裁判官カ認定シタル事實ニ因リ明瞭ナルモ畢竟該所爲ハ公然人ヲ罵詈シタルモノニシテ刑法第四百二十六條第十二項ニ據リ處斷スヘキヲ原裁判官ニ出テス刑法第三百五十八條ヲ適用シタルハ上告旨趣ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ本院於テ原裁判ノ一部ヲ破毀シ至當ノ裁判ヲ望ムト附帶ノ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

上告旨趣ニ依リ本件訴訟書類ヲ監査スルニ告訴者ノ内井上義讓外二名ハ僧徒ニアラスト雖モ田坂貫針外六名カ僧徒ニシテ適當ノ告訴者タル以上被害者ニアラサル者ノ告訴ヲ受理シタルモノトナシ破毀ノ原由トナスヲ得ス其他原裁判官カ事實ノ認定証憑ノ採擇ニ對シ喋々論訴スルノ點ハ原裁判官ノ特有スル職權ヲ非難シ不服ヲ鳴ラスニ過キサレハ上告ノ原由トナスヲ得ス而シテ僧徒ニ對シ國賊ナリト明言シタリトスルニ上告論旨及附帶上告旨趣ノ如ク被告ハ人ノ行爲ニ對シ惡事醜行ヲ摘發シ誹毀シタルニアラス只公然眞宗僧徒ハ國賊ナリト罵詈シタルニアレハ刑法第四百二十六條第十二項ヲ適用スヘキ犯罪ナルニ原裁判官ニ出テス同法第三百五十八條ヲ適用シ處斷シタルハ擬律ノ錯誤アル不當ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百三十一條ニ則リ原裁判中上告ニ係ル部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス左ノ如シ

原裁判所カ認定シタル事實ニ據リ被告ハ眞宗僧徒ヲ罵詈シタルヲ明瞭ナリトス依テ之ヲ法律ニ照スニ刑法第四百二十六條左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ストアル其第十二項ニ依リ科料金一圓五十錢ニ處ス

第二百四十九號

○判文(毆打致死) 明治十六年十二月十三日上告  
同 十七年六月廿六日發付

長崎縣肥前國北松浦郡中野

村士族農

寶龜菅太郎

明治十六年十一月

二十年四ヶ月

右菅太郎カ被告事件ニ付明治十六年十一月十四日長崎重罪裁判所カ毆打致死ノ罪アリト認メ刑法第二百九十九條同第三百五條同第八十一條ニ依リ重禁錮五年ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス菅太郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ハ被害者惣兵衛ヲ毆殺セシメナク檢察官ノ擧ケラレタル証據物件ハ惣兵衛ヲ毆殺セラレシヲ証スルニ充分ナルモ被告ノ所爲ナルヲ徵スヘキナシ共犯人吉次郎ノ供述アルモ個ハ同人カ自己ノ罪ヲ免カレン爲メノ精神ニ出テ且被告カ惣兵衛ヲ毆チシ目撃セシニモアラサレハ之ヲ以テ証ト爲スニ足ラス而シテ毆打ノ用ニ供シタル薪ハ二本ニシテ一本ハ吉次郎所持シ一本ハ惣兵衛所持セシ者ナレハ被告ハ

毆殺セシニアラサルヲ知ルヘキニ原裁判所ニ於テ是等ノ審理ヲ盡サスシテ推測ノ裁判ヲ下シタルハ不當ナルヲ以テ之レカ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人檢事河野通倫ハ被告カ上告ノ趣旨ハ事實ノ認定ニ非難ヲ容ル、ニ止マリ上告ノ理由アラサル旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告ノ論旨タルヤ徒ニ原裁判官カ判定セシ事實上ニ立入り其裁判ヲ非難スルニ過キサレハ治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ至ル項目ニ適當セサルヲ以テ上告ノ原由ナキ者トス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第二百五十號

○判文(強盜) 明治十六年六月十三日上告  
同 十七年六月廿六日發付

岡山縣備前國磐梨郡下村平民

海山三代吉

明治十六年五月

二十二歲三月生

明治十六年五月十五日岡山重罪裁判所ニ於テ右海山三代吉カ被告事件ヲ審判シ強盜及ヒ氏名住所詐稱ノ罪アリトシ一ノ重キ二人以上兇器ヲ携帯シ強盜ヲ爲シタル罪ヲ論シ刑法第三百七十八條第三百七十九條ニ依リ本刑ニ二等ヲ加ヘ有期徒刑十二年ニ處スト言渡シタル裁

判ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ其要領被告人ハ氏名詐稱ノ罪ヲ犯シタルモ強盜ヲ犯シタル者ニ非ス被害者中谷空次郎宅へ押入り強盜ヲ爲シタルハ福田關右衛門及ヒ茂吉重吉ノ三名ニシテ被告人ノ關知スル所ニ非ス其贓物ト認メラレタル衣類ハ關右衛門等ト博奕ヲ爲シ勝金ノ代リニ受取リタル者ナリ然ルニ強盜ノ罪ニ處セラレシハ不當ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ上告代理人松島宗次郎ハ上告趣意ヲ擴張シ原判文ニ舉示シタル各証人被害者ノ陳述ハ被告人カ強盜ヲ爲シタリト確認ス可キ證言ト爲スニ足ラス然ルニ之ヲ以テ犯罪ノ證據トセラレシハ不法ナリ又檢察官ハ強盜罪ノ公訴ヲ爲シタルニ其公訴外ニ係ル氏名詐稱ノ罪ヲ論シ二罪ト爲シタルハ請求ヲ受ケサル事件ヲ判決シタルモノナリトノ旨ヲ辨明シ檢事加納久宜ハ上告趣意及ヒ被告人ノ擴張論旨共ニ不當ナルヲ以テ棄却ノ言渡シアラソト望ムト陳述セリ依テ判決ヲ爲ス可左ノ如シ

上告ノ趣意ハ單ニ強盜ヲ犯シタル所爲ナシト陳辨シ裁判官ノ職權ヲ以テ判決シタル事實ノ當否ヲ論難スルニ過キスシテ上告ノ原由ト爲ス可ト得サルモノトス而シテ被告人ハ犯罪ノ證據充分ナラス及ヒ訴ヲ受ケサル事件ヲ判決シタリト論告スルモ諸般ノ證據ハ裁判官カ心證ヲ作ルノ材料ニ供スルモノナレハ必ス何等ノ罪ヲ犯シタリト明言スルニ非サレハ證據ト爲ス可ト得ストスルノ理由ナシ本按事件ノ如キハ各證人及ヒ被害者ノ陳述等ニヨリ被告人ハ黨類二名ト兇器ヲ携ヘ強盜ヲ爲シ且捕縛ノ際巡查ニ對シ住所氏名ヲ詐稱セシ罪アリト認定シタルモノニシテ其氏名詐稱ノ所爲ハ本按附帶ノ犯罪ナルヲ以テ公訴ナシト雖モ併セテ之ヲ論決セサルヘカラサルモノナレハ訴ヲ受ケサル事件ヲ判決スト謂フ可ト得ス又犯罪ノ

證據充分ナラスト謂フ可ト得サルナリ故ニ原裁判ハ毫モ法律ニ違背スルノ點アルニ非スシテ上告ノ旨趣總テ相立タサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本按上告ヲ棄却スルモノ也

第二千五百五十一號

○判文(強盜) 明治十六年六月十九日上告  
同 十七年六月廿六日發付

大阪府攝津國西成郡難波村  
平民傘職

西村竹造

明治十六年五月  
三十四年

明治十六年五月三十一日兵庫重罪裁判所ニ於テ右西村竹造カ強盜被告事件ヲ審判シ新舊ノ法ヲ比照シ新法ノ輕キニ從ヒ刑法第三百七十八條ニ依リ同第三百七十九條ニ照シ本刑ニ二等ヲ加ヘ有期徒刑十四年ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人ハ上告ヲ爲シ趣意書及ヒ辨明書ヲ提出シタリ其要領被告人ハ強盜ノ所爲アルコトヲ從テ犯罪ノ証憑ナキニ唯模樣ト推測ニ依リ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律ノ錯誤ナリ且公判廷ニ於テ無罪ヲ証明センタメ証人喚問ヲ請願セシモ之ヲ棄却セラレタルハ越權ノ處分ナリ又本案公判ノ裁判ヲ爲シタル裁判官ハ曩キニ會議局ニ於テ豫審終結ノ言渡ニ對スル故障ヲ判決シタル裁判官ト同一ナルヲ以テ治罪法ニ從ヒ忌避ノ申立ヲ爲シタルニ之ヲ採用セラレスシテ直チニ裁判言渡ヲ爲シタル

ハ不法ノ甚シキモノニシテ服従スルヲ能ハスト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ上告代言人野出鎬三郎ハ上告ノ旨趣ヲ擴張シ第一會議局ニ於テ故障ノ判決ヲ爲シタル裁判官ニシテ其公判ノ裁判ヲ爲シタルハ即チ法律ニ於テ無効ノ記載アル規則ニ背キタルモノナリ第二原判文ニ被害者及ヒ共犯人三名ノ調書ヲ以テ證據トセラレシモ公判始末書ニ依ルニ共犯人上本辰藏一人ノ調書ヲ朗讀セシメタルノミニシテ他ノ共犯被害者ノ調書ヲ朗讀セシコナシ已ニ公判廷ニ提出セサル調書ヲ掲載シテ犯罪ノ証ト爲シタルハ越權ノ處分ナリト辨論シ檢事林三介ハ代言人カ論告セシ第一ノ旨趣正當ナルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ請求スト陳述セリ依テ判決ヲ爲スト左ノ如シ

本案訴訟書類ヲ審閱スルニ被告人ハ曩キニ神戸輕罪裁判所ノ豫審終結言渡ニ對シ故障ノ申立ヲ爲シタルニ同裁判所會議局ニ於テ判事赤堀義民判事補山口重夫水越成章三名ニテ之ヲ判決シ豫審判事カ兵庫重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ認可シタリ而シテ重罪公判ヲ開クニ及フヤ亦前同一ノ裁判官判事赤堀義民判事補山口重夫水越成章三名本案ノ裁判言渡ヲ爲シタルモノナレハ治罪法第四十七條ニ豫審ヲ爲シタル裁判官ハ其公判ニ干預ス可カラストアルニ違背シ即チ同條ノ明文ニ從ヒ原裁判ハ其言渡ノ効ナキモノニシテ上告ノ旨趣正當ナリトス已ニ無効ノ裁判ナルニ因リ其他上告論旨ノ當否ハ一々之ヲ辨明スルヲ要セサルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ被告事件ヲ大阪重罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

第二千五百五十二號

○判文(竊盜)明治十六年十二月廿八日上告  
同十七年六月廿六日發付

岐阜縣美濃國中島郡城屋敷  
村平民農業

河合 藤三郎

明治十六年十二月

三十四年三月

右藤三郎カ被告事件ニ對シ明治十六年十二月十二日岐阜輕罪裁判所於テ被告ハ明治十六年七月以來河合清作外二名ト他人所有ノ畑ニアル西瓜甘藷等及ヒ竹三本ヲ竊取シタルモノト判定シ刑法第三百七十二條第三百七十六條ニ照シ重禁錮一月十日監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不法トシ原裁判所檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ他人所有ノ畑ニアル西瓜甘藷等ヲ竊取シタル所爲ハ刑法第三百七十二條ニ該當スル竹三本ヲ竊取シタルハ其植物培養ノ爲メ設ケ置タル竹籬ニテ既ニ所有主カ勞力ヲ用ヒ一時安意ヲ以テ貯蓄シタルモノ、如キハ假令田野ニアルト雖モ之ヲ竊取シタル者ハ刑法第三百六十六條ヲ適用スヘキナ原裁判玆ニ出テサルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアレモ原判文ニ伊藤安右衛門所有畑ニ於テ竹三本ヲ大審院於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ旨趣タル被告カ竊取シタル竹三本ハ其植物培養ノ爲メ設ケ置タル竹籬ニテ既ニ勞力ヲ用ヒ貯蓄シタルモノナレハ假令田野ニアルモ刑法第三百六十六條ニ該當スルヲ原裁判玆ニ出テサルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアレモ原判文ニ伊藤安右衛門所有畑ニ於テ竹三本ヲ



竊取シタルコトハ云々トアリテ其貯蓄シ置タルモノト見ルニ由ナシ然レハ則原裁判所カ認定シタル事實ニ對シ其當否ヲ論難スルニ過キサレハ治罪法第四百十條各項外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由トナスヲ得ス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ本案上告ヲ棄却スル者也

第二千五百五十三號

○判文(竊盜)明治十六年十二月廿八日上告  
同 十七年六月廿六日發付

兵庫縣播磨國揖西郡室津百  
八十九番屋鋪平民船乘職

濱 田 久 七

明治十六年十一月  
三十四歲四月生

右久七カ竊盜被告事件ニ付明治十六年十一月三十日神戸輕罪裁判所姫路支廳ニ於テ被告ハ明治十六年八月以來松本清太郎外數名ト共ニ瀬川利七方外四ヶ所ノ倉庫及ヒ門戶牆壁ヲ踰越損壞シ忍入リ衣類其他雜品若干ヲ竊取シタルモノトシ刑法第三百六十八條第三百六十七條第三百六十九條第三百七十六條第百條ニ依リ所犯情狀ノ重キ高岡四郎平方ニ忍入リ物品ヲ竊取シタル罪ニ從ヒ仍ホ再犯ナルヲ以テ同第九十二條第七十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ重禁錮七年ニ處シ監視二年ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス被告久七ハ上告ヲナシタリ其要領タル被告ハ當時監視執行ニシテ時々警察署ヘ出頭セサルヲ得サル身ナレハ遠方ニ到リ竊盜ヲナスヘキ違ナキハ勿論會テ松本清太郎等ト共ニ乘船セシコトナシ然ルニ明治十六年九

月中右清太郎ヨリ衣類質入ノ依頼アリ盜品トモ知ラス松本「シラ」ナル者ヲ以テ之ヲ質入ニナシ遣ハシタル後チ盜品タルコト知リタルカ爲メ其處分方チ「シラ」ヘ談シ置タルコトアルマテナルニ原裁判所ハ右清太郎等ノ誣告又ハ先キニ警察署ニ於テ拷責ニ逢ヒ無實ノ申立ヲナシタル調書等ヲ偏信シ且ツ請求シタル証人ノ喚問モナサス處斷セラレタルハ不服ナリト云フニ外ナラス原裁判所檢事補宮地直親ハ原裁判ハ允當ニシテ被告ノ上告ハ其理由ナキヲ以テ速ニ棄却アレンコトヲ望ム旨答辨セリ

爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ判決スル左ノ如シ  
被告カ上告旨趣中証人喚問セサルコトニ付論告スル所アリト雖モ當時之カ爲メ故障ノ申立ヲナシタルニモアラサレハ之ヲ以テ直チニ上告ノ原由トナシ得ヘキニアラス其他ハ皆法律上特ニ裁判官ニ任從スル處ノ權内ニ立入り探証及ヒ事實ノ判定ヲ非難シ覆審ヲ求ムルニ過キスシテ一モ治罪法第四百十條ニ規定シタル各項目ニ適合スルモノアルニアラサレハ到底上告ノ原由ナキモノトス因テ同第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

第二千五百五十四號

○判文(竊盜)明治十七年一月廿二日上告  
同 年六月廿六日發付

茨城縣常陸國西茨城郡小勝  
村平民

塙 恭 介

明治十六年十二月

二十九年

右恭介カ被告事件ニ付明治十六年十二月六日水戸輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年一月三十一日磯濱村字祝町妓樓鹿島屋方ヘ登リ遊興ヲナシタル末同家出稼娼妓若春ノ鏡瓶ヲ取出シ同年三四月頃富田三右衛門ヘ賣渡シタルモノト認メ刑法第三百六十六條ニ依リ同第三百七十六條ニ照シ重禁錮二月ニ處シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス被告塙恭介カ上告ヲ爲シタル旨趣ハ被告カ貸座敷ニ於テ娼妓ヲ聘シ遊興ノ末娼妓カ使用シ居タル鏡瓶ヲ貸シ吳レヨト戯言ヲ爲セシニ娼妓ニ於テ承諾ヲ爲シタルハ之ヲ携ヘテ歸宅ナシタルモ素ヨリ之ヲ返却スルノ心底ナリ然ルニ再行ノ機會ナク數日ヲ經過シタルモ這ハ必竟戲レノ所爲ニシテ元來惡意ニ出タルニアラス又該鏡瓶ヲ賣却シタルニアラス何心ナク貸與シタルモノナレハ刑法第七十七條ニ依テ處分セラレヘキヲ有心故造ノ竊盜犯ナリト斷定セラレタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ原裁判所檢事補井伊忠次郎ハ被告カ上告ノ趣旨ト爲ス所ハ事實ノ判定ニ不服ヲ唱フニ過キスシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決ヲ爲スノ左ノ如シ  
 按スルニ本案上告ノ主旨ト爲ス處ハ敢テ鏡瓶一個ヲ竊盜ナスノ惡意アルニアラス全ク戲謔ノ所爲ニ出テ素ヨリ之ヲ返還スルノ心底ナルモ爾後再行ノ機會ヲ得ス等閑ニ付シタルモノ、如ク陳辯シ又該鏡瓶ヲ賣却シタルニアラス何心ナク貸與ヘタリト云フニ在ルモ皆是事實承審官ニ於テ其心証ニ採ル所アツテ戲謔ノ所爲ニアラス返還スルノ心底ナキモノト認メ又貸與ヘタルニアラス賣渡シタルモノト判定ナシタルヤ固ヨリ其特有權ナレハ之ヲ論争ス

ルモ到底其効ナキモノニシテ治罪法第四百十條ニ定メタル各項目外ニ涉ル訴旨ナレハ上告ノ理由ナキモノトス

第二千五百五十五號

○判文(竊盜)同 明治十七年一月廿二日上告  
 年六月廿六日發付

兵庫縣播磨國宍粟郡田井村

森 本 力 藏

明治十六年十二月三十七年三月生

右力藏カ被告事件ニ付明治十六年十二月十八日神戸輕罪裁判所姫路支廳ニ於テ被告ハ明治十六年十一月十日十二日ノ兩日ニ同村內山磯吉外七名ノ各田畑地ニ干置アル稻若干宛ヲ竊取シタル數度ノ所爲ハ何レモ所有者カ已ニ工力ヲ用ヒ製造ニ着手セシ財物ヲ竊取シタル罪アルモノト認メ刑法第三百六十六條ニ依リ數罪俱發例ニ從ヒ其所犯情狀ノ重キ山本貞藏カ稻ヲ竊取シタル罪ニ依リ重禁錮三月ニ處シ尙ホ刑法第三百七十六條ニ照シテ監視六月ヲ附スト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ原裁判所檢事補小西甚平ハ上告ヲ爲シタル其要旨ハ被告カ竊取セル所ノ稻ハ既ニ芟取リ棹ニ掛ケ乾燥セシモノニシテ根ヲ有シ生育セル儘ニハアラサルモ其収獲ヲ終リテ田面耕地ヲ離レ他所ニ運搬シ倉庫家屋等ニ積集儲藏セルモノニアラス依然トシテ其田野ニアル穀類ニ係ルヲ以テ刑法第三百七十二條ヲ當行スヘキ犯罪ナルニ

原裁判茲ニ出テス第三百六十六條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ對手人被告森本力藏ハ原裁判ノ認定スル處毫モ相違ナキ旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ本件被告カ竊取シタル稻ハ既ニ竊取タルモ未ダ収獲ノ功ヲ畢ヘスシテ尙ホ人ノ看守ナキ田野ニ乾燥シアレハ其竊取タルト否トヲ問ハス即チ刑法第三百七十二條ノ制裁ニ從フヘキモノニシテ彼ノ田野阡陌中ノ成熟シタル穀類ヲ竊取シタルノ犯情ト其權衡ノ輕重ヲナス所アルニアラサレハ原裁判ニ所有者カ已ニ功力ヲ用ヒ製造ニ着手セシ財物ナリトシテ刑法第三百六十六條ニ問擬シタルハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニシテ即チ治罪法第四百十條第十項ニ該當シタル不當ノ裁判ナリト判定ス仍テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ直ニ裁判ヲ爲ス左ノ如シ

森 本 力 藏

右力藏カ被告事件ニ對シ原裁判ニ認メタル事實ニ據リ刑法第三百七十二條ヲ適用シ數罪俱發例ニ從ヒ情狀最モ重キ山本貞藏カ稻ヲ竊取シタル罪ニ依リ一年以上以下ノ範圍ニ於テ重禁錮二月ニ處シ尙ホ刑法第三百七十六條ニ照シ六月ノ監視ニ付スルモノナリ

第二千五百五十六號

○判文〔恐喝取財〕明治十六年十二月廿七日上告  
十七年六月廿六日發付

兵庫縣丹波國氷上郡南多田

村平民

村 田 平 七

明治十六年十二月  
六十年三月

右平七カ被告事件ニ付明治十六年十二月十日篠山治安裁判所ニ開キタル神戸輕罪裁判所ニ於テ被告人ハ土田彦兵衛ナル者ト同郡多田村字東ノ小峠ニ於テ新道開墾方ノ請負ヲ爲シ居ル節谷垣捨松高見萬吉ノ牛ヲ牽キ右新道ヲ通行スルヲ咎メ未タ檢査ノ濟マサル新道ヲ自儘ニ通行セシハ云々請負ノ道路ヲ踏荒シタルヲ以テ元ノ如ク繕フヘキ等恐喝シテ捨松高見ヨリ金貳拾錢ヲ騙取セシモノト判定シ刑法第三百九十四條同第三百九十四條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ仍ホ六月間ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人カ上告爲シタル要領ハ元來萬吉カ上告者ヲ土田彦兵衛ノ共犯ナリトノ申立ハ上告者ヲ陷害セシメント欲シ僞證ヲ爲シタルモノナリ然ルチ原裁判官ハ之ヲ信シテ上告者ニ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアリ同裁判所檢察官ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナシト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事加納久宜ハ上告ノ理由ナキ旨答辨シ而シテ附帶上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ原裁判所カ認メタル事實ニ據レハ被告等ハ新道開設普請中谷垣捨松高見萬吉等牛ヲ牽キ該新道ヲ通行スルヲ咎メ未タ檢査ノ濟マサル所チ自儘ニ通行シテ道路ヲ踏荒シタルヲ以テ元ノ如ク繕フヘキ旨談判シ金貳拾錢ヲ取リタルモノナレハ則其所爲民事ニ屬シ現ニ其損壞セラレシ道路ノ回復ヲ求メ雙方協議上金貳拾錢ヲ授受シ和解セシ

モノニテ毫モ恐喝取財ノ事實ヲ備ヘサルモノ、如シ然ルニ原裁判ハ恐喝又ハ騙取等ノ數文字ヲ揭ケテ其罪アリト斷定セシハ事實ト法律ノ理由ニ齟齬アル裁判ト云ハサルヲ得ス依テ之ヲ破毀シ更ラニ他ノ同等裁判所ニ移サレシコト望ムト云フニアリ因テ判決スルコト左ノ如シ

本案上告ノ旨趣タル原裁判官ハ被害者ノ偽證ヲ偏信シテ刑ノ言渡ヲ爲シタリト云フニアレ  
ト原書類中之ヲ偽證ト見ルヘキ証左ナキノミナラス証憑ノ採擇ハ原裁判官ニ任スル所ノ職權ナレハ之レカ當否ヲ論シ以テ上告ノ原由ト爲スコトヲ得ス因テ該上告ハ之ヲ棄却ス而シテ  
本院檢事附帶上告ノ旨趣ヲ審按シ原裁判言渡書ヲ閱スルニ被告ハ請負ノ道路ヲ踏荒サレタルヨリ之カ回復ヲ求メタル末金錢ヲ受取リタルニアレハ則チ双方ノ和解ニ出テタルコト明ラ  
カニシテ其性質民事ニ止ルヘキモノナリ然ルニ原裁判所於テ之ヲ恐喝又騙取等ノ罪アリト  
斷定セシハ附帶上告旨趣ノ如ク事實ト法律ノ理由ニ齟齬アル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪  
法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ更ラニ審理セシムル爲メ之ヲ大坂輕罪  
裁判所ニ移スモノ也

第二千五百五十七號

○判文〔恐喝取財〕明治十七年一月十日上告  
年六月廿六日發付

島根縣出雲國大原加茂中村

平民清酒受賣業

長井要藏

明治十六年十二月

四十九年

右要藏カ被告事件ニ付松江輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年十月廿一日植田柳右衛門等  
ト共謀シ渡邊熊市等ヲ恐喝シ金員及ヒ証書ヲ騙取セシモノト認メ刑法第三百九十九條ニ依リ  
一年ノ重禁錮ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ同第三百九十四條ニ照シ二年ノ監視ニ付スト言渡ク  
ル裁判ニ服セス被告長井要藏ハ上告ヲ爲セリ其要旨ハ元來恐喝取財ノ共謀者ハ被告ニアラ  
サルハ無論共犯人トセラレタル植田柳右衛門モ該犯罪ニ關係アルモノニアラス全ク被害者  
ノ被告并ニ柳右衛門ヲ犯人トシテ告訴セシハ過失ニ出タルモノナリ而シテ木次警察署ニ於  
テ爲シタル供述ハ苛酷ノ拷責ヲ受ケ苦痛ニ堪ヘサルヨリ無實ノ事ヲ其問フ所ニ從ヒ唯々シ  
タルノミ右犯罪ノ發起人ハ被告ニアラスシテ今岡嘉一郎ナル者主謀タリ然シテ探偵吏ナリ  
ト詐稱シ金圓ヲ詐取シタル者ハ石田民三郎ナリシコト右二名カ該犯罪ノ事實ヲ松江輕罪裁判  
所ニ自首シ現今島根縣監獄本署ヘ拘留相成タル事實乃チ該署ノ指令書ヲ以テ明瞭ナリ然レ  
ハ木次警察署ノ調書ハ拷責ニ成立タル無實ノ口供ナルハ自カテ明白ニシテ而シテ被害者渡  
邊熊市カ被告ヲ犯罪人ト思料シ告訴ヲ爲シタルノ過失ナリシ旨モ同人ヨリ差出シタル回答  
書ヲ以テ瞭然タリ必竟原裁判ハ審理不盡ニシテ被告ニ重刑ヲ科シタルハ擬律ノ錯誤ナルヲ  
以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ原裁判所檢事補井上暢達ハ上告ノ不理ヲ辨駁シテ原裁判適當  
ナル旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告ノ論旨ハ被

告ニ於テ恐喝取財ノ罪ヲ犯シタルニアラス被害者カ告訴ナシタルハ全ク人違ナルヲ被害者ノ回答書ニ據テ明白ナリト云ヒ又木次分署ニ爲シタル供述ハ強壓ヨリ成立タレハ罪証ト爲スニ足ラス且島根縣監獄本署ノ指令ニ依レハ犯罪者ハ今岡嘉一郎石田民三郎ナルヲ判然ナリト云フニ在リト雖モ回答書ハ裁判以後ニ成リ立タル証書ナレハ原裁判ニ影響ノ及ホス所ナキハ勿論無罪ノ確証トナスノ効力ナク又訊問調書ノ強壓ヨリ成立タルトノ証左ナキノミナラス島根縣監獄本署ノ指令モ被告カ無罪ヲ証シタルモノニアラス要スルニ事實承審官ノ職權内ニ侵入シ罪証ノ取捨事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ被告カ訴旨ハ一モ治罪法第四百十條ノ各項目ニ適當スヘキ原由アルニアラス仍テ上告其効ナキモノト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本按上告ヲ棄却スルモノナリ

第二千五百五十八號

○判文(詐欺取財) 明治十六年十二月六日上告  
十七年六月廿六日發付

東京府日本橋區新右衛門町  
二十一番地平野仁平方寄留  
神奈川縣平民

原 佐 十 郎

明治十六年九月  
二十六年二月生

右佐十郎カ偽造証書官印盜用被告事件豫審終結言渡ニ對スル故障ニ付明治十六年一月十五

日横濱輕罪裁判所會議局オイテ本案ハ治罪法ノ公訴期滿免除ニ依ラスシテ舊惡減免例圖ニ依リ免訴シタルモノナレハ法律ヲ誤用シタルモノニ非ストシ豫審終結言渡シテ認可シタリ原檢察官濱崎芳雄ハ之レヲ不當ナリトシ上告シテ破毀ヲ求ムル要旨ハ原判文ハ要スルニ明治十四年十二月盡日ヲ以テ期滿免除ヲ中斷スルハ治罪法第十一條ヲ適用スル場合ニ限ルト云フ其一者刑法第三條ノ明文アルヲ以テ舊惡減免例圖ニ依リテ處斷スル限リハ期滿免除ヲ中斷ス可ラスト云フ其二也是レ實ニ自家撞着ノ說ニアラスヤ抑明治十四年十二月盡日ヲ以テ期滿免除ノ經過ヲ中斷スルハ專ラ舊事犯ニ關スル法ニシテ刑法第三條ノ如キハ刑法中ニ適用ス可シト雖モ公訴ノ期滿免除即チ治罪ノ法ニ及ホス可ラス猶彼明治十五年九月十三日司法卿ノ命令セシ期滿免除ノ中斷ハ何ニ依テ前文第一ノ場合ニ而已及ホス可ク第二ノ場合ニ及ホス可ラストノ見解ヲ下シタルヤ是レ或ハ刑法第三條ヲ誤用シタルニ依ルナル可クト云フニアリ對手人被告佐十郎答辯ノ要旨第一ハ原會議局ノ言渡ハ正當適實也第二刑法第三條ニ法律ハ頒布以前ノ犯罪ニ及ホスヲ得ストノ明定法在ルアレハ決シテ司法卿ノ訓令等ヲ藉テ明治十二年ノ犯罪ニ論及スルヲ得サルハ勿論諸官省隨時事ニ就テノ指令ハ裁判上準據ス可キモノニアラス又附帶上告ノ主旨ハ本案金二十圓ノ借用証書ハ亡渡邊平七ヲ借主ト爲シ亡原宇兵衛ヲ保証人ト爲シタルモノナレハ其名下ノ偽印ハ右亡兩人ノ所爲ナルヤ將タ被告ノ所爲ナルヤ不可知然ラハ被告ハ免訴ヲ受ク可キヲ當然ナリト云ニアリ

大審院オイテ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ立會檢事被告代言人ノ陳述ヲ聽クニ檢事林三介ハ原檢察官ノ上告ハ其理アルニヨリ同意ヲ表スル旨ヲ述ヘ代言人熊谷榮藏ハ被告

ノ答辨及ヒ附帶上告旨趣ヲ擴張シタリ依テ之レヲ審接スルニ上告論旨ハ歸スル所本件被告ハ新法實施以前ノ犯罪者ニシテ明治十五年一月後發覺シタルモ公訴期滿免除ハ明治十四年十二月盡日迄經過ノ期限ヲ中斷スルヲ以テ免訴ヲ受ク可キモノニ非スト云フニアリトス是レ法律ノ見解ヲ誤リタル論告ト云ハサルヲ得ス如何トナレハ舊惡滅免例圖ニ「凡ソ犯罪年ヲ經テ發覺スルモノハ云々減等免罪スルヲ聽ス」トアレハ舊惡滅免ヲ中斷スルノ法ナケレハ所謂發覺ノ時ヨリ遡リテ經過ヲ算フルノ外ナケレハナリ本案被告ノ犯罪ハ明治十二年二月ニシテ詐欺ノ賍金二十圓以上懲役八十日之レヲ舊惡滅免例圖ニ照セハ其期限ハ三年ナリトス然シテ其犯罪明治十六年六月ニ至リ發覺セシモノナレハ例ニ依テ被告ハ全免ヲ受ク可キカ當然ナリ又上告者ハ司法卿ノ指令ヲ藉テ云々スル所アレハ該指令ハ舊惡滅免ヲ得可ラサル者ニ對スルモノニ付本案ニ適切ナラストス以上ノ理由ナルニ付原會議局カ舊惡滅免例圖ニ依リ免訴シタル豫審終結ヲ法律ノ誤用ニアラスト言渡シタルハ當然ニシテ本案上告ハ破毀ノ原由ナキモノトス

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ハ之レヲ棄却スルモノナリ

第二千五百五十九號

○判文(詐欺取財) 明治十七年六月三日再審  
年六月廿六日發付

兵庫縣播磨國印南郡伊保崎

村平民雜業

黒田常次郎

明治十六年一月

三十四歲

右常次郎カ被告事件ニ對シ明治十六年一月二十六日神戸輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年八月中伊保善五郎ト共謀シ印南郡曾根村中谷與八郎借用名義ノ証書ヲ偽造シ同郡今市村伊藤長次郎ヲ欺キ金五百圓ヲ騙取セシ者ト認定シ刑法第二百十條第三百九十條第三百九十四條ニ照シ重キ詐欺取財ノ罪ニ從ヒ二年ノ重禁錮ト四圓ノ附加罰金ニ處シ八月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判確定以後即チ明治十七年五月三日付ヲ以テ被告常次郎ハ再審ノ訴ヲ爲シタリ其要領ハ被告ノ共犯者トセラレタル伊保善五郎ハ常ニ面識アルモ共謀罪ヲ犯ス程ノ情誼アルヘキモノニアラス且別紙計算書ニ據ルモ被告カ其罪ヲ犯サ、リシハ歴然タルニ其後原裁判所ニ於テ同人カ受タル裁判決判文ニ據レハ仍ホ被告ト共謀セシモノ、如シアルハ畢竟全人於テ被告ヲ陷害セシモノト思考セリ依テ更ニ至當ノ裁判アラソト望ムト云ニ在リ原裁判所檢事福鎌芳隆ハ右再審ノ原由ナキヲ以テ棄却アルヘキモノトノ意見書ヲ差出タリ因テ治罪法第四百四十四條ノ式ニ從ヒ大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ之ヲ審按スルニ被告カ其無罪ノ証トシテ呈出シタル計算書ハ自カラ書記セシモノニテ固ヨリ公正ノ証ト云ヘキモノニアラス又伊保善五郎ノ判文ハ被告ト共犯タルヲ見ルヘキモノヲ以テ被告ノ無罪タルヲ推測スヘキ文詞ナシ仍ホ其他喋々スル所アルモ一トシテ治罪法第三十九條ノ項目ニ適當スヘキ原由ナキニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

第二千六百六十號

○判文(水利妨害) 明治十六年十一月廿九日上告  
同 十七年六月廿六日發付

石川縣能登國鹿島郡在江河  
村平民農業

敵田新四郎

明治十六年十月  
五十九年二月

同村平民農業

長門長太郎

明治十六年十月  
二十年二月

右二名カ被告事件ニ付明治十六年十月三十日金澤輕罪裁判所七尾支廳ニ於テ被告等ハ明治十六年七月以降ノ旱魃ニ際シ被告新四郎發意ニ長太郎ハ同意シ同村敵田佐吉外八名ノ人夫ヲ募リ同郡川田村ヘ一應ノ協議モセス同村地内字大池ナル溜井ヨリ流出スル江筋ノ堤防ヲ切リ新タニ三本ノ埋繩ヲ爲シ被告カ耕地字池ノ尻及ヒ三十刈ヘ水ヲ注入シ川田村ヘ對シ水利ヲ妨害セシモノト認定シ刑法第四百十三條同第四百四條ニ照シ各重禁錮一月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ長太郎ハ所犯情狀酌量スヘキ所アルヲ以テ同第八十九條同第九十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮十五日ニ處シ罰金二圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人等カ上告爲シタル旨趣ハ之ヲ八ヶ條ニ別ツト雖モ其要領ハ乙丙二ヶ所ノ水路即チ被告等ノ耕地ヘ

灌漑セシ伏繩ハ弘化二年度伏セ込タルモノニシテ現時ニ至リテハ盡ク朽腐シ其伏繩アルヲ知ラサルモノヨリ之レヲ見ルトキハ恰モ鼠穴ノ如シ然ルニ証人龜野直右衛門等ハ川田村ノ者ヨリ委囑ヲ受ケ正實ノ陳述ヲ爲サ、ルヨリ新タニ伏繩ヲ埋メ川田村ノ水利ヲ妨害セシモノト認定セラレタルニアリ又事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ明示スヘシトノ法律アルニ該裁判言渡書ニハ之レカ明示ヲ爲サ、ルハ不法ノ裁判ナリト云フニ外ナラス原裁判所檢事補枸杷狀太郎ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ

大審院於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ  
本案上告ノ旨趣之ヲ八箇ニ分ツテ縷述スル所アリトモ要スルニ原裁判官カ認定シタル事實及ヒ証據ノ採擇ニ付之ヲ非難スルモノニ過キサレハ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ス將タ裁判言渡ハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ明示セスト云フニアレトモ之レヲ原裁判言渡ニ徵スレハ毫モ不備ト見ルヘキ廉アルヲナシ然ラハ則該上告ハ治罪法第四百十條ノ各項外ニ涉ルヲ以テ同第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スルモノ也

第二千六百六十一號

○判文(賭博) 明治十六年五月七日上告  
同 十七年六月廿六日發付

兵庫縣但馬國出石郡出石谷

山町平民農

齋木彌太郎

明治十六年三月

二十四歳生月不詳

右彌太郎カ被告事件ニ對シ明治十六年三月二十九日神戸輕罪裁判所豐岡支廳ニ於テ被告ハ  
 正木源太郎方ニ於テ現ニ金錢ヲ賭ケ博奕ヲナシタルモノトシ刑法第二百六十一條ニ依リ重  
 禁錮三月ニ處シ罰金八圓ヲ附加シ骨子一個銅貨二錢板札二十枚目安附木三十九枚蠟燭二本  
 茶碗二個ヲ沒收ス旨言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補三俣秀彦ハ上告ヲ爲シタリ其要  
 領ハ被告ノ所爲ハ現行犯ニシテ其場ヲ逃走シ警吏其容貌体格ヲ知悉スルモ未タ其氏名ヲ辨  
 セサル内自首シタルモノナレハ自首減輕ヲ與ヘサル可ラサルニ原裁判官ハ之ヲ與ヘサルノ  
 ミナラス又其自首減輕ニ管シ何等ノ判決ヲ爲サ、ルハ不當ナリト云フニ在リ  
 被告彌太郎ハ上告旨趣至當ナル旨答辯セリ

茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之レヲ判決スルヲ左ノ如シ  
 抑事現行犯罪ニ係リ警吏既ニ其容貌ヲ認知シタル上ハ假令其氏名ヲ知ラサルモ之ヲ事未タ  
 發覺セサルモノト謂フヲ得スシテ其自首ノ効ナキヤ論ヲ待タストス故ニ原裁判官ニ於テ其  
 自首減輕ヲ與ヘサルハ固ヨリ當然ニシテ亦其之レヲ與ヘサル理由ヲ説明セサルモ之レヲ不  
 當ト云フヲ得ス之ヲ要スルニ本案上告ハ都テ其理由ナキニ依リ治罪法第四百二十七條ニ則  
 リ之ヲ棄却スル者也

第二千六百六十二號

○判文(賭博)明治十六年十二月廿八日上告  
同十七年六月廿六日發付

滋賀縣近江國蒲生郡長光寺

村住法性寺住職

稻岡 惠 量

明治十六年十一月

三十八歳

右惠量カ被告事件ニ付明治十六年十一月二十七日大津輕罪裁判所ニ於テ情ヲ知テ房屋ヲ給  
 與シタル罪アリトシ刑法第二百六十一條ニ依リ重禁錮一月罰金五圓ニ處スト言渡シタリ被  
 告之レヲ不法トシ上告セル要旨ハ明治十六年五月二十二日佛事ノ爲メ他出シ不在中隱岐力  
 次郎外二名カ自分ノ住居スル寺院ニ來リ賭博ヲ爲シ居ル處ニ歸宅シ之ヲ見テ差止ムルモ肯  
 セサルノミナラス自分ヘモ勸誘スルニヨリ醉狂ノ餘リ遂ニ同意シタリ然レモ明治十六年七  
 月中發覺セシモノナレハ則非現行犯タリ是レ原裁判所カ認メテ罪セサル所ナリ然ラハ從タ  
 ル房屋給與ヲ罪ス可キ道理ハ萬アル可ラスト云フニアリ  
 對手人檢事補久保覺郎答辯ノ要領ハ被告惠量ニオイテ事實房屋而已ヲ給與シタルモノトセ  
 ハ上告趣旨ノ如クナリト雖モ被告惠量ハ不然賭場ヲ開張シ利ヲ圖リシ者ナルヲハ青木兵吉  
 其他ノ証言及ヒ訊問調書等在ルアルニ原裁判所ハ房屋ヲ給與シタルモノト判定セシハ不法  
 ナリ依テ茲ニ付帶上告ヲ爲スト云フニアリ  
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲキ之レヲ審按スルニ  
 上告ノ理由トスル處ハ現ニ房屋ヲ給與シタルモノニ非スシテ非現行給與犯タルニ刑法第二  
 百六十一條ヲ適施サレタルハ不法ナリト云フニアリ按スルニ刑法第二百六十一條ノ後段ニ



其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタルモノ亦同シトアルハ其前段現ニ博奕ヲ爲シタルモノハ云々トアル文義ヲ受ケ來ルモノナレハ即チ現行犯ヲ罰ス可クシテ本按ノ如キ非現行犯ヲ罰スヘキモノニ非サルナリ然ルニ原裁判所ノ論決茲ニ出サルハ所謂擬律ノ錯誤ヲ免レサル不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル破毀ノ原由アルモノトス

原檢察官付帶上告ノ趣旨ハ賭場ヲ開張シ利ヲ圖リタルモノナルニ房屋ヲ給與シタルモノトナシタルハ不法ナリト云フニアリテ其論旨專ラ事實ノ認定ヲ批難スルニ外ナラサレハ上告ノ原由ナキモノトス

右辯明スル理由ナルニヨリ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

稻岡 惠 量

原裁判所カ認メタル事實ニ依リ被告惠量ハ房屋ヲ給與シタル現行犯ニ非サルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪直ニ放免ス

第二千六百六十三號

○判文〔限月米密賣買〕明治十六年十二月八日上告  
同 十七年六月廿六日發付

大坂府攝津國東成郡中濱村

平民農

田中四郎右衛門

右四郎右衛門カ空米賣買被告事件ニ付公判審問中治罪法第二百八十七條ニ從ヒ上告セリ其

要領ハ四個ノ點ニアリ第一公判廷ニ於テ吉岡直一カ告發書ノ朗讀ヲ聞クニ專ラ想像ニ出タルモノヲ司法警察官ハ之ヲ信認シ輕忽ニ被告ヲ逮捕シ爲ニ冤枉ヲ受ケタリ第二司法警察官カ犯罪ノ實地ニ臨ミ令狀ヲ發シ被告人ヲ引致スルノ外必ス檢証調書ヲ作ラサル可カラズ然ルニ其處分ヲ爲サズ直ニ家宅ニ於テ押收セシ帳簿ヲ密賣買ニ供シタルト見做シ且被告カ調書ハ自由任意ノ白狀ニアラサルニ檢察官ハ是等ヲ起訴ノ材料トセシモ無罪ノ言渡アルヘキモノト思惟スルヲ以テ調書説明ノ爲メ四名ノ警察官吏ノ呼出ヲ請願セシニ棄却セリ第三司法警察官カ作リタル調書ニ往々場所ノ記載ナキハ治罪法第二十五條ニ違背セル無効物タルニ檢察官ハ有効物トシ起訴セシカ故ニ異議ノ申立ヲ爲シタルモ採用セズ第四同被告事件ニ於テ人ニ依リ檢察官ハ公訴ノ旨趣ヲ異ニシ法官ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ナレハ裁判ス可スカラサルヲ以テ公訴受理ス可カラズト申立タルモ棄却セリ又司法警察官呼出ヲ請求セシ際棄却スルニ其理由ヲ明示セズ因テ治罪法第二百七十八條ニ循ヒ本案裁判言渡ヲ待タス上告セリト云ヘリ

對手人檢事補須賀忠貞ハ著々駁撃シテ上告ノ原由ナシト答辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ踐行シ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由多岐ニ涉ルト雖トモ大体本案ハ管轄違及ヒ治罪法第九條ノ原由又訴ヲ受ケサル事件ヲ審理シタルニアラサレハ無論受理裁判セサル可カラズ况ンヤ公判始末書ヲ閱スルニ正當ノ手續キナテ起訴シタルモノナルニオイテオヤ故ニ原裁判所カ該申立ヲ棄却セシハ相當ナリ且警察官ノ喚問ヲ請求セシニ理由ヲ附セスシテ棄却セシハ不當ト云ト雖モ其請求

大許否スルハ判官ノ權内ニアリテ不當ト云テ得ス而シテ檢察官カ答辨ニ對スル辨明ハ上告趣旨ヲ擴張スルニ止ルヲ以テ別ニ說明ヲ與ヘス之ヲ要スルニ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ノ理由ナキトス因テ同法第四百二十七條ニ循ヒ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第二千六百六十四號

○判文(煙草稅則犯)明治十六年六月十九日上告  
同十七年六月廿六日發付

千葉縣下總國東葛飾郡船橋  
九日市二十六番地平民煙草  
小賣營業

大野 傳 藏

明治十六年五月

三十六年生月不詳

明治十六年五月三十一日千葉輕罪裁判所於テ被告傳藏カ煙草稅則違犯事件ヲ審理シ明治八年第五百十號布告煙草稅則第一條第一條同第三條第一條明治九年第五十九號布告第十三條第十條ニ依リ仍ホ明治十四年第七十二號布告第五條第三條ニ照シ御賣營業稅七倍ノ罰金七十圓及ヒ出賣鑑札料二十倍ノ罰金二圓ニ處斷ストノ裁判言渡ニ對シ被告傳藏ハ上告セリ其要旨ハ被告於テ植草太左衛門へ煙草都合十玉ヲ相渡シタル際行商鑑札ヲ携帶セヌ又ハ印紙ヲ貼用ナサ、リシニ相違ナキモ全ク賣渡シタルニ無之シテ舊來惡意ノ間柄故賣捌キ方ヲ依托セシモノナリ然ルニ原裁判所ハ印紙ヲ貼用セヌ若クハ御賣ニハアラスシテ即チ小賣ナリ

云々ト自供セシモノ、如ク掲載シ其賣渡シタル云々ノ自供ニ照應スヘキ事實ナキニモ係ハラス單ニ訊問書等ニ照サレ其如何ナル條項ニ根據セシカヲ明示セヌシテ猥リニ有罪ノ推測ヲ下シ罰金ニ處シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ原檢察官今井醇ハ上告趣旨ノ理由ナキヲ駁シ原裁判適當ナリト答辯セリ

大審院於テ專任判事ノ報告及立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ煙草十玉ヲ植草太左衛門へ賣捌キ方依托セシモ決シテ賣渡シタル事之レナキニ罰金ヲ科セラレタルハ不服ナリト云フニアレモ原告被告カ公庭内ニ於テ自由任意ニ爲シタル上文ノ自供ヲ千葉縣巡查竹内二郎太ノ告發狀警部代理巡查山内敏次ノ作りタル檢証調書押収物件千葉縣警察署檢見川分署ニ於テ被告人及ヒ植草太左衛門カ爲シタル訊問調書等ニ照シ云々被告ハ煙草御賣營業鑑札ヲ有セヌシテ明治十六年四月一日下總國千葉郡稻毛村平民煙草小賣營業人植草太左衛門等ニ於テ同人ニ代價合金一圓八十七錢五厘ノ製造煙草十玉ニ印紙ヲ貼用セヌシテ御賣ヲ爲シタル事蹟明確云々トアリテ原判官カ諸般ノ證據ニ心証ヲ資リ以テ事實ヲ認定シタル裁判ニシテ毫モ瑕瑾ナクレハ到底上告ノ趣旨相立タサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却スル者也

第二千六百六十五號

○判文(証券印稅犯則)明治十六年六月六日上告  
同十七年六月廿六日發付

廣島縣豐田郡野村平民酒

造營業人

西 澤 之 助

右代人 賀川甚作

同縣同郡本郷村平民

安井才助

明治十六年五月十日廣島輕罪裁判所於テ被告澤之助外一名カ証券印稅規則違犯事件ヲ審理シ刑法第五條ニ基キ証券印稅規則第三則第二類同第四則第二條ニ照シ被告澤之助ハ脫稅高ノ二拾倍三圓ニ才助ハ該高ノ拾倍一圓五十錢ノ科料ニ處ストノ裁判言渡ニ對シ同裁判所檢事補岡村登作ハ上告セリ其旨趣ハ本案通帳ハ帳簿ノ形ヲ爲スト雖其事實酒代金ノ受取ヲ記入セシモノナレハ其形ニ依ラス其實ニ依リ同規則第二則第一條第一項ノ受取書ニ適合スルモノニテ即チ拾圓以上ノ受取書ニ印紙ヲ貼用セサルコト四次ニ及ヒタルモノナルニ第三則第二類ノ帖簿ト爲シタルハ理由ノ齟齬ナリ假リニ原裁判ヲ相當トスルモ第三則第二類中何レノ帖簿ヲ指シタルヤヲ明示セス又々第三則第二類ノ帳簿類ニ印紙ヲ貼用セサルモノハ第四則第三條及第十一條ヲ適用スヘキモノナルニ此ニ出テサルノミナラス明治十四年第七十二號布告ニ依リ二圓以上ハ罰金トスヘキニ共ニ科料ニ處スト言渡セシハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ對手人被告兩名ハ答辯書ヲ差出サス大審院於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告第一旨趣ハ本案通帳ハ帖簿ノ形ヲ爲スト雖其事實酒代金ノ

受取ヲ記入セシモノナレハ証券印稅規則第二則第一條第一項ニ適當スルモノナリト云フニアレト上告第二旨趣ノ如ク原判官カ該則第三則第二類ニ適合スル帖簿ナリト認定シ且ツ實際帖簿ニ製シタルモノナレハ之ヲ非難スルモ結局事實判定ノ當否ヲ訴フルニ過キサレハ第一旨趣ハ其効ナキモノトス而シテ第二旨趣中第三則第二類ノ帖簿ト爲スモ五種アルヲ以テ何レノ帖簿ヲ指シタルヤ明記ナキ云々ノ點ハ原判文事實ノ理由上明確ナラサルカ如シト雖業已ニ第三則第二類ノ帖簿ト認定シタルニ於テハ其第四項商賣品當坐(貸借)通帖ヲ指示セシヤ疑フヘカラス果シテ然ラハ第二旨趣ニ訴フル如ク被告澤之助ニ對シテハ其第四則第三條及ヒ明治十四年第七十二號布告ニ依照シ處斷スヘク被告才助ハ同則第四則第十一條ニ依リ科料ニ處スヘキモノナルニ此ニ出テサルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ則リ直チニ判決スル左ノ如シ

右代

西 澤 之 助

賀川甚作  
安井才助

右ノ理由ニ付証券印稅違犯被告事實ハ原裁判所カ判定セシ處ニ據リ被告澤之助ニ對シ同則第四則第三條及ヒ明治十四年第七十二號布告ニ依照シ其認メタル四百圓未滿ノ印稅十五錢ノ二十倍罰金三圓ニ處シ才助ハ同則第十一條ニ依リ澤之助ニ科シタル金三圓ノ百分ノ一科料金三錢ニ處ス

第一千百六十六號

○判文(証券印稅犯則) 明治十六年十一月廿八日上告

同 十七年六月廿六日發付

福井縣越前國丹生郡羽坂村

一番地平民農

谷口三右衛門

明治十六年十月

三十八年十二月生

同縣同國同郡更毛村十二番

地平民農

田畑善助

明治十六年十月

三十七年五月生

同縣同國同郡同村平民農

細川善右衛門

明治十六年十月

二十五年

右谷口三右衛門外二名カ被告事件ニ對シ明治十六年十月三十一日福井縣裁判所於テ田畑善助ハ百八十圓ノ借用証書ニ相當ノ印紙ヲ貼用セス谷口三右衛門ハ差入細川善右衛門ハ右

証書ニ請人ニ相立テ谷口三右衛門ハ該証書ヲ受取リタルモノト判定シ田畑善助谷口三右衛門ハ明治七年第八十一號布告証券印稅規則第四則第二條ニ依リ田畑善助ハ十八錢ノ脫稅高ノ二十倍三圓六十錢ノ罰金谷口三右衛門ハ同ク脫稅高ノ十倍一圓八十錢ノ科料細川善右衛門ハ同則第四則第九條ニ照シ罰金二圓ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ原裁判所檢事補吉田勝吉ハ上告ヲ爲シタル其要旨ハ該借用証書ハ福井縣裁判所ヘ詞訟ニ及ヒタル際相當印紙貼用シアルモ消印ヲ爲サ、ルモノニテ田畑善助ハ證券印稅規則第四則第八條ニ該リ其請人ナル細川善右衛門ハ刑法第四百四條ノ總則ニ依リ同則第八條ニ該リ証書ヲ受取タル谷口三右衛門ハ同則第八條增加明治八年第五十一號布告但書ニ該ルヲ以テ明治十四年第七十二號布告ニ依リ相當ノ科料罰金ニ處スヘキ者ナルヲ裁判茲ニ出テサルハ治罪法第四百十條第十項ニ適當セル上告ノ原山アルモノナリト云フニアリ  
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ  
上告ノ要旨ハ被告田畑善助谷口三右衛門ハ百八十圓借用証書ニ相當印紙ヲ貼用スルモ其消印ヲナサスシテ授受セシモノナレハ証券印稅規則第四則第八條ニ依リ又細川善右衛門ハ該証書ニ請人ニ相立テタルモノニ付刑法第四百四條ニ照シ共ニ正犯トシ處斷スヘキヲ原裁判茲ニ出テサルハ不當ナリト云フニアレトシ公判始末書ヲ鑒査スルニ借用証書ニ印紙貼用シタルハ田畑善助カ自カラ貼用シタルニ非スシテ受取主谷口三右衛門カ授受ノ後補貼ニ係ルヲ明瞭ナリ已ニ渡主ニ於テ自カラ貼用セサル事實明瞭ナル上ハ縱令受取主於テ后日之ヲ補貼スルモ共ニ脫稅ノ責ヲ免カル、ヲ得ス何トナレハ後ノ補貼ヲ以テ已ニ授受ノ際ニ成立シタル

無印紙犯則ノ消滅スヘキモノニアラサレハナリ又借用証書ノ請人ハ金錢貸借上ノ附從ノ契約ニテ全ク本人ト性質相異ナルヲ以テ正犯トナスヘキ理由ナシトス因テ原裁判所カ授受者ニ對シ證券印稅規則第四則第二條ヲ適用シ田畑善助ニ脫稅高ノ二十倍谷口三右衛門ニ脫稅高ノ十倍ヲ科シ細川善右衛門ニ同則第九條ニ從ヒ罰金二圓ヲ言渡シタルハ至當ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ニ則リ本按上告ハ棄却スルモノ也

第二千六百六十七號

○判文〔證券印稅犯則〕明治十六年六月廿一日上告  
同 十七年六月廿六日發付

新潟縣越後國刈羽郡柏崎下

町第四十番地平民吳服商

中村惣右衛門

明治十六年六月

五十四年六月

証券印稅規則違犯事件ニ付明治十六年六月六日柏崎治安裁判所ニ開ク新潟縣輕罪裁判所長岡支廳カ証券印稅規則第四則第二條第九條及ヒ明治十四年第七十二號布告ニ照シ被告中村惣右衛門ニ對シ印紙脫稅高一圓四十二錢ノ二十倍罰金二十八圓四十錢ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告惣右衛門ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告カ池田惣吉ニ交付シタル田地賣渡証書ハ無効ノ物ニシテ反古同一ナル者ナリ假リニ之ヲ有効ノモノトスルモ固ヨリ惡意アリ

テ爲シタルニ非ラサレハ法律上罪ト爲ラサル者ナリ然ルニ原裁判ハ事實ノ理由ヲモ付セス罰金ヲ言渡サレタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人警部補佐藤藤太郎ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辯駁シ原裁判ハ允當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ

被告カ上告ノ理由トスル處ハ該証書ハ無効物ニシテ反古同様ナルモノナリ假リニ有効ナリトスルモ惡意アリテ犯シタル所爲ニ非ラサレハ法律上罪トナラサル者ナリト云フニ在テ要スルニ事實ノ當否ヲ陳辯シテ裁判官ノ判定上ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キス抑モ証憑ヲ採擇シテ事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從シタル處ナレハ其當否ヲ論難スルモ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲ストヲ得ス又原判文ヲ閱スルニ事實及ヒ法律ノ理由ハ明示シアリテ毫モ瑕瑾アルニアラス因テ上告ノ趣旨ハ總テ相立タス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

第二千六百六十八號

○判文〔賣藥稅則犯〕明治十六年十二月廿八日上告  
同 十七年六月廿六日發付

福岡縣豐前國上毛郡四郎丸

村平民吳服商并賣藥受賣業

松田勇平

明治十六年十二月

五十三年六月

明治十六年十二月十二日福岡輕罪裁判所小倉支廳ニ於テ右松田勇平カ賣藥印紙稅則違犯事件ヲ審判シ右規則第六條初項ニ依リ二十五圓ノ罰金ニ處スト言渡シタルニ服セス右勇平ハ上告ナシタリ其要領ハ先ニ賣藥營業人ヨリ該藥ヲ買入ル、ヤ百粒ヲ漆器ニ入レ而シテ之ヲ二粒入ノ袋トナシ定價三錢ヲ以テ販賣スルカ爲メ一厘印紙ヲ貼付シタル包紙五十枚ヲ併セテ購求シタルモノニシテ其包紙ハ現ニ押収セラレタル証據物件中ニ存在スル處ナレハ明治十五年第五十一號布告第六條末項ニ依リ印紙不足ノ藥品ヲ所持シタルモノヲ以テ處斷セラルヘキ筈ナルニ原裁判所ニ於テ採証其法ヲ違ヒ單ニ印稅檢査官ノ告發書及ヒ漆器入藥品ノミヲ証トシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シタルモノト速斷セラレタルハ越權且擬律ノ錯誤ニ出テタル裁判ナリト云フニ外ナラス原裁判所檢事補松野貫義ハ原裁判允當ニシテ被告ノ上告其理由ナキ旨ヲ答辯セリ

爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ判決スル左ノ如シ  
 本按上告ノ旨趣タル要スルニ法律上裁判官ニ任從スル所ノ職權内ニ侵入シ其採證及ヒ事實ノ認定ヲ非難シ覆審ヲ要請スルニ過キスシテ一モ治罪法第四百十條ニ規定シタル各項目ニ適合スルモノ之レナキヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス依テ同法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

第二千六百六十九號

○判文(賣藥稅則犯) 明治十七年一月廿六日上告 同 年六月廿六日發付

大分縣東國東郡鶴川村平民

賣藥受賣業

吉田 齊 次郎

明治十六年十二月

三十三年九ヶ月

右齊次郎カ被告事件ニ對シ明治十六年十二月十八日大分輕罪裁判所ニ於テ犯罪ノ証憑ナキニ依リ無罪且押収セシ藥ハ下附スト言渡シタル裁判不當ナリトシ原裁判所檢事補山中幸義ハ上告セリ其要領ハ被告カ所持セシ二十四貼ノ中風根切藥ハ一貼ノ定價拾四錢五厘ナルヲ以テ一錢五厘ノ印紙ヲ貼用スヘキ筈ナルニ之ニ一錢ノ印紙ヲ貼用セシハ則チ賣藥印紙稅則ニ違背シタルモノタルニ原裁判所カ之ヲ無罪トナセシハ不法ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人被告吉田齊次郎ハ之ニ對シ答辯セス

因テ治罪法第四百二十五條ノ式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ原判文ハ漠トシテ如何ナル被告事件ニ對シ犯罪ノ証憑ナシトシタルカ明示ナケレハ判然セスト雖モ公判始末書ヲ閱スレハ則チ賣藥印紙稅規則違犯ノ件ニ在ルコト瞭然タリ而シテ其犯則ナリトノ點ハ一錢五厘印紙ヲ貼用スヘキニ一錢印紙ヲ貼用シタリト云フニ在リテ該藥品モ已ニ差押ヘアルヲ以テ見レハ其判決下サソニハ先ツ其貼用アル一錢印紙ヲ以テ相當ナリトスルカ將タ一錢五厘印紙ヲ貼用スヘキモノニテ其式ニ違ハカリシカ又ハ其犯則アルモ他ニ因ル所アリテ被告ノ責ニ歸セサルカハ宜ク審明セサル可カラカルニ其理由モ附セスシテ漫然犯罪ノ証憑ナキヲ以テ無罪

ト言渡シタルハ則チ治罪法第四百十條ノ第九ニ適當スル破毀ノ原由アル裁判ナリトス  
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ更ニ相當ノ裁判セ  
シムル爲メ之ヲ福岡輕罪裁判所小倉支廳へ移スモノ也

第二千七百七十號

○判文(官吏抗拒) 明治十六年九月廿六日上告  
同 十七年六月廿七日發付

鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡和  
泉町平民

手塚半次郎

明治十六年八月  
三十七年

明治十六年八月二十七日鹿兒島輕罪裁判所ニ於テ右手塚半次郎カ被告事件ヲ審理シ暴行ヲ  
以テ巡查ニ抗拒シタルノ所爲アリトシ刑法第三百二十九條ヲ適用シ再犯ニ係ルヲ以テ同第九  
十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ五月以上五年以下六圓二十五錢以上六十二圓五十錢以下ノ  
範圍内ニ於テ重禁錮五月罰金六圓二十五錢ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補  
鮫江真繼カ上告シタルノ要領ハ被告カ所爲ハ巡查ノ説論ニ激シ擱ミ掛リ其帽子ヲ剝取リ咽  
喉ヲ摘ミシノミニシテ抗拒ニ非ス即チ形容ヲ以テ侮辱シタルモノナレハ刑法第四百一十一條  
ヲ適用スヘキニ同第三百二十九條ヲ適用セシハ擬律ノ錯誤ナリト謂フニ在リ大審院ニ於テ治  
罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

被告人カ醉餘暴言他人ノ家業ヲ妨害シ巡查ノ説論ニ服セス却テ擱ミ掛リ其帽子ヲ剝取リ咽  
喉ヲ摘ミ亂暴ヲ爲シタルノ事實ハ原判文ニ明記スル所ナリ其他人ヲ妨害スルニ際シ説論シ  
テ之ヲ制止シタルハ則チ巡查ノ職務ヲ執行シタルモノニシテ被告人ハ其説論ニ服セス暴行  
ヲ以テ抗拒シタル者ナレハ形容ヲ以テ侮辱シタル所爲ト謂フコト得ス故ニ原裁判所カ刑法  
第三百二十九條ヲ適用シタルハ相當ノ裁判ニシテ擬律ノ錯誤アルニアラサルナリ仍テ治罪法  
第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノナリ  
第二千七百七十一號

○判文(官吏侮辱) 明治十六年八月廿八日上告  
同 十七年六月廿七日發付

高知縣土佐國土佐郡下知村  
字稻荷新地平民源十郎二男  
料理屋

中川繁之助

明治十六年八月  
十四年十月

右繁之助カ被告事件ニ付明治十六年八月四日高知輕罪裁判所ニ於テ被告ハ官吏侮辱ノ罪アリ  
ト判定シ刑法第四百一十一條ニ依リ尙ホ同第八十條第二項ニ從ヒ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮  
十五日ニ處シ罰金二圓五十錢ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ被告上告ヲナシタル要旨ハ  
被告カウチ捕亡ウネトハ瘋癲ト放言シタル事實ニ對シ捕亡ノ名稱ヲ巡查ノ舊名ト爲セシハ  
痴呆ト云方言

事實ノ理由ヲ付スルニ錯誤アリ假リニ捕亡ヲ巡查ノ舊稱トスルモ巡查田宮直幹カ居ル所ヨリ五六間モ隔テ後面ニ於テウチ捕亡ト發言シタルヲ以テ目前ニアラス又職務ヲ執行スルニモアラサレハ罪ト爲ル可キ所爲ナキヲ刑法第四百一一條ニ照依セラレタルハ擬律ニ錯誤アリト云フニアリ原檢事補村田穗ハ上告ノ不當ナルヲ論駁シ原裁判至當ナリト答辯セリ玆ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ之ヲ審理判決スル左ノ如シ

凡ソ証憑ヲ取捨採擇シ犯罪ノ事實ヲ判定スルハ原裁判官ニ任從スル所ノ職權内ニシテ其判定ハ他ヨリ輒ク批難シ得ヘカラサルモノナリ本案上告ハ事實ノ理由及ヒ擬律ニ錯誤ト掲擧スルモ其論旨ノ歸着スル所ハ事實ノ判定ヲ論難スルニ過キサレモノナレハ治罪法第四百十條ニ適合セサルヲ以テ其理由トナスニ足ラサルモノトス因テ同法第四百二十七條ニ依リ該上告ヲ棄却スルモノナリ

第二百七十二號

○判文(官吏侮辱) 明治十六年十月三日上告  
十七年六月廿七日發付

福岡縣筑前國上座郡池田村

士族當時愛媛縣讚岐國那珂

郡風袋町寄留無職業

長澤 廉太郎

明治十六年九月

三十二年

右廉太郎カ被告事件ニ付明治十六年九月七日九龜治安裁判所ニ開ク松山輕罪裁判所高松支廳ニ於テ審理ノ末官吏侮辱ノ事實アリト認メ刑法第四百一一條ニ依リ一月二十日ノ重禁錮ニ處シ七圓ノ罰金ヲ附加ストノ裁判言渡ニ服セス上告セリ其要領ハ警部中村恕一郎ナル者私情ヲ以テ大矢伴治ヲ處置スルノ不當ナルニ付其理由ヲ承ハランカ爲メ伺書ヲ呈スルコトニ至リタルニ警察官ハ伴治カ拘留ハ警察官ノ特權ナリ見込アリテ之ヲ行フモノナリトノコトニ付其見込ノ二字ヲ質問セシカ爲メ再ヒ書面ヲ進呈スレモ故意ヲ以テ侮辱スルノ精神ニ出テタルニアラサリシコト明白ナリ殊ニ其伺書中ニ國法ヲ濫用スルノ大罪人及ヒ闇黒ナル御處分杯トノ語ハ是レ全ク文章變化ノ形様ニシテ侮慢ノ語ニアラサルナリ加之刑法第四百一一條ニ言語ヲ以テ云々トアル其言語トハ全ク言語ノミニ止リテ決シテ文章ヲ以テ自己ノ言語ヲ眞寫スル杯ト、變動スルモノニアラサルコトハ能ク人ノ知ル處ナレハ自分カ所爲ハ刑法第二條ニ依ルヘキモノナルニ原裁判ノ玆ニ出テサルハ不當ナリト云フニ在リ對手人檢察官警部補澤原宜貞吉ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判允當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

上告ノ理由トスル處侮辱スルノ故意アリシニアラス見込ノ二字ヲ質問セシ迄ナリ國法ヲ濫用スルノ大罪人及ヒ闇黒ナル云々トハ全ク文章變化ノ形様ナリト云フニ在リト雖モ原裁判所カ法律上特有スル職權ヲ以テ爲シタル處ノ事實認定ト証憑ノ採擇上トニ對シ徒ニ之ヲ非難セントスルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得可ラサルモノトス又刑法第四百四十一條ニ言語トアル其言語トハ全ク言語ノミニシテ文章ヲ以テ自己ノ言語ヲ眞寫スルコトヲ



得ストノ上告趣旨モ亦其効ナキモノトス如何トナレハ原裁判所カ認メタルカ如ク侮辱トナ  
ルヘキ言語ヲ直筆シ之ヲ口頭ニ代ヘ官吏ヲ侮辱シタルモノナレハ言語ヲ以テ侮辱シタルト  
異ナラサレハナリ故ニ原裁判所カ其所爲ヲ罰スルニ刑法第四百一十一條ヲ適用シ處斷シタル  
ハ毫モ不當ニアラサルナリ因テ上告趣旨總テ相立タサルモノト判定ス  
以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

第二千七百七十三號

○判文(偽証)明治十六年六月二十日上告  
同 十七年六月廿七日發付

秋田縣羽後國川邊郡平尾島  
村平民農

角 田 要 藏

明治十六年五月  
三十三年

明治十六年五月廿九日秋田縣罪裁判所於テ被告要藏カ證書偽造事件ヲ審理シ刑法第二百十  
條第二百一十一條第百十二條ニ依リ仍同第二百一十二條ニ照シ重禁錮六月ニ處シ罰金八圓ヲ附  
加シ八月ノ監視ニ付ストノ裁判言渡ヲ不法トナシ被告要藏カ上告爲シタル第一旨趣ハ本案  
ノ返證書ハ武田藤左衛門ヨリ眞ニ受取リタルモノニシテ偽造ノ確証ナキニ被告於テ偽造セ  
シモノト判定サレシハ不當ナリ第二假リニ該證書ハ偽造シタルモノトスルモ已ニ明治十四  
年四月中行使セシニ同十五年六月始メテ行使シタルモノトナシ單ニ新法ニ依リ處斷シタル

ハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニアリ原檢察官小澤宗央ハ上告旨趣ノ理由ナキヲ  
述ヘ原裁判適當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ按スルニ上告第一旨趣ハ採  
証并事實ノ判定ヲ非難スルニ止マリ第二ハ原判官カ認メサル事實ナレハ果シテ上告旨趣ノ  
理由アルヤ否ヲ監査スルニ由シナケレハ共ニ採用スルノ限リニアラスト雖モ原文ヲ檢ス  
ルニ前段明治十四年三月武田藤左衛門ヨリ被告ヘ宛タル耕地返證書ヲ偽造シ明治十五年六  
月中該証書ヲ以テ詞訟ヲ起シ始テ行使シトノミ掲載シ行使ノ何人若クハ何所ニ於テセシヤ  
ノ理由ヲ明示セサルミノナラス果シテ偽造證書ナリトセハ右藤左衛門ノ名下ニ押捺セシ印  
影ニ付テモ偽造ナルヤ否ノ事實理由ヲ明示セサルヘカラス然ルニ之レカ理由ヲ明示セシ  
テ單ニ行使シ云々ト認メナカテ後段ニ至リ未遂犯云々ト爲シタル等頗ル不法ノ裁判ナルヲ  
以テ原裁判ノ全部ヲ破毀シ治罪法第四百二十八條ノ規定ニ從ヒ盛岡縣罪裁判所ヘ移シ更ニ  
審判ヲ受クヘキ旨ヲ言渡ス者也

第二千七百七十四號

○判文(官印偽造)明治十六年四月三十日上告  
同 十七年六月廿七日發付

大坂府大和國高市郡清水谷  
村士族

島 本 諦 次 郎

明治十六年三月  
四三三



及ヒ事實ノ判定ニ對シ不滿ヲ鳴シ以テ覆審ヲ求ムルニ止リテ一モ治罪法ニ規定シタル上告ノ理由ナキモノトス又代言人カ第一ノ論旨タル之ヲ原判文ニ徴スルニ禮金ヲ得ントシテ未ダ遂ケサリシ事實ハ之ヲ示シアルカ如シト雖モ官文書偽造及ヒ官印盜用ノコトニ至リテハ確然其既遂タルヲ判示シアリテ之ヲ未遂ト認メタル文詞ナク又金員ヲ貪ホルノ惡意アルヲ要スルハ乃チ別罪ノコトニシテ本案被告事件ト相管セサルモノナレハ究竟スルニ此論旨ハ原判文ノ旨意ヲ誤解シタルニ出タルモノト做サ、ルヲ得ス其第二ハ原判文ニ行使ノコトヲ明示セズト云フニアレモ原判文中(文書ヲ偽造シ該郡役所庶務掛ノ印影ヲ盜用シ竊ニ之ヲ受負人共ニ交付シ)ト晰然行使ノ事實ヲ判示シアル上ハ毫モ間然スル所アルナク且原裁判官ニ於テ被告ハ其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シタリト認メタルモノニアラサレハ刑法第二百五條ヲ適用セサルハ固ヨリ當然ノコトニシテ亦之カ理由ヲ付スルノ理ナク而シテ又第三論旨ノ如キハ原判文ニ自首スト雖モ事發覺ノ後ニ係ルコトヲ判示シアル上ハ之ヲ審理セズト云フヲ得サルハ勿論其年月日ヲ掲ケサルモ敢テ之ヲ不當ト云フヲ得ス且被告ノ行爲ハ明治十五年一月以來ト掲ケ乃チ新法實施後ノ犯罪ニ係ルコトヲ判示シアル以上ハ是又事實理由ノ不備ト云フヲ得サルモノトス又第四ハ法律ノ理由ニ不備アリト云フニアレモ既ニ依ルヘキ所ノ法條ヲ掲ケ而シ現ニ其適施シタル所ノ刑ニ於テ誤謬ナキ限りハ假令其照スヘキ法條ヲ示サ、ルモ本接全体ニ害ヲ及ホサ、ルヲ以テ唯此一點ノミニ付原裁判ヲ破毀スルノ理ナキニ依リ是又以上上告正當ノ理由トナスヲ得サルモノトス

以上辨明ノ理由ニシテ本案上告ハ到底相立サルテ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

却スルモノナリ  
第二千七百七十五號

○判文(官印偽造) 明治十六年七月六日上告  
同 十七年六月廿七日發付

福岡縣筑後國上妻郡若菜村  
平民農業

橋本與助

明治十六年六月  
四十六年

右與助カ被告事件ニ付明治十六年六月五日福岡重罪裁判所ニ於テ審理ノ末官印及ヒ官文書偽造私印及ヒ私書偽造詐欺取財未遂ノ從犯タルノ事實アリト認メ刑法第九條同第百條ニ從ヒ一ノ同第百九十五條同第二百一條ニ依リ同第八十九條同第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ一年六月ノ重禁錮ニ處シ一年ノ監視ヲ附加ストノ裁判言渡ニ服セス上告セリ其要領ハ橋本喜次郎カ戸長役場ノ印及ヒ戸長田島善太郎橋本萬吉カ實印ヲ偽造スルノ情ヲ知テ金員ヲ貸與シタルニアラス亦其偽印ヲ押捺シタル證書ニ證人橋本喜作トアル名下へ喜次郎ヨリ受取リタル古印ヲ押捺シタルハ是亦永田源吾ヲ欺罔シ金圓ヲ詐取セントノ情ヲ知テ幫助シタルニアラス反テ喜次郎カ不正ノコトヲ爲サント申聞ルニ付其所爲ノ非ナルヲ忠告シ且其始末ヲ橋本萬吉ニ報知シタルカ如キ次第ナルニ原裁判所ハ是等ノ事實ヲ審究セス輒シ有罪者ナリト處斷セラレタルハ不當ナルニ因リ原裁判ノ破毀ヲ要求スト云フニアリ

對手人檢事代理檢事補大崎利三郎ハ上告趣旨不當ニシテ原裁判允當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

上告ノ理由トスル處戸長役場ノ印及ヒ私印ヲ偽造スルノ情ヲ知テ金圓ヲ貸與シタルニアラ

ズ又喜次郎ヨリ受取りタル古印ヲ押捺シタルモ詐欺ヲ爲サントノ情ヲ知テ爲シタルニアラ

ズ却テ所爲ノ非ナルヲ忠告シ其實事ヲ被害者ニ報知シタルモノナルニ其等ノ事實ヲ審究セ

ズ輒ク刑ヲ言渡サレタルハ不當ナリト云フニ在リト雖モ要スルニ原裁判所カ法律上特有ス

ル處ノ職權ヲ以テ爲シタル事實認定ト證據ノ採擇上ニ對シ徒ニ非難ヲ試ミントスルニ過キ

サレハ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得サルモノトス何トナレハ上告ヲ爲シ得可キ場合ヲ定

メタル治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ至ル明文ニ毫モ該當セサル趣旨ナルヲ以テナリ

因テ本案上告ハ相立タサルモノト判定ス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法四百二十七條ニ法リ本案上告ヲ棄却スル者也

第二千七百七十六號

○判文(私書偽造)明治十六年十二月三日上告  
同 十七年六月廿七日發付

廣島縣安藝國山縣郡本地村

居住平民農

藤井儀三郎

明治十六年十月

五十四年一ヶ月

右儀三郎カ被告事件ニ付明治十六年十月三十日廣島輕罪裁判所ニ於テ被告ハ証書偽造詐欺  
取財未遂ノ二罪ヲ犯シタル者ト判定シ刑法第百條第三項ニ照シ詐欺取財未遂ノ罪ヲ情狀重  
シトナシ同第三百九十四條同第三百九十七條同第三百九十二條ニ照依シ二月ノ  
重禁錮ニ處シ四圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ檢事補兒玉利  
明ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ數罪俱發ノ場合ニ於テ情狀ニ依リ罪ノ輕重ヲ定ムルハ裁判官  
ノ權内ナルモ情狀重キ者ハ刑期モ亦隨テ長カラサルヲ得ス然ルニ今原裁判官ニ於テ被告カ  
二罪中其擇テ情狀重シトシタル詐欺取財未遂ノ罪ヲ罰スルニ其輕シトシタル証書偽造ノ罪  
ヲ罰スヘキ刑ノ最短期ヨリ輕キ刑ヲ言渡シタルハ名實輕重其當ヲ得サル者ニシテ畢竟原裁  
判官ニ於テ刑法第百條ノ法意ヲ誤解セシニ出タル擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ之レカ破毀ヲ  
求ムト云フニアリ

對手人被告藤井儀三郎ハ答辯セズ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告論旨ハ原裁判官ニ於テ被告カ二罪中其擇テ情狀重シトシタル詐欺取財未遂ノ罪ヲ罰ス

ルニ其輕シトシタル証書偽造ノ罪ヲ罰スヘキ刑ノ最短期ヨリ輕キ刑ヲ言渡シタルハ名實輕

重其當ヲ得サル者ニシテ畢竟原裁判官ニ於テ刑法第百條ノ法意ヲ誤解セシニ出タル擬律錯

誤ノ裁判ナリト云フニ在ルモ証書偽造ノ罪ヲ罰スヘキ刑即チ刑法第二百十條ハ當行ノ刑ニ

テラスシテ唯タ其正條ヲ示シタルニ過キサレハ原言渡ハ未タ以テ名實輕重其當ヲ得サルモ

ノト爲スヲ得ス何トナレハ原裁判官ハ証書偽造ノ罪ヲ罰スルニハ刑法第二百十條ノ刑ヲ直

ナニ適用ス可カラスシテ其減輕スヘキ情狀アリト認メタルヤモ知ル可カラサレハナリ因テ  
上告論旨ハ相立タス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本按上告ヲ棄却スル者也

第二千七百七十七號

○判文(私書偽造) 明治十六年六月十五日上告  
全 十七年六月廿七日發付

東京府本郷區眞砂町三十一

番地平民雜業

市川 節 三

明治十六年五月

三十九年一月

右節三カ被告事件ニ付明治十六年五月十四日東京輕罪裁判所ニ於テ被告ハ古川龜吉ノ委任  
狀ヲ受ケテシテ擅ニ同人ノ代人ト稱シ高野豐吉ニ掛ル告訴ノ願下ケ書ヲ差出シタルモノト  
シ刑法第二百三十一條ニ依リ罰金十五圓ニ處シタル裁判ニ對シ檢事補馬渡多藏ニ於テ上告  
ヲ爲シタル旨趣ハ被告ニ於テ本件告訴願下ケハ古川龜吉ノ依頼ニ應シ爲シタルモノニシテ  
其委任狀ノ如キモ現ニ豫審判事ノ檢閱ニ供シタル旨ヲ主張シ被告カ招承ニ服セサル事ハ豫  
審調書及ヒ公判始末書ニ明瞭ナリ然ルニ原裁判官ハ被告事件ノ証憑ヲ提擧スルニ當リ其自  
白ニテ充分ナリトノ語ヲ下シ被告カ自白セサルモノヲ以テ自白シタルモノトナシタルハ則  
チ越權ノ處分ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ對手人被告節三ハ之カ答辯ヲ爲サス被告

抽三ニ於テ上告ヲ爲シタル旨趣ハ本件ハ私書偽造ノ公訴ナルニ身分詐稱シタルモノヲ以テ  
裁判アリシハ則チ訴ヲ受ケサル事件ニ對シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ原檢察官ハ被  
告上告ハ不當ニシテ其理由ナキ旨ヲ答辯セリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會  
檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按判決スル左ノ如シ  
抑証憑ヲ取捨シ事實ヲ判決スルハ承審官ノ職權内ト雖モ一ノ証憑ナク又被告ノ自白セサル  
ヲ自白ナリト架空ノ推測ヲ以テ事實ヲ認定スルハ法ノ許サハル所ナリ今原判文ヲ閱スルニ  
〔被告節三ニ於テハ古川龜吉ヨリ更ニ委任ヲ受ケテシテ擅ニ同人ノ代人ト稱シ高野豐吉ニ  
掛ル告訴願下ケ書ヲ差出シタル証憑ハ其自白ニテ充分ナリ〕トアリ而シテ公判始末書ニ徴ス  
ルモ一件書類ヲ閱スルモ被告カ身分詐稱シタル自白シタル証憑アルコトナシ然ルチ自白  
ニテ証憑充分ト爲シ他ニ一ノ証憑ヲ示サスシテ輒シ事實ヲ判定シタルハ原檢察官上告ノ旨  
趣ノ如ク違法ノ裁判ニシテ破毀ノ理由アルモノトス  
被告上告ニ依リ之レヲ審按スルニ本案ハ古川龜吉ノ代人ト詐稱シ告訴願下ケ書ヲ差出タル  
所爲ヨリ私書偽造ヲ以テ起訴シタル事件ニシテ檢察官カ起訴中ニ氏名詐稱ノ事項ハ自ラ包  
含シタルハ明瞭ナレハ之レヲ以テ原裁判カ訴ヲ受ケサル事件ニ對シ裁判ヲ爲シタルモノト  
云フヲ得可カラス故ニ被告上告ノ旨趣ハ其理由ナキモノトス  
右ノ理由ナルヲ以テ被告カ上告ハ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却シ檢察官上告ニ依  
リ本件ハ同法第四百二十八條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ浦和輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシム  
ルモノナリ

第一千七百七十八號

○判文(私印偽造及詐欺取財)明治十六年七月六日上告  
十七年六月廿七日發付

高知縣土佐國高岡郡能津村

平民農業

廣井貞太郎

明治十六年六月

二十三年

高知縣土佐國高岡郡日下村

平民農業

德弘菊馬

明治十六年六月

四十年

右貞太郎菊馬カ被告事件ニ付明治十六年六月七日高知輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末私印偽造及ヒ證書偽造詐欺取財ノ事實アリト認メ刑法第百條ニ從ヒ一ノ同第二百八條同第二百二十二條菊馬ハ從犯ナルヲ以テ仍ホ同第九條ニ依リ一等ヲ減シ貞太郎ハ八月ノ重禁錮ニ處シ七圓ノ罰金十月ノ監視ヲ附加シ菊馬ハ六月ノ重禁錮ニ處シ六圓ノ罰金八月ノ監視ヲ附加ストノ裁判言渡ニ服セス各上告セリ貞太郎カ上告ノ要領ハ實父廣井孝太郎カ曾テ田村德次ヨリ借受タル處ノ米穀ヲ代金ニテ其義務ヲ盡シ請取證書ヲ授受シタルモノニシテ偽造シタル証

四四二

書ニアラサルヲハ德弘菊馬カ公判廷ニ於テ爲シタル供述及ヒ高知治安裁判所ノ裁判言渡書ニ依テ明瞭ニシテ疑フ可ラサル事實ナルニ原裁判所ハ自分カ義ニ伊野警察署ニ於テ爲シタル信ヲ措クニ足ラサル供述ヲ採用シ以テ處斷セラレタルハ不當ナリト云ヒ菊馬カ上告ノ要旨ハ伊野警察署ニ於テ爲シタル陳供ハ田村德次代人大川楠次ニ欺罔セラレ事實ヲ誤リタルノ供述ナルニ之ヲ眞實ノ白狀ト認メラレ反テ公判廷ノ眞實ナル供述ヲ斥ケ處斷セラレタルハ不當ナリ殊ニ自分カ田村德次ノ實印ヲ偽造シタルニアラサルヲハ鑑定人ノ鑑定ニ依テ視ルモ明ナリト云ヒ猶ホ各上告辯明書提供シ前意ヲ擴張セリ  
對手人檢事補青木幹造ハ上告趣旨不當ニシテ原裁判允當ナリト答辯セリ  
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ  
上告ノ理由トスル處請取證書ハ眞正ニ授受シタルモノナリ其証憑ハ共犯者ノ陳述及ヒ裁判言渡書トニ依テ明ナリ又ハ警察署ニ於テ爲シタル信ス可ラサル陳供ヲ採用シ反テ公判廷ノ眞實ナル陳供ヲ斥ケ處斷セラレタルハ不當ナリト云フニ在リト雖モ原裁判所カ各種ノ証憑ニ依リ私印偽造及ヒ證書偽造詐欺取財ノ所爲アリト認メタル事實ト証憑ノ採擇上ニ對シ徒ニ非難ヲ試ミントスルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ヘカラサルモノトス何トナレハ治罪法第百四十六條第二項ニ明掲スル如ク諸般ノ徵憑ヲ取捨鑑別シ罪ノ有無ヲ判定スルハ事實原裁判所ニ特任スル處ナルヲ以テナリ因テ上告趣旨相立タサルモノト判定ス以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

第一千七百七十九號

四四三

○判文(証書偽造及詐欺取財)明治十六年四月十六日上告  
十七年六月廿七日發付

廣島縣備後國御調郡宇津戸  
村平民農業

丹下次郎

明治十六年一月  
二十八年四月

証書偽造及ヒ詐欺取財被告事件ニ付明治十六年一月二十七日尾道輕罪裁判所ニ於テ刑法第  
二百十條第一項同第二百十二條及ヒ同第三百九十條第一項同第三百九十四條ニ依リ同第三  
百九十條第二項ニ照シ其重キ刑法第二百十條第一項同第二百十二條ニ從ヒ八月ノ重禁錮ニ  
處シ拾五圓ノ罰金ヲ附加シ一年ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ被告丹下次  
郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ハ岡田光藏代人槍山宗平ヨリ戸成重次郎へ係ル貸金勸解  
一件ニ付重次郎ノ代人トナリ勸解廷へ出頭シ該金ハ借用ノ覺へナキ旨答辯シ勸解ハ不調ト  
ナリタル末重次郎ノ依頼ニ因リ其取扱ヲ爲シタル處其宗平重次郎等共謀シ被告ヲ罪セント  
不實ノ自首不實ノ告訴ヲ爲シタルモノニテ被告ハ証書偽造及ヒ詐欺取財ノ所爲アル者ニ非  
ズ而シテ其止宿所搜查ノ際發見シタル六顆ノ印形ノ内三顆ハ本籍ヨリ差送リタル書類中ニ  
混シ來タル不用ノ印形ニテ外三顆ハ戸成秀吉等ヨリ預リタルモノニシテ未タ曾テ其印影ヲ  
使用セシメナシ然ルニ原裁判所ハ不實ノ自首ト不實ノ告訴ヲ採用シ且該六顆ノ印形ヲ証ト  
シ刑法第二百十條同第二百十二條同第三百九十條同第三百九十四條等ヲ適用シ重キ範圍内

ニ於テ處斷シタルハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ニシテ越權ノ處分ナリト云フニ在リ  
對手人檢事補永井次郎ハ上告旨趣ノ不當ヲ逐一辨駁シ原裁判ハ相當ナリト答辯セリ  
大審院ニ於テ專任判事薄井龍之ノ報告ニ依リ立會檢事澄川拙三ハ本件裁判ハ事實理由ノ不  
備ナルモノナレハ此點ニ付附帶上告ヲ爲ストノ意見ヲ述ベタリ因テ之ヲ審案判決スル左ノ  
如シ

上告ノ理由トスル處原裁判所ハ不實ノ自首ト不實ノ告訴トヲ採用シ未タ曾テ使用セサル印  
形ヲ證據トシ証書偽造及ヒ詐欺取財ナリト判定シ刑ヲ言渡シタルハ越權ノ處分ナリト云フ  
ト雖モ抑モ諸般ノ証憑ヲ取捨鑒別シ其事實ノ有無ヲ判定スルハ承審官ニ任從シタル職權ナ  
レハ其事實ノ認定上ヨリ言渡シタル裁判ハ輒ク之ヲ動カス可カラサルハ勿論ナレハ之ヲ以  
テ越權ノ處分ナリトノ上告論旨ハ其効ナキモノナリトス本院檢事附帶上告論旨ニ依リ原判  
文ヲ檢按スルニ止テ証書偽造及ヒ詐欺取財ノ事實ノミヲ擧ケ該証書ニ押印ノ有無及ヒ沒収  
シタル印形六顆ハ被告カ果シテ犯罪ノ用ニ供タルヤ否ヤ絶テ其事實ヲ明認セズ輒スル刑ヲ  
科シタルハ治罪法第四百十條第九項ニ所謂事實及ヒ法律ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セサル不法  
ノ裁判ナリトス因テ被告人ノ上告ハ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却シ本院檢事附帶  
上告論旨ニ基キ原裁判ノ全部ヲ破毀シ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ被告事件ヲ岡山輕罪裁  
判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

第二千八百八十號

○判文(毆傷致死)明治十七年三月十八日上告  
年六月廿七日發付

千葉縣下総國印旛郡中臺村

二十三番地已之助弟平民

篠崎 岩 松

明治十七年二月

二十九年一月

右岩松カ被告事件ニ付明治十七年二月二十八日千葉重罪裁判所ニ於テ被告ハ再ヒ監視規則ヲ犯シ及ヒ花澤寅藏ヲ毆傷シテ死ニ致シ以テ其財物ヲ強取シタルモノトシ刑法第百五十五條同第百五十六條同第九十條同第三百八十條ニ依リ仍ホ同第百條ニ照シ一ノ犯情重キ右第百八十條ノ罪ニ從ヒ死刑ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ被告岩松ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ハ監視規則ヲ犯シタルモ花澤寅藏ヲ殺害シ其財物ヲ強取シタルノ之レナシ其實藏ヲ殺害シタルハ東京淺草出生竹次郎ノ所爲ニシテ被告ハ只同人ヨリ其贓品ヲ預リタルノミナルニ原裁判官ニ於テ右竹次郎ヲ訊問セサルノミナラス探證其法ヲ誤リ被告事件ノ摸樣ニ依リ有罪ノ推定ヲ下サレタルハ不法ナリト云フニ在リ原裁判所檢事岩田武儀ハ原裁判至當ナル旨答辯セリ

茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ニ從ヒ代言人八幡儀三郎ノ陳述並ニ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ如ノ左シ  
抑探證及ヒ事實ノ認定ハ法律上裁判官ニ特任スル所ナレハ他ヨリ敢テ之ヲ論難スルヲ得サルモノトス然ルニ本案上告論旨タル唯偏ヘニ原裁判官ノ職權内ニ侵入シテ其事實ノ判定ヲ

非斥シ以テ之ヲ動カサントスルニ過キスシテ一モ治罪法第四百十條各項ニ適合スル理由アラサルノミナラス原裁判官言渡書ヲ監査スルニ亦毫モ不法ノ點アルヲ無クレハ本案上告ハ相立タサルモノトス依テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ  
第二千八百八十一號

○判文(強盜殺人) 明治十六年七月十二日上告  
同 十七年六月廿七日發付

大坂府和泉國日根郡久保村  
百七番地平民醫業

松田 立 貞

明治十六年六月

三十一年四月

右立貞カ被告事件ノ豫審終結故障言渡ニ付明治十六年六月廿二日大坂輕罪裁判所會議局ニ於テ豫審判事カ爲シタル豫審終結言渡ヲ認可シ故障申立ヲ棄却スト言渡シタル判決ヲ不法ナリトシ被告立貞カ上告ヲ爲シタル要旨ハ被告ニ於テ大友新吉ト共謀シ拔刀ヲ携ヘ高居龍齊方ヘ強盜ニ押入り龍齊ニ刃傷シ及同人妻「ヌイ」ヲ切害シタル行爲アルヲナシ然ルニ豫審判事カ其行爲アリトシテ重罪裁判所ニ移ストノ豫審終結言渡ハ即チ越權ノ處分ナルヲ以テ之カ故障ヲ爲シタルニ會議局カ豫審終結言渡ヲ認可シ被告カ其故障申立ヲ棄却シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在リ原檢察官ハ上告不當ニシテ其理由ナキ旨ヲ答辯セリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スル左ノ如シ



本按上告旨趣ノ歸スル處ハ原裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル事實判定ニ對シ其當否ヲ論難スルニ過キスシテ原書類ニ徴スルモ豫審係ニ於テ越權ノ處分アルト認ムル廉ナキヲ以テ原會議局カ其理由ヲ付シ豫審言渡ヲ認可シタルハ至當ニシテ毫モ瑕瑾アルコトナシ到底該上告ハ治罪法條四百十條外ニ涉リ上告ノ原由ナキモノトス因テ同法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

第二千八百八十二號

○判文(竊盜) 明治十六年六月十二日上告  
同 十七年六月廿七日發付

神奈川縣相摸國高座郡堤村

平民市右衛門二男農業

石井淺次郎

明治十六年五月

二十年二月生

神奈川縣相摸國高座郡下寺

尾村平民喜右衛門三男農業

齋藤惣次郎

明治十六年五月

十七年二月生

右淺次郎惣次郎カ被告事件ニ付明治十六年五月三十日横濱輕罪裁判所ニ於テ摸樣アル竊盜

ノ事實アリト認メ刑法第三百六十八條同第三百六十九條同第三百七十六條ニ依リ同第九十九條同第八十一條同第八十五條ニ照シ三月二十二日ノ重禁錮ニ處シ仍ホ惣次郎ニ對シテハ同第八十條ヲ適施シ一月二十六日ノ重禁錮ニ處シ各六月ノ監視ヲ附加スト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ檢事補濱崎義雄ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ原裁判所ハ減等法ヲ誤リ淺次郎ニ對シ自首宥恕ヲ通シテ二等ヲ累減シ惣次郎ニ對スルモ亦同轍ニ併テ三等ヲ累減シタルハ即チ擬律錯誤ニ係ル裁判ナリト云ヒ破毀アリタシト要求シ

對手人被告石井淺次郎齋藤惣次郎ハ答辯セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

刑法第九十九條第二項ニ但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ストアリテ其特別及ヒ從犯未遂犯罪ノ如キ其加減シタルモノヲ本刑ト定メ其本刑ヨリ減等スヘキモノナルモ刑法第一編總則中ニ掲クル所ノ一般ノ加重減輕ハ本刑ヨリ通シテ累減スヘキモノタルコト明カナリトス之カ原裁判言渡ヲ審閱スルニ被告淺次郎惣次郎ハ自首及ヒ宥恕減輕ニ係ルモノナレハ共ニ一般ノ減輕ナレハ刑法第三百六十九條ノ本刑ヨリ二等又ハ三等ヲ減シタルハ允當ナル裁判ニテ擬律錯誤ニアラサルナリ因テ上告ノ趣旨効ナキモノト判定ス

以上ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

第二千八百八十三號

○判文(竊盜) 明治十六年七月五日上告  
同 十七年六月廿七日發付

新潟縣越後國北蒲原郡蓮瀉

新田民五郎長男平民舟乘渡

世

青山勝太郎

明治十六年六月

二十八年

明治十六年六月九日新潟縣輕罪裁判所ニ於テ右青山勝太郎カ竊盜及ヒ詐欺取財被告事件ヲ審理シ刑法第三百六十六條同第三百九十條ニ依リ二罪俱發ナルヲ以テ同第三百條第三項ニ照シ所犯情狀最重キ竊盜ノ罪ヲ論シ刑法第三百六十六條ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處シ尙ホ同第三百七十六條ニ照シ六月ノ監視ニ付ストノ言渡ニ對シ被告青山勝太郎カ上告ヲ爲シタルノ要旨ハ無罪者ヲ以テ有罪者ト爲シ且情狀ノ重キハ第三百九十條ナルニ三百六十六條ニ問ハレタルハ錯誤ナリ又被告人カ無罪ノ證據充分之レアルヲ以テ其手續ヲ申供セント欲セシモ原豫審公判廷共ニ差留メラレ辯護人ノ要求ヲ採用セス小島彌太郎カ口供ノミヲ採用シ判決ヲ爲シタルハ不當ナリト謂フニ在大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ之レヲ要スルニ三點ニシテ其一ハ無罪者ヲ以テ有罪者ト爲シ又ハ刑法第三百六十六條ノ罪ヲ以テ情狀重シトシタルハ不服ナリト論告スレトモ罪狀ノ輕重ヲ量定シテ刑ヲ適施スルハ承審官ノ職權ニシテ其適施ニ對シテハ他ヨリ之レヲ非難スルコトヲ得ス其二辯

護人ノ請求ヲ採用セスト論告スレトモ訴訟書類ヲ閱スルニ採用ナキニ依リ異議ノ申立ヲ爲シタルノ證據ナキノミナラス曾テ請求シタリシノ證據モアラサレハ漫ニ不服ヲ唱フルノ理由ナキハ論ヲ埃ダス其二ハ原判官採證ノ當否事實ノ判定ニ對シ彼是論難スルニ在レトモ證據ノ取捨事實ノ判定ハ亦承審官ノ職權ニシテ其職權ヲ以テ爲シタル判定ハ他ヨリ之レヲ左右スルコトヲ得サルモノト到底本案上告ハ治罪法ニ定メタル上告ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ適當セサルモノナルヲ以テ同法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之レヲ棄却スルモノナリ

第二千八百八十四號  
○判文(竊盜)明治十六年六月十五日上告  
同 十七年六月廿七日發付

栃木縣下野國下都賀郡武井  
村平民戶長

關 彌 助

明治十六年五月

三十八年

右彌助カ監守盜被告事件ニ付明治十六年五月二十六日栃木重罪裁判所ニ於テ犯罪ノ證據充分ナラストシテ治罪法第四百一條ニ依リ無罪且放免スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事楠原義則カ上告シタル要領ハ第一本件ノ金百貳拾八圓拾錢ハ賍金タル疑ヲ容ル可キ者ニ非然ルニ之ヲ論究セスシテ只其包紙ニ記シタル文字ノ被告カ自筆ト筆勢ノ異ナルニ固着シ証憑充分ナラストシテ無罪ヲ言渡シタルハ不當ノ裁判ニシテ事實理由ニ齟齬アリ第二該金

員ハ關「カ子」カ補填シタルコトハ訴訟關係人中一モ供述シタル者アラサルニ擅横ニモ「カ子」カ補填セシ者ト認定シタルハ即チ越權ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ對手人被告彌助ハ原裁判至當ニシテ上告ノ理由ナルコトヲ答辯セリ

爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事池上三郎ノ意見及ヒ代言人小久保長吉ノ陳辯ヲ聽キ審理判決スル左ノ如シ

凡ソ證據ヲ取捨シテ事實ヲ判定スルハ承審官ノ職權ニ在テ漫ニ之ヲ非難スルヲ得サルモノナリ然ルニ原判文ニ掲載シタル事實ノ理由ハ察然トシテ齟齬アルコトナシ上告旨趣ノ齟齬トスル所ハ檢察官ノ信認スル事實ト判定ノ事實ト齟齬スルト云フニ外ナラスシテ如斯ノ判定ハ判官ニ任從スル所ノ職權内ニアレハ之ヲ不當ト云フヲ得ス而シテ其金員ノ如キハ原書類ニ徴スルニ「カ子」カ手ヨリ出タルモノ、如キ事蹟ノアルアリテ殊ニ被告カ竊取シタリトノ確證ナキヲ賭レハ「カ子」カ補填シタリト認定シタルモ架空ノ認定ニアラスシテ推理上ノ然ラシムル處ナレハ之ヲ以テ越權ノ處分ト爲ス可キモノニ非ス故ニ該上告ハ一モ其理由ナキモノト判定ス以上ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ則リ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第二千八百八十五號

○判文(竊盜) 明治十六年十二月三日上告  
同 十七年六月廿七日發付

和歌山縣紀伊國那賀郡北大井  
村平民

前田常太郎

明治十六年十月  
二十五年

右常太郎カ被告事件ニ付キ明治十六年十月十九日和歌山輕罪裁判所ニ於テ被告ハ田中吉造カ所有山林ノ薪柴ヲ盜伐シ之ヲ結束スルノ際右吉造ニ見咎メテレタルヲ以テ其薪柴ヲ其場ニ差置キ逃走シタルモノトシ刑法第三百七十三條同第三百七十二條ニ依リ仍ホ同第三百十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ二十二日ノ重禁錮ニ處シ且ツ同第三百七十六條ニ從ヒ六月ノ監視ニ付スト言渡タル處同裁判所檢事千葉貞幹ハ其裁判ヲ不法トシ上告ヲ爲シタル要領ハ被告カ行爲ハ既ニ竊盜ノ目的ヲ遂ケタルモノナルニ原裁判所ニ於テ之ヲ未遂犯ト爲シ刑法第三百十二條ヲ適用シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ所謂擬律ノ錯誤ニ係ルモノナリト云フニ在リ

茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ本件被告カ行爲ハ原裁判官ノ判示セル所ニ據レハ其竊盜既遂犯タルコト論ヲ待タスト爲ス何トナレハ他人ノ所有ニ係ル薪柴ヲ盜伐シ之ヲ結束シ居タルノ事實ハ是即チ既ニ竊取ノ目的ヲ遂ケタルモノナレハナリ然ルニ原裁判官ニ於テ此事實ヲ將テ未遂犯トシ刑法第一百十二條ヲ適用シタルハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニ涉ル不法ノ裁判ナリトス此ヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

前田常太郎

右被告人カ行爲ハ原裁判官ノ判定スル所ニ依リ明確ナルヲ以テ刑法第三百七十三條山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ云々同第三百七十二條田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス同第三百七十六條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ依リ一月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ニ付ス

第二千八百八十六號

○判文〔竊盜〕明治十七年一月廿三日上告  
同 年六月廿七日發付

岐阜縣美濃國郡上郡法師丸  
村平民農

古川 辰五郎

明治十六年十二月  
十三年九ヶ月

右辰五郎カ被告事件ニ對シ明治十六年十二月二十二日岐阜縣裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年八月十二日古田文助方へ忍入金五圓四十錢ヲ竊取シ及ヒ同年十一月二十八日再ヒ同家へ忍入金五圓拾圓ノ紙幣ヲ一旦手ニ取リタルモ餘リ大札故其儘差置キタルモノニテ第一ノ所爲ハ刑法第三百六十六條ニ該ルモ十六歲未滿ニシテ是非ノ辨別アリテ犯セシモノニ付同第八十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ未タ發覺セサル前自首スルヲ以テ同第八十五條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ通シテ三等ヲ減シ第二ノ所爲ハ未遂犯ナルヲ以テ同第三百六十六條ノ刑ニ一等ヲ減シ十六歲未滿ナルニ依リ前條ニ照シ二等ヲ減シ二罪俱發ナルヲ以テ同第百條末項ニ照シ情狀重キ第二ノ罪ニ從ヒ重禁錮二月ニ處シ仍ホ同第三百七十六條ニ依リ六月ノ監視ニ付ス又民事原告人ノ要求スル金五圓四十錢ハ賠償ス可シト言渡シタル裁判不當ナリトシ原裁判所檢事補野田鎌造ハ上告セリ其要領ハ被告カ第二ノ所爲ハ鎖鑰ヲ開キ入りタルモノニ付刑法第三百六十八條及ヒ第三百六十七條ヲ適用スヘキモノナルニ原裁判爰ニ出サル耳ナラス私訴ニ對シテ其判決ヲ與ヘサリシハ共ニ失當ノ處分ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云ニ在リ對手人被告古川辰五郎ハ原裁判ハ至當ニシテ私訴ノ判決モ共ニ與ヘラレタルモノナレハ右上告之非理ナル旨ヲ答辯セリ

因テ治罪法第四百二十五條ノ式ニ從ヒ之レヲ審按スルニ上告者於テ被告カ第二ノ竊盜ハ鎖鑰ヲ開キ邸宅ニ入りタルモノナリト主張スレモ果テ然ルヤ否ヤノ事實ヲ認定スルハ原裁判所ノ特權ニシテ已ニ其事實ナク忍ヒ入りタルモノト認メシ以上ハ他ヨリ之レヲ非難シ得ヘキ權利ナシ又私訴ニ對シ判決ナキ旨喋々スルモ檢察官ニ於テ私訴ニ關シ上告爲シ得ヘキモノニアラサルヲハ治罪法第四百十條及ヒ第四百十二條ニ據テ了然タリ況ヤ原判文ヲ閱スレバ正シク其判決ナシアルニ於テナヤ

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本按上告ハ總テ棄却スルモノ也  
第二千八百八十七號

○判文〔詐欺取財〕明治十六年十二月三日上告  
同 十七年六月廿七日發付

廣島縣廣島區竹屋町平民農

明治十六年十月

三十七年

右四郎兵衛カ詐欺取財被告事件ニ付明治十六年十月廿七日廣島輕罪裁判所ニ於テ被告ハ和田郁次郎ト謀リ船岡忠五郎ノ爲メ地所買入レノ媒介ヲナスニ方リ實價外ノ金員ヲ騙取シタルモノトシ刑法第三條第二項ニ照シ新舊ノ法ヲ比照シ新法ノ輕キニ從ヒ刑法第三百九十條第三白九十四條第百四條ニ依リ仍ホ明治十四年第八十一號公布ニ照シ二年ノ重禁錮ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告四郎兵衛ハ上告ヲナシタリ其要領ハ和田郁次郎カ一旦竹村「タメ」等ヨリ買入レタル地所ヲ船岡忠五郎ニ於テ買受クル際之カ紹介ヲナシタルマテナレハ郁次郎カ初メ「タメ」等ヨリ買受ケタル代價ヨリ之ヲ高價ニ忠五郎ニ賣渡シタルモ是乃テ賣買上ノ利益ヲ得タルニ止リ法律ノ制裁ヲ受クヘキニアラス又暫ク之ヲ忠五郎ト「タメ」等トノ間ニナシタル賣買ニ立入りタルモノトスルモ忠五郎カ四百八十圓ニ買入レタルヲ二百二十圓ノミチ地主「タメ」ニ渡シタルモノトセハ「タメ」ヲ詐欺シタルモノト云フヘクシテ忠五郎ヲ詐欺シタルニアラサルヘシ然ルニ原裁判所ニ於テ承諾上買受ケタル忠五郎ヲ欺キ金員ヲ騙取シタルモノト認定シタルハ事實理由ノ齟齬アルノミナラス被告ノ行爲タル既ニ法律ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラストスルモハ刑法第二條ニ基キ免訴スヘキ筈ナルニ原裁判爰ニ出ス刑法第三百九十條等ヲ適用セラレタルハ擬律錯誤ニ涉ルモノナリト云フニアリ原裁判所檢事補岡村登作ハ原裁判允當ニシテ上告ノ原由ナキヲ以テ棄却アリタキ旨答辯セ

爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ判決スル左ノ如シ  
被告カ上告ノ旨趣タル之ヲ要スルニ曩ニ公判廷ニ於テナシタル自説ヲ執リ再ヒ此ニ論告シ以テ原裁判ニ瑕瑾アリト主張スルモノニ過サレハ即チ原裁判官ノ職權内ニ侵入シ其認定シタル事實ヲ動かサントスルモノニシテ一モ治罪法第四百十條ニ規定シタル各項目ニ適合スルモノナキヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス况ヤ原裁判官言渡書ヲ監査スルモ亦毫モ間然スル所ナキニ於テテヤ依テ同法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也  
第二千八百八十八號

○判文(詐欺取財) 明治十六年十二月十八日上告  
同 十七年六月廿七日發付

大分縣豊後國大分郡新貝村  
平民

秦 長次郎

明治十六年十一月  
三十七年

右長次郎カ詐欺取財被告事件ニ付明治十六年十一月二十二日杵築治安裁判所ニ開キタル大分輕罪裁判所ニ於テ被告ハ佐藤題吉カ緒方光平ヲ欺キ金員ヲ詐取スルノ情ヲ知リテ之ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタルモノトシ刑法第三百九十條第三百九十四條第百九條ニ依リ正犯題吉ノ受クヘキ刑即右第三百九十條ノ刑ニ一等ヲ減シ仍ホ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同

第九十條ニ照シ二等ヲ減シ二十二日ノ重禁錮ニ處シ一圓五十錢ノ科料ヲ附加シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事代理警部補千葉新一郎ハ上告ヲナシタリ其要領ハ刑法第七十四條ニ依レハ附加罰金ハ本刑ニ從テ加減シ得ルモ減盡シテ科料ニ移ルヲ許サ、ル法意ナルコトハ該條ニ若シ減盡シタルキハ止マ主刑ヲ科ストアルニ因リ明瞭ナリ故ニ本案被告ニ科スヘキ附加罰金ノ寡數ハ減盡シタルモ其多數ハ十五圓ナルヲ以テ二圓以上十五圓以下ノ範圍内ニ於テ相當ノ罰金ヲ附加スヘキハ當然ナルニ原裁判茲ニ出テス重禁錮ノ刑ニ附加スルニ科料ヲ以テシタルハ全ク右第七十四條ノ法意ニ背キ從テ治罪法第四百十條第十項ニ適合スル擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ對手人被告長次郎ハ檢察官上告ノ趣旨書ニ對シ異存ナキ旨ヲ答辯セリ

爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ踐行シ之ヲ審按スルニ抑附加罰金ハ主刑ニ從テ加減シ得ルモ之ヲ科料ニ降シ得ルノ正條ナクシテ而シテ又罰金ノ名稱ハ必ス二圓以上ニ限レルモノナルコトハ法律ノ大要ナリトス故ニ若シ之ヲ減輕スルニ其多數仍ホ罰金ノ範圍ヲ出テサル場合ニアリテハ乃チ二圓以上ノ罰金ヲ以テ之ヲ附加スヘキモノニシテ科料ヲ附加スルコトヲ得サルモノトス是ヲ以テ本按ノ如キ其寡數一圓九十五錢以下ニ及フモ多數尙ホ十五圓ナルキハ乃チ二圓以上十五圓以下ノ範圍内ニ於テ相當ノ罰金ヲ附加スヘキハ當然ナルニ原裁判爰ニ出テス重禁錮ノ刑ニ科料金一圓五十錢ヲ附加シタルハ上告論旨ノ如ク治罪法第四百十條第十項ニ適合スル擬律錯誤ノ裁判ナリトス依テ同法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ之ヲ判決スル左ノ如シ

秦 長次郎

被告ノ行爲ハ原裁判所ニ於テ認定シタル所ニヨリ明確ナルヲ以テ刑法第三百九十條人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪トナシ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス同第三百九十四條前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス同第九條重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス云々トアルニ從ヒ同第七十條第七十四條ニ照シ正犯ノ刑即右第三百九十條ノ刑ニ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下ノ重禁錮三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキ處所犯情狀原諒スヘキ處アルヲ以テ仍ホ同第九十條ニ照シ二等ヲ減シ二十二日以上一年六月以下一圓五十錢以上十五圓以下ノ範圍内ニ於テ二十二日ノ重禁錮ニ處シ二圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付スル者也

○判文(詐欺取財) 明治十六年六月六日上告  
十七年六月廿七日發付

宮城縣磐城國伊具郡佐倉村  
百七十八番地平民農業

高野 珍之助

明治十六年五月

三十二年一月

四五九

明治十六年五月十四日大河原治安裁判所ニ開ク仙臺輕罪裁判所ニ於テ右高野珍之助カ被告事件ヲ審理シ所犯新法實施前ニ在ルヲ以テ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ新法ニ從ヒ刑法第三百九十條同第三百九十四條同第三條第二項明治十四年第八十一號公布第二條第六條第十條ニ照シ重禁錮一月十日ニ處スヘキ所犯罪滿三年ヲ歷テ發覺シタルヲ以テ舊惡減免例ニ照シ其罪ヲ全免ス但犯罪ニ因テ得タル證書ハ刑法第四十三條ニ依リ官ニ沒収ストノ言渡ニ對シ原檢察官宮城縣警部黒田良正被告高野珍之助ハ各自上告ヲ爲シタリ原檢察官上告ノ要旨ハ第一原判文ニ明治十六年三月中幸三郎ヲ欺罔シ騙取セシ証書ヲ以テ金員ヲ詐取セントシタル事實ヲ明示セス第二新舊法ヲ比照シ舊惡減免例ニ照シ其罪ヲ全免セシハ擬律ノ錯誤ニシテ不法ノ裁判ナレハ破毀ヲ求ムト云フニ在リ被告人上告ノ要旨ハ第一原裁判ハ預リ金證書ヲ騙取シタル者トノミ判定シ原檢察官カ請求シタル金圓ヲ詐取セントシタル者ナリトノ事件ニ付キテハ判決ヲ爲サス第二証書ヲ代筆シタルハ岸浪長左衛門ナルコトハ被告ノ自陳事實參考人ノ陳辯ヲ以テ明瞭ナルニ何人ノ書記シタルモノナリヤ其事實ノ理由ヲ付セス且該五圓金ハ惠與ニ係ルモノナルニ離縁ノ諸入費ナリト判定シ第三舊法詐欺取財條ニ依リタルハ未得財犯ノ如ク新法ニ於テ刑法第三百九十條ニ依リタルハ既遂犯ナルカ如シ云々第四眞實ナル事實ヲ証明スヘキ岸浪長左衛門ノ在ル有ルニ拘ハラス無効ナル事實參考人ノ陳述ヲ採用シ證書ヲ騙取シタル者ト判定シタルハ治罪法第四百十條第七第九第十第十一ノ場合ニ相當スル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ檢事長渡邊驥ノ意見ヲ聽クニ原判文ニ其犯罪發覺ノ時日ヲ明示セス又明治十二年十二月中被害者

ヲ瞞着シテ作爲シタル金員預リ證書ニ其印影ヲ騙取シ仍ホ十六年三月ニ至リ更ニ該金員ヲ詐取セン爲メ訴願セシ事實ハ原公判始末書等ニ徴シ證據明白ナルニ判文中其月日等ヲ示サス單ニ舊法中ノ所爲ノミヲ擧ケ處斷セシハ不法ノ裁判ナルヲ以テ附帶ノ上告ヲ爲シ破毀ヲ求ムル旨開申セリ依テ判決ヲ爲スコト左ノ如シ刑ノ言渡ヲ爲スニハ事實及モ法律ニ依リ其理由ヲ明示スヘシトハ治罪法第三百四條ニ規定スル所ニシテ期滿免除等時日ニ因テ利害ノ關係アル事件ノ如キハ必ス其年月ヲ詳記セサルヘカラス本案被告人カ明治十二年十一月中被害者幸三郎ヲ瞞着シテ取得タル證書ヲ以テ金額ヲ得ンカ爲メ詞訟ヲ提起シ犯罪ノ發覺シタルハ明治十六年三月中ニ在ルコトハ公判始末書等ニ徴シテ明確ナリ然ニ原判文ニハ止マ(明治十二年十一月二十八日幸三郎宅ニ相越シ云々)預リ金證書ヲ騙取シタル者ト判定ス)トノミ記載シ其詞訟ヲ提起シ犯罪ノ發覺シタル月日ヲ擧示セサルヲ以テ其犯罪ハ新法實施前ニ屬スルモノナル乎又ハ實施後ニ係ルモノナル乎其事實ヲ識別スルニ由ナキノミナラス從テ法律適用ノ當否モ監査スルニ由ナシ是則チ事實ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セサル違法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ被告事件ヲ福島輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

第二千百九十號

○判文(受寄財産費消)明治十六年十一月廿八日上告  
同 十七年六月廿七日發付

長野縣信濃國西筑摩郡上松

村祠堂士族

馬島五郎兵衛

明治十六年十一月

四十八歲八ヶ月

右五郎兵衛カ被告事件ニ對シ明治十六年十一月六日福島治安裁判所ニ開ク長野輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十二年八月中自カラ支配シアル諏訪社ニアリシ太鼓一箇ヲ擅ニ賣却シ得ル所ノ代金三圓五十錢ヲ自用ニ供セシモノト認定シ刑法第三條末項ニ依リ之ヲ舊法ニ觀ルニ新律綱領雜犯律費用受寄財産條ニ照シ坐贓ヲ以テ論シ改定律例改正七贓例圖ニ依リ懲役十日ニ當ルヲ以テ之ヲ舊惡減免例圖ニ照スニ已ニ三年ヲ經過シタルモノニ付其罪ヲ全免スヘキモノトス又新法ニ於テハ刑法第三百九十五條ニ依リ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノトアレハ治罪法第九條及ヒ第十一條ニ照セハ已ニ公訴期滿免除ヲ得タルモノニ付同法第三百五十八條ニ從ヒ被告ヲ免訴放免スト言渡タル裁判不當ナリトシ原裁判所檢察官警部補宮尾芳太郎ハ上告セリ其要領ハ被告ノ所爲ハ新法ニ於テ刑法第三百九十五條ニ該ルハ勿論ナレハ舊法ニ於テハ賊盜律監守自盜條ニ依リ懲役八十日ニ該ルモノニ付明治十四年第八十一號布告ニ照シ刑法ニ從ヒ處斷セサルヘカラサルニ原裁判爰ニ出テス又新法實施以前ノ犯罪ニ係ル期滿免除ハ明治十四年十二月三十一日迄中斷シタルモノト同視スヘキモノトアルニ已ニ三年ヲ經過セシトテ舊惡減免例及ヒ治罪法第十一條ニ照シ之ヲ免訴シタルハ共ニ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云ニ在リ

對手人被告馬島五郎兵衛ハ原裁判適當ニシテ上告ノ不理ナル旨答辯セリ  
 因テ治罪法第四百二十五條ノ式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ原裁判所カ被告ノ罪ニ對シ舊惡減免例圖ヲ適用セシハ至當ナリト雖モ其看守ニ係ル神社ノ太鼓ヲ恣擅ニ賣却シ代金費消シタルハ舊法ニ於テ賊盜律監守自盜條ニ該ルハ勿論仍ホ新法實施以前ノ犯罪ニ係ル期滿免除ハ明治十四年十二月三十一日迄中斷スヘキモノタルニ原裁判ノ爰ニ出サリシハ不當ニシテ治罪法第四百十條ノ第十ニ適當スル破毀ノ原由アル裁判ナリトス  
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ本院於テ直チニ其裁判爲スノ左ノ如シ

馬島五郎兵衛

原裁判所カ認定シタル事實ハ新法實施以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條二項ニ從ヒ之ヲ舊法ニ觀ルニ賊盜律監守自盜條及ヒ改正七贓例圖ニ照シ贓金一圓以上懲役八十日已ニ三年ヲ經過シ發覺シタルモノニ付舊惡減免例圖ニ照シ其罪ヲ全免スヘキモノトス又新法ニ於テハ刑法第三百九十五條ノ上段ニ依リ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ該ルヲ以テ輕キ舊法ニ從ヒ其罪ヲ全免ス

第二千九百九十一號

○判文(抵當品賣却)明治十六年六月二十日上告  
 同十七年六月廿七日發付

石川縣能登國鹿島郡租濱村

平民農



明治十六年五月

二十二年二月

明治十六年五月廿八日金澤輕罪裁判所七尾支廳於テ被告又五郎カ私證書變造並詐欺取財事件ヲ審理シ刑法第三百九十三條第二項第三百九十四條第三百九十四條第二項拾條初項第二百十二條及第百條末項ニ依照シ一ノ重キ第三百九十三條第三百九十四條第三百九十四條ノ刑罰金範圍ニ於テ重禁錮六月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ本件土藏壹棟ハ所有地建家廡等ト共ニ合本會社ヘ書入抵當ト爲シタルモノナレト借用金一時償却ニ途ナク依テ會社員谷九平ヘ協議シ大橋幸右衛門ヘ賣渡ノ内約ヲ爲シ而シテ土藏柱朽腐セシ所アルヲ以テ右幸右衛門ノ乞フニ任セ最初約定ノ金高ヨリ貳拾圓ヲ減シ五拾四圓ニ手附金三拾圓引去リ貳拾四圓ニ描改セシ譯ニテ又タ二月五日ノ引渡期限ナルモ賴談ノ上六月五日ト變換シ且ツ同日ニ至ラサルモ抵當品消込ミノ上ハ速ニ可引渡答ニテ〔抵當明キ次第可相渡〕トノ約定證ヲモ差入レ置キタル次第ナリ然ラサレハ約定證ハ右幸右衛門ノ手ニアレバ之ヲ増減變換セント欲スルモ決シテ爲シ能ハサルモノニテ被告ノ所爲ハ罪トナラサルヲ明確ナルニ幸右衛門カ土藏ヲ毀テタル非ヲ掩ハシカ爲メノ偽言ヲ偏信シ刑ヲ言渡サレシハ不法ナリト云フニアリ對手人檢事補枸杞狀太郎ハ上告旨趣ノ理ナキヲ述ヘ原裁判適當ナリト答辯セリ

大審院於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事澄川拙三ハ被告人ノ上告ハ其効ナキモ原判文ヲ

閱スルニ土藏賣渡證及ヒ約定書ヲ變換シタル事實ヲ掲記シタルノミニシテ其行使セシ事實理由ヲ明示セサルハ不法ノ裁判ナルヲ以テ附帶上告シテ原裁判全部ノ破毀ヲ求ムト因テ審按スルニ被告カ上告ノ理由ハ土藏賣渡證書及約定證ヲ描改セシハ一ハ大橋幸右衛門ノ請フニ任セ一ハ被告ヨリ依頼シテ改メタル義ニシテ無故變造セシモノニアラスト云ニアレト要スルニ事實判定上ノ當否ヲ非難シ覆審ヲ求ムルニ過キスシテ上告ヲ爲シ得ルノ原由ナケレハ之ヲ棄却スト雖モ原判文ニ據レハ被告ハ先キニ借金抵當ニ他ヘ書入置タル土藏壹棟ヲ事實ヲ隱蔽シ代金七拾四圓ニ大橋幸右衛門ヘ賣渡シ明治十六年二月五日引渡スヘキ約定ノ處返金能ハサルヨリ其非ヲ掩フ爲メ右幸右衛門カ所持ノ證書ニ記載ノ金高及月日ヲ書改メ若クハ加筆シ仍ホ同人所持ノ約定書中抵當云々ノ脇ニ「あさすたい」ト書加ヘ云々トノミ掲載シテ私書變造ノ點ニ付キ其行使シタル事實ノ理由毫モ明示アラサルハ附帶上告旨趣ノ如ク即チ事實言渡ノ理由ヲ明示セサルモノニテ擬律ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナキ不法ノ裁判ナリトス固テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ富山輕罪裁判所ヘ移シ更ニ審判ヲ受クヘキ旨ヲ言渡ス者也

第二千九百九十二號

○判文〔植物毀損〕明治十六年七月五日上告  
同 十七年六月廿七日發付

新潟縣越後國古志郡田井村

平民農

菊池作右衛門

明治十六年五月  
七十九年

明治十六年五月三十一日新潟輕罪裁判所長岡支廳會議局ニ於テ右菊池作右衛門カ植物毀損被告事件豫審終結ノ言渡ニ對スル故障ノ申立ヲ審理シ證據徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任從シ之レヲ取捨採擇スルハ其職權ナレハ豫審掛ニ於テ巡查ノ搜索書ヲ以テ証憑充分ト確信シ新潟輕罪裁判所長岡支廳ニ移シタルハ越權ノ處分ニ非ス豫審終結ノ言渡ヲ認可ストノ言渡ニ服セズ被告菊池作右衛門カ上告シタルノ要領被告ハ植物ヲ毀損シタル覺ナク他ニ確乎タル明証アルニ非ス無効ナル巡查金房龜吉ノ搜索上申書ヲ以テ證據充分ナリトシ實地臨檢ノ請求ヲ採用セズ事實ノ有無ヲ審究セス一己ノ心証臆斷ヲ以テ被告ヲ有罪者ト認定シ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シ又會議局ノ之ヲ認可シタルハ其ニ法律ニ背戾シタル處分ナルヲ以テ上告スト謂フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スノ左ノ如シ

上告ノ主旨ハ二點ニシテ其一點ハ巡查ノ搜索申立書ニ依リ證據充分ナリトシ一己ノ心証臆斷ヲ以テ有罪者ト認定セラレタルハ不服ナリト謂フト雖モ諸般ノ證據徵憑ヲ集取シ犯罪ノ有無ヲ判定スルハ治罪法第四百四十六條ニ於テ之ヲ事實裁判官ニ任從シタル所ナレハ其職權ヲ以テ爲シタル判定ハ他ヨリ之ヲ非難スルコトヲ得サルモノトス其二ハ實地臨檢ノ請求ヲ許サレバ不服ナリト論告スレモ治罪法第五百十八條ニ豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルキハ云々檢証ヲ爲ス可シトアリテ豫審判事ニ於テ必要ト認メサルニ因リ檢臨ノ請求

ヲ採用セザリシモノナレハ之ヲ以テ越權ノ處分ト謂フコトヲ得ス故ニ原會議局カ豫審終結ノ言渡ヲ認可シタルハ相當ノ判決ニシテ毫モ不法ト認ムヘキノ點アルニ非ス要スルニ上告ノ論旨ハ治罪法ニ定メタル上告ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ適當セサルヲ以テ同法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

第二千九百九十二號

○判文(酒造稅則犯) 明治十六年五月廿八日上告  
同 十七年六月廿七日發付

長野縣信濃國小縣郡長瀬村

平民

九 山 龜 次

明治十六年五月

三十四年

右龜次カ酒造稅則違犯被告事件ニ付明治十六年五月十一日長野輕罪裁判所上田支廳於テ酒造稅則附則第一條第八條ニ依リ罰金三圓ニ處シ犯罪ニ係ル燒酎及蒸溜器械共沒收スト言渡シタル裁判ニ對シ蒸溜器械沒收ノ言渡ヲ不當トシ原檢事補石田己六ハ上告セリ其要旨ハ被告カ自家用料ノ燒酎製造ノ用ニ供シタル蒸溜器械即釜胴ノ二品ハ久保田作平ノ所有ナルヲ判然ナレハ沒收スヘキモノナラス抑犯罪ノ用ニ供シタル物件沒收ノ効ハ懲戒ノ目的ニテ所有權ノ屬セサルモノヲモ犯人ニ對シ沒收スルヲ得ス酒造稅則第八條モ所有ノ自他ヲ問ハス沒收スヘシトノ精神ニハアラサルヘシ然レハ刑法第五條第二項ニ依リ同法第四十四條ニ從

ヒ沒收スヘキ限ニアラス故ニ原裁判ハ擬律錯誤ナリト云フニアリ  
 對手人被告龜次ハ答辯セス大審院於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審按ス  
 ルニ上告ノ理由ハ被告カ犯罪ノ用ニ供セシ蒸溜器械ハ他人ノ所有ニ係ルヲ以テ沒收スヘキ  
 モノナラスト云フニアリ依テ公判始末書ヲ閱スルニ該器械ハ久保田作平カ所有ナリト陳述  
 シ被告ヲ審問スルモ無相違旨ノ申立アルニモ拘ハラス判文ニ其事實ヲ示サスシテ之レヲ沒  
 收スト言渡シタルハ事實理由ノ不備ナルヲ以テ治罪法第四百十條第九項ニ適合スル破毀ノ  
 原由アルモノトス  
 右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ新潟輕罪裁判所高田支廳  
 へ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

第二千九百九十四號

○判文〔酒造稅則犯〕明治十六年四月三十日上告  
 同 十七年六月廿七日發付

福島縣岩代國伊達郡粟野村

平民農業

池田友吉

明治十六年三月

三十八年三月

右友吉カ酒造稅則違犯被告事件ニ付明治十六年三月二十七日福島輕罪裁判所於テ明治十三  
 年第四十號酒類稅則附則ニ違背ノ者ニ付本則第二十九條ニ依リ濁酒一石四斗一升六合及其

器械トモ沒收シ免許稅二倍ノ科料ニ處スヘキ處明治十四年第七十二號布告ニ照シ罰金六十  
 圓ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ檢事補加治順之ハ上告セリ其要領ハ原裁判所カ本案  
 ナ斷スルニ酒造稅則本則二十九條ニ依リ處斷シタルハ不當ナリ被告カ所爲ハ酒造稅則附則  
 第三條ノ規定ニ抵觸シタルモノナレハ同則第八條ニ照シ處分スヘキヲ裁判茲ニ出サルハ擬  
 律錯誤ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云ニアリ

對手人被告池田友吉ハ答辯書差出サス

大審院於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽審按スルニ被告カ所爲ハ自家飲料ノ  
 濁酒一石以上ヲ釀造シタルモノナレハ酒造稅則附則第三條ニ違背シタルモノナルヲ以テ上  
 告論旨ノ如ク同則第八條ニ照シ處斷スヘキヲ原裁判所ハ酒造稅則第二十九條ニ依リ裁定シ  
 タルハ擬律錯誤ニ付治罪法第四百十條十項ニ適合スル破毀ノ原由アルモノトス依テ同法第  
 四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直ニ判決スル左ノ如シ

池田友吉

右ノ理由ナルヲ以テ被告カ所爲ハ原裁判所ノ認定シタル事實ニ依リ酒造稅則附則第八條ニ  
 照シ三圓以上三十圓以下ノ罰金範圍ニ於テ罰金十五圓ニ處シ殘存ノ濁酒及ヒ其器械トモ沒  
 收ス

第二千九百九十五號

○判文〔賣藥規則犯〕明治十六年七月六日上告  
 同 十七年六月廿七日發付

秋田縣羽後國南秋田郡茶町

四六九

菊ノ町平民商業

升 谷 龜 藏

明治十六年六月

三十三年二月月

右龜藏カ被告事件ニ付明治十六年六月七日秋田輕罪裁判所ニオイテ審理ノ未賣藥規則違犯ノ事實アリト認メ同則第一條ニ依リ十圓ノ罰金ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告ヲ爲シタリ大審院ニ於イテ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ審按スルニ本案原裁判言渡ハ明治十六年六月七日ニアリテ同六月八日上告申立チ爲シタルモノナレハ治罪法第四百十七條ノ規則ニ遵ヒ同六月十三日マテニ上告趣意書ヲ差出スヘキモノナルニ之レカ期限ヲ經過シ同六月十五日附ヲ以テ之レヲ差出シタルモ治罪法第二十條ニ依リ上訴權ヲ拋棄セシモノニテ成立、サル上告ナリト判定ス以上ノ理由ニ原キ上告ヲ棄却スル者也

第二千九十六號

○判文〔官吏侮辱〕同 明治十六年四月十八日上告  
十七年六月廿八日發付

福島縣磐城國田村郡遠山澤

村平民戶長

大河原源五郎

明治十六年一月

二十九年七月

侮辱官吏被告事件ニ付明治十六年一月十七日平輕罪裁判所カ刑法第四百一條ニ依リ重禁錮一月ニ處シ罰金二十圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス被告大河原源五郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ巡查中澤民衛ニ對シ侮辱セシコアラサルニ原裁判所ハ告訴人ノ陳述ニ符合セサル証人等ノ供述ヲ證據ト爲シ輒ク有罪ナリト認メ刑ヲ言渡シタルハ事實及ヒ採證ノ法ヲ誤リタル耳ナラス判文ニ法律ノ理由ヲ明示セサルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在リ對手入檢事補村上則敏ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辯駁シ原裁判ハ允當ナリト答辯セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ  
上告ノ理由トスル處ハ專ラ事實ノ有無及ヒ採證ノ當否ヲ陳辯シテ裁判官ノ判定上ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キス抑證據ヲ採擇シテ事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從シタル所ナレハ其判定ノ當否ヲ論難スルモ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スコク得ス又原判文ヲ閱スルニ法律ノ理由ハ明示シアリテ毫モ瑕瑾アルニ非ラス因テ上告ノ旨趣ハ總テ相立タス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却スル者也

第二千九十七號

○判文〔官吏侮辱〕同 明治十六年十月十日上告  
十七年六月廿八日發付

栃木縣下野國下都賀郡合戰

場宿平民

中 島 富 藏

四七一